

課内保存用

※配付厳禁※

# 平成 26 年度 ウチナージュニアスタディー事業 報告書





# 目次

<b>1. 概要</b>	<b>1</b>
(1) ウチナージュニアスタディー事業概要	2
(2) スケジュール	3
(3) 総括	5
(4) プログラム運営実施体制図	6
(5) 制作物など	7
(6) 参加者名簿	8
(7) グループ名簿	10
(8) 講師紹介	11
<b>2. 実施内容</b>	<b>12</b>
(1) 事前学習	13
(2) 学習プログラム	15
(3) アフターイベント	44
<b>3. 参加者感想文</b>	<b>45</b>
(1) 海外参加者	46
(2) 県内参加者	62
<b>4. 参考資料</b>	<b>71</b>
(1) アンケート結果	72
(2) メディア掲載	84
(3) 過去の受け入れ実績	92





## 1.概要

## (1) ウチナージュニアスタディー事業概要

### ① 【事業の目的】

沖縄県の海外移住者子弟と県内の同年代の青少年がともに生活をしながら沖縄の歴史や文化等、自然等を学習する経験を通して、海外県系人子弟の母県・沖縄への理解と絆を深めるとともに、世界のウチナーネットワークを担う次世代を育成する。

### ② 【事業概要】

本事業は、事前学習、学習プログラム及び報告会で構成する。

#### 事前学習（県内参加者及び県内青年リーダーのみ）

- ・平成 26 年 7 月 5 日（土）9：30 ～ 13：00
- ・平成 26 年 7 月 19 日（土）9：30 ～ 13：00

#### 学習プログラム、報告会（最終日）

- ・平成 26 年 8 月 3 日（日）～ 8 月 9 日（土）

#### アフターイベント

- ・平成 26 年 11 月 8 日（土）～ 11 月 9 日（日）

「おきなわ国際交流・協力フェスティバル 2014」内で、パネル展示とワークショップ開催。

### ③ 【参加者】（参加者 33 名＋スタッフ 35 名＝計 68 名）

- ・海外参加者 海外県系人子弟（中学・高校生）15 名
- ・国内参加者 沖縄県内の中学・高校生 16 名
- ・青年リーダー 海外 1 名 県内 1 名
- ・随員スタッフ（沖縄県 2 名・スタッフ 10 名・ボランティア 23 名）計 35 名

### ④ 【学習プログラム概要】

#### ア 自然学習

沖縄の自然や動植物等に触れるアクティビティーにより、自然の大切さを学ぶ。

#### イ 歴史学習

沖縄の歴史的な史跡等を巡り、沖縄の歴史を学ぶ。

#### ウ 芸能、工芸体験学習

沖縄の歴史から生まれた工芸・芸能等の文化を知り、体験する。

#### エ 平和学習

沖縄戦の概要を学び、沖縄が訴える平和を考える。

#### オ 社会学習

沖縄での生活を経験し、沖縄の「今」を知る。

#### カ 移民学習

沖縄における移民の歴史、海外で活躍するウチナーンチュ及びウチナーネットワークの広がりや学び、次世代のウチナーネットワークの担い手としての自覚を持つ。

## (2) スケジュール

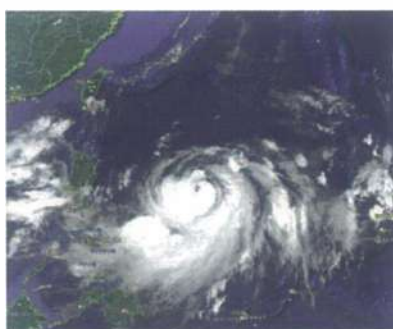
・変更前

★ウチナージュニアスタディー2014全行程		総合学習	移民学習	伝統工芸・芸能体験学習	式典、オリテ等		
		移動	移動	移動	移動		
月日	8/3(日) 1日目	8/4(月) 2日目	8/5(火) 3日目	8/6(水) 4日目	8/7(木) 5日目	8/8(金) 6日目	8/9(土) 7日目
7:00		起床	起床	起床	起床	起床	起床
8:00		7:30 朝食	7:30 朝食	7:30 朝食	7:30 朝食	7:30 朝食	7:30 朝食
9:00	9:00 高志様(田中)荷物預け	8:30 移動 OIC⇒国際通り	8:30 《海外学習Ⅰ》 海外参加者説明会	8:30 《海外学習Ⅱ》 海外参加者説明会	8:30 移動 沖縄自動車道経由 ひめゆり記念館へ	8:30 移動 OIC⇒子どもの国	9:00 《総合学習Ⅱ》 講師:ONC 報告会準備
9:30	9:30 参加者受付 JICA沖縄国際センター (※以下OIC)	9:15 《社会学習Ⅰ》 講師 那覇まらまい	9:30 《歴史学習Ⅰ》 講師 上里 隆史氏 講師 磯の歴史	9:30 《移民学習Ⅱ》 講師:WYUA 世界若者ウチナー チユ大会の企画	10:00 《平和学習》 講師:古賀 悠子氏 ひめゆり遺学 会ひめゆり子ニエ ムシ和歌集コンサート	9:30 《社会学習Ⅱ》 藍染の体験	
10:00	10:00 《オリエンテーションⅠ》 *身置説明、資料配布 *自己紹介 チェックイン	10:45 県庁表敬訪問	11:45 昼食(OIC)	12:00 昼食(ネイチャーみらい館)	13:00 移動 ひめゆり⇒ OIC	12:00 昼食(弁当) 吉民家見学	12:00 昼食(OIC)
11:00	12:00 昼食(OIC)	12:30 昼食(とらばらーま)	12:45 移動 OIC⇒ うるま市キタカホール	13:00 《自然学習》 講師:みくらしりや マングローブ/カヌー体験 農部の楽しさ 生感高	13:00 《ボランティアOIC解散	12:45 移動 子どもの国⇒OIC	13:00 報告会&修了式準備
12:00	13:00 《オリエンテーションⅡ》 *沖繩紹介プレゼン *班係決め	13:15 移動 国際通り⇒OIC	14:00 《伝統芸能学習Ⅰ》 講師 あまわり漁家の会	14:00 移動 OIC 集合	14:00 《英語プログラム》 英語ビーチ(練習中) 参加者企業 直業の思い出を!	14:00 《社会学習Ⅱ》 講師:ONC 振り返り&報告会準備	14:00 《報告会》 *一週間の振り返り *全学発表 *参加者行動宣言
13:00	15:00 《交流プログラム》 (ボランティア企画)	14:00 《移民学習Ⅰ》 講師:ONC アルトゥーロCIR *移民史を学ぶフットラン *アイデンティティー ワークショップ	15:00 許高の阿麻和利 パノスチー・ジツァー 伝統と現代が融合する 新たな芸能	16:00 移動 浦添⇒全 武町	17:00 《伝統芸能学習Ⅱ》 講師:TAO factory パフォーマンスワークショップ	14:00 移動 子どもの国⇒OIC	15:40 《修了式》
14:00	16:30 ワェルカムパーティー 場所:OIC	18:00 夕食(OIC)	17:30 移動	18:00 夕食(ニュー三和)	18:30 移動 南部⇒OIC	17:00 夕食(OIC)	17:00 フェアウェルパーティー 場所:OIC
15:00	19:00 ~日程終了~	19:30 移動	19:15 移動	19:00 《伝統芸能学習Ⅲ》 講師 TAO factory パフォーマンスワークシ ップ!	19:00 夕食(OIC) ~日程終了~ スタッフ ~サイン	19:00 夕食(OIC) ~日程終了~	19:00 ホームステイ先へ
16:00		20:30 移動	21:00 ~日程終了~				
17:00		21:00 移動					
18:00							
19:00							
20:00							
21:00							
宿泊地	OIC	OIC	金武町ネイチャーみらい館	金武町ネイチャーみらい館	OIC	OIC	ホームステイ

学習プログラムが始まる前日の8月2日から、台風11号が急速に勢力を強め、3日には「猛烈な台風」となって沖縄本島に接近した。その後若干勢力を弱めたものの、「強い台風」の勢力を保ちながら本島を直撃すると進路予想が出され、ノーチャージでフライトキャンセルの受付が始まるなど空や海の便で影響が出ていた。高波が確認されていたため、参加者に危険を冒すことを避け上記スケジュールを室内で実施可能なスケジュールへ変更。参加者にとっては楽しみにしていたカヌーやキャンプファイヤーがキャンセルとなり非常に残念な結果となったが、すぐに気持ちを切り替え、代替のプログラムも積極的に取り組む姿勢を見せた。また、気落ちしている参加者を盛り上げようとボランティアが一丸となって交流プログラムを行い、参加者同士、またOBOGとの絆を深めていった。



荒れる海岸線の様子



衛星写真



進路予想図

★ウチナージュニアスタディー2014全行程

総合学習	移民学習	伝統工芸・芸能体験学習	式典、オリテ等
平和学習	自然学習・スポーツ交流	社会学習・歴史学習	バスでの移動

変更後

月日	8/3(日) 1日目	8/4(月) 2日目	8/5(火) 3日目	8/6(水) 4日目	8/7(木) 5日目	8/8(金) 6日目	8/9(土) 7日目
7:00		起床	起床	起床		起床	起床
7:30		朝食	朝食	朝食		朝食	朝食
8:00							
8:30		移動 OIC⇒国際通り				移動 OIC⇒子どもの国	
9:00	宿泊棟(Bフロント)荷物預け						
9:30	参加者受付 JICA沖縄国際センター (※以下OIC)	《社会学習Ⅰ》 講師：那覇まちまーい	《課外学習Ⅰ》 海外参加者国紹介	《課外学習Ⅱ》 海外参加者国紹介		《社会学習Ⅱ》 藍染め体験	《総合学習Ⅱ》 講師：ONC 報告会準備
10:00	《開講式》 《オリエンテーションⅠ》 *趣旨説明、資料配布 *自己紹介 チェックイン		《歴史学習Ⅰ》 講師：上里 隆史氏 講義：沖縄の歴史と文化	《移民学習Ⅱ》 講師：WYUA ワークショップ： 世界若者ウチナーン チュ大会の企画	《総合学習》 ワークショップ 世界がもし0の村だったら		
11:00		10:45			11:00		
12:00	12:00 昼食(OIC)	11:30 県庁表敬訪問	11:45		12:00	12:00 昼食(弁当) 古民家見学	12:00 昼食(OIC)
13:00	13:00 《オリエンテーションⅡ》 *沖縄紹介プレゼン *班決め	12:30 昼食(とうばら一ま)	12:45 移動 OIC⇒ うるま市キムタカホール	12:00 昼食(OIC)	12:00 昼食(OIC)	12:45 移動 子どもの国⇒OIC	13:00 報告会 & 修了式準備
14:00		13:15 移動 国際通り⇒OIC	14:00	13:00 移動 OIC⇒ひめゆり平和祈 念資料館	14:00	14:00	14:00
15:00	《交流プログラム》 (ボランティア企画)	14:00 《移民学習Ⅰ》 講師：ONC アルトゥーロCIR *移民史を学ぶフォト *アイデンティティ ワークショップ	14:30 《伝統芸能学習Ⅰ》 講師：あまわり浪漫の会 *肝高の阿麻和利 バックステージツアー	14:00 《平和学習》 演説 古宮 孝子氏 *資料鑑賞 *体験者の講話 *アニメ鑑賞 *平和構築ワークショップ	14:00 《課外学習Ⅱ》 海外参加者国紹介	14:00 《総合学習Ⅰ》 講師：ONC 振り返り報告会準備	14:00 《報告会》 *一週間の振り返り *各学習発表 *参加者行動宣言
16:00			15:00		15:00		15:40
16:30			16:30		パフォーマンス練習 (経験者、OB指導によ る自主練)		《修了式》
17:00	17:00 ウェルカムパーティ 場所：OIC		17:30	17:00		17:00 《伝統芸能学習Ⅱ》 講師：TAO factory パフォーマンスワークショップ	17:00 フェアウェルパーティ 場所：OIC
18:00		18:00 夕食(OIC)	18:00 夕食(ニュー三和)	18:00 夕食(弁当)	18:00 夕食(OIC)		
19:00	19:00	18:30 夕食(OIC)	19:15 移動	19:00	～日程終了～	19:00 夕食(OIC) ～日程終了～	19:00
20:00		19:30	19:30 《伝統芸能学習Ⅱ》 講師：TAO factory パフォーマンスワークショップ				ホームステイ先へ
21:00		20:30		21:00			
		21:00					
宿泊地	OIC	OIC	OIC	OIC	OIC	OIC	ホームステイ



### (3) 総括

世界に40万人近くいるウチナーンチュの絆を繋ごうと、前身のジュニアスタディーツアー事業から始まった本事業は、多くの関係団体に支えられて継続してきたものであるが、特に本年度はボリビア入植60周年、ブラジルのカンボグランデ入植100周年の年という、沖縄の移民史を振り返る節目の年でもあったことから、関係者のみならずマスコミの関心も高かった。

14回目の実施となる今年は、北米や中南米を中心に、世界10カ国からの中高校生が「沖縄（ウチナー）」という共通点で集まり、県内の参加者と一週間を共にしながら自分たちのルーツを探った。ほとんどの海外参加者にとっては初めてとなる沖縄訪問。祖父母や親戚から聞いていた憧れの地に集った参加者たちは、様々なプログラムを通して「今」の沖縄を体験・学習し、沖縄に対する理解を深めながら、自らがウチナーネットワークの担い手としてどう行動していくのかという問いと向き合っていた。また、県内参加者にとっては、海外の県人会の活動を聞いたり、海外のウチナーンチュと意見を交わしたりすることで、自分のアイデンティティを真剣に考える機会となったようである。

今年度事業の運営の方針とその成果は下記4点である。

＊ 班行動による、参加者の主体性の促進

プログラム中はグループ行動を原則として、参加者たちが主体的にプログラムに参加する環境づくりを行った。グループ内では個々が役割を持つようにし、レビューシートで日々の反省を促すことで、互いに声をかけあいながら動くようになっていった。

＊ アウトプットを重視し、次へとつながるステップをつくる

7日間に濃縮された学習プログラムのひとつひとつが、参加者たちの中に深く落とし込まれていくよう、プログラムを行う際にはグループディスカッションや発表の場を重視した。また、プログラム最終日の『報告会』では、5つのテーマで分かれたグループごとに「ウチナージュニアスタディの宝物」を発表したほか、個別の『行動宣言』も行った。その結果、新聞に自らの体験を投稿する、学校内で発表会を行う、英語やスペイン語の勉強を始める、JICA フェスティバルのアフターイベントでは率先して進行をする等、様々な行動が生まれた。

＊ 関係者への理解促進と思いの共有化を図る

本事業が過去13年継続できた背景には、世界に広がるウチナーンチュの県人会と国内・県内の関係者のバックアップがあったことがあげられることから、支援に対する感謝や理解促進を図る開会・閉会式典のプログラムを構成した。参加生が1週間のプログラムの中で体験したことや、それを通して学んだこと、自身の変化など、式典にしか参加できない関係者の方々へも共有化を図ったことにより、たくさんの方々から賞賛をいただいた。

＊ 事業を超えた縦・横に広がる交流を実現

本事業のOG・OBとの交流による縦の連携と、同じく沖縄県の主催である交流事業「アジアユース人材育成プログラム」との合同ワークショップの開催等による横への広がりを重視した運営を行った。ボランティアの参加の場を積極的に作ることによって、参加者が「今後もこのつながりを大切にしたい」という気持ちが高まってきた。また、他事業との関わりによって、さらなるチャレンジが期待できる。

プログラム終了3ヶ月後に行ったアフターイベントでは、自分たちの学びをさらに同世代と共有し、自身の中で芽生えてきたウチナーンチュとしてのアイデンティティ・誇りを表現していた。本事業を通して未来に繋がる参加者同士の友情の絆を深めることができたと共に、成果目標であった将来のネットワークの核となる次世代リーダーの素地を育成することができたと言える。

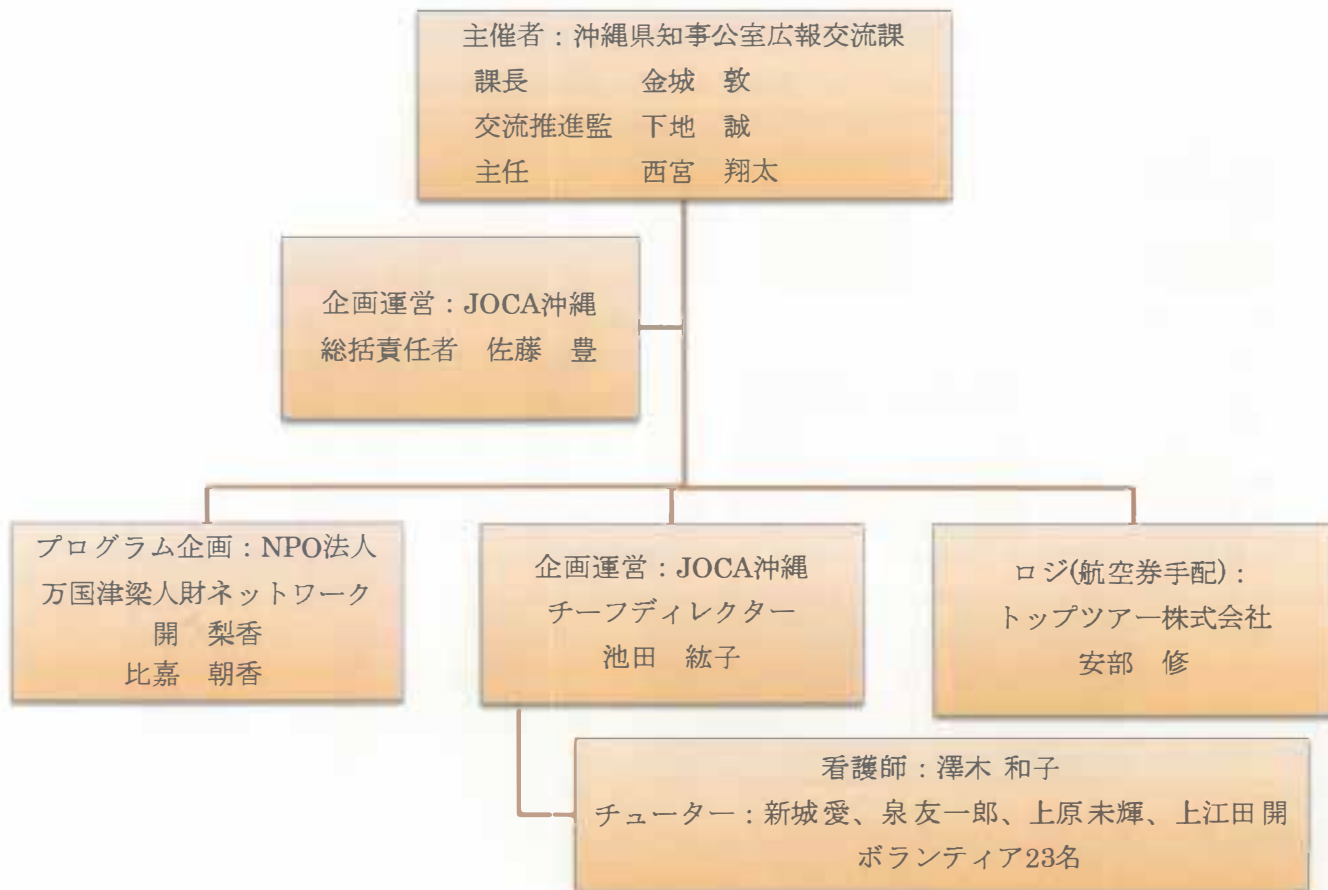
## (4) プログラム運営体制図

沖縄県からの受託事業者として、(公社)青年海外協力協会、(NPO 法人)万国津梁人財ネットワーク、トップツアー(株)が共同企業体を形成し、沖縄県と連携しながら本プログラムの運営を行った。

公益社団法人青年海外協力協会(JOCA)は、39,000名を超える青年海外協力隊の帰国ボランティアを中心に、個人会員及び全都道府県OB会等の団体がその構成メンバーとなっており、全国の都道府県にネットワーク組織を持ち、日本全国すみずみまで行渡る事業の展開が可能な団体である。沖縄においては、JICA 沖縄国際センターでの開発教育・国際理解教育支援事業や青年研修事業の業務実績を有し、グローバル人材の育成や県内外の人々に沖縄の良さを伝える事業等の促進に寄与する事業展開を図っている。

NPO 法人万国津梁人財ネットワークは、国際的に活躍できる人材育成と、世界各国との文化交流・ビジネス交流拠点としての沖縄の発展に寄与することを目的として設立されたNPO 法人であり、アジア青年の家、アジアユース人材育成プログラム等を手掛け、沖縄とアジアの若者の人材育成活動を展開している。

トップツアー株式会社は、「お客様満足度100%+α」を合言葉に、満足度向上を目指し、県内における人材育成や環境整備、新しいかたちのエンターテイメント企画開発といった様々な要素を含んだ観光産業事業に取り組んでいる。特に観光立県沖縄においては、沖縄の未来を見据え、行政・各関係機関と相互連携をはかる真の観光振興事業の展開に向けた事業展開に力を注ぎ、観光産業クラスターとして、また観光産業界のオピニオンリーダーとしてグローバルな視点に立った事業を展開している。



## (5) 制作物など

ウチナージュニアスタディー事業の趣旨を踏まえ、参加者の一体感の醸成や沖縄の文化、ウチナーネットワークを伝えることをコンセプトに下記のようなオリジナル携行品などを作成した。

① 名札 (青：県内参加者 オレンジ：海外参加者)



② 給水用タンブラー



③ ポロシャツ (青：参加者 ボルドー：スタッフ)



④横断幕

ウチナージュニアスタディー  
 UCHINA JUNIOR STUDY  
 沖縄県



## (6) 参加者名簿

海外参加者 16名

No.	氏名	アルファベット	年齢	国名	県人会名	趣味・特技
1	ユイ ジーン クリフォード	YUI JEAN CLIFFORD	17	アメリカ	ワシントンDC沖縄会	アートクラフト、美術、サッカー
2	イータン ジャックソン	ETHAN JACKSON	18	アメリカ	アトランタ沖縄県人会	チェロ、スケートボード
3	マリッサ キング	KING MARISSA LYNN RITSUKO	15	カナダ	レスブリッジ沖縄文化協会	踊り、絵
4	比嘉 照 リカルド	HIGA SHO RIKCARDO	18	ボリビア	ボリビア沖縄県人会	ピンポン
5	屋良 朝晴	YARA TOMOHARU	16	ボリビア	ボリビア沖縄県人会	パソコン、ギター
6	玉城 優美	TAMASHIRO YUMI	13	ボリビア	ボリビア沖縄県人会	絵をかくこと、ピアノ、バレー
7	ケベラ ケガミ ディエゴ アロンソ	CERVERA KUNIGAMI DIEGO ALONSO	18	ペルー	ペルー沖縄県人会	スポーツをすること
8	ヤマノハ=ガルシア、ガラ=ヒロミ	YAMANOHA GARCIA GALA HIROMI	13	メキシコ	メキシコ沖縄県人会	エイサー、水泳、サッカー、読書、絵画
9	金城 奈美枝	KANASHIRO NAMIE	15	ブラジル	ブラジル沖縄県人会	エイサー、折り紙
10	新里 ファビアン	SHINZATO FABIAN	15	ブラジル	カンポグランデ沖縄県人会	ギター、水泳、ゲーム
11	仲兼久 カタリナ	NAKAGANEKU CATALINA	17	アルゼンチン	在亜沖縄県人連合会	陸上、水泳、ホッケー、バレー、読書
12	山本 イリーナ	YAMAMOTO IRINA	17	アルゼンチン	在亜沖縄県人連合会	卓球、エイサー
13	福里 大結	FUKUZATO DAIYU	15	マレーシア	マレーシア沖縄会	ゲーム、野球、カラオケ
14	彭 アナベル 雪珠	PANG ANABEL SEZHU	15	韓国	ソウル沖縄会	絵、読書、料理
15	内間 未来	MIKI UCHIMA	17	ドイツ	ドイツ沖縄県人会	バレー、演劇、絵
16	<青年リーダー> エスコバル 伊礼 ジョアナ	ESCOBAR YREY JOHANNA	26	ペルー	ペルー沖縄県人会	踊り



県内参加者 17名

No.	氏名	ふりがな	学校名	学年	趣味・特技
1	仲宗根 萌	なかそね もえ	嘉手納中学校	1	琉球舞踊・三線・太鼓・読書
2	知花 香実	ちばな このみ	嘉手納中学校	3	楽器を吹くこと・音楽を聴くこと
3	城間 瑞生	しろま みずき	寄宮中学校	2	象棋(シャンチー)
4	神谷 莉央	かみや りお	知念中学校	2	音楽鑑賞・ストレッチ・琉球舞踊
5	下地 小春	しもじ こはる	石垣中学校	3	ピアノ・バスケットボール・陸上競技・三線
6	我如古 未和	がねこ みわ	北山高校	2	エイサー、楽器
7	喜友名 怜美	きゆうな れみ	コザ高校	2	音楽鑑賞、絵描き、バスケ、サッカー
8	比嘉 舞優	ひが まゆ	コザ高校	3	ギター、三味線
9	小橋川 咲希	こばしがわ さき	普天間高校	1	ギター、カラオケ、アイスブレーク
10	伊吉 智里	いよし ちさと	那覇西高校	3	バスケ、映画鑑賞
11	伊佐 茉倫	いさ まりん	興南高校	3	書道、バドミントン
12	兼城 賢翔	かねしろ けんしょう	南風原高校	3	ボイスパーカッション、ダンス
13	山入端 青海	やまのは せいら	向陽高校	3	音楽鑑賞、読書
14	安里 美紅	あさと みく	向陽高校	2	琉球舞踊、ハンドボール部
15	楚南 早紀	そなん さき	宮古高校	2	英会話、合唱、書道
16	大久 勝利	だいく かつとし	八重山高校	1	ドラマ鑑賞
17	<青年リーダー> 兼城 凜子	かねしろ りこ	宇都宮大学	4	スポーツ観戦、球技

Group [ONE PIECE]

	Name	School/Country	係 person in charge
1	神谷 莉央 Rio Kamiya	知念中学校 Chinen Junior high school	食事
2	楚南 早紀 Saki Sonan	宮古高校 Miyako Senior high school	リーダー
3	兼城 凜子 Riko Kaneshiro	宇都宮大学 Utsunomiya University	
4	マリッサ キング Marissa King	レスブリッジ沖縄文化協会(カナダ) Lethbridge Okinawan Cultural Society(Canada)	健康管理
5	セルベラ クニガミ ディエゴ アロンソ Cervera Kunigami Diego Alonso	ペルー沖縄県人会 Peru Okinawan Association	スポーツ
6	金城 奈美枝 Namie Kanashiro	ブラジル沖縄県人会 Brazil Okinawan Association	サブリーダー

Group [OKISO]

	Name	School/Country	係 person in charge
1	城間 瑞生 Mizuki Shiroma	寄宮中学校 Yorimiya Junior high school	食事
2	伊佐 茉倫 Marin Isa	興南高校 Kohnan Senior high school	リーダー
3	安里 美紅 Miku Asato	向陽高校 Kohyoh Senior high school	スポーツ
4	屋良 朝晴 Tomoharu Yara	ボリビア沖縄県人会 Bolivia Okinawan Association	スポーツ
5	ヤマノハ ガルーシア ガラ ヒロミ Yamanoha Garcia Gala Hiromi	メキシコ沖縄県人会 Mexico Okinawan Association	健康管理
6	内間 未来 Miki Uchima	ドイツ沖縄県人会 Germany Okinawan Association	サブリーダー

Group [シーサーズ]

	Name	School/Country	係 person in charge
1	下地 小春 Koharu Shimoji	石垣中学校 Ishigaki Junior high school	食事
2	比嘉 舞優 Mayu Higa	コザ高校 Kozu Senior high school	リーダー
3	小橋川 咲希 Saki Kobashigawa	普天間高校 Futenma Senior high school	スポーツ
4	玉城 優美 Yumi Tamashiro	ボリビア沖縄県人会 Bolivia Okinawan Association	健康管理
5	新里 ファビアン Fabian Shinzato	カンポグランデ沖縄県人会(ブラジル) Campo Grande Okinawan Association	スポーツ
6	エスコバル 伊礼 ジョアナ Escobar Yrey Johanna	ペルー沖縄県人会 Peru Okinawan Association	

Group [かつどん]

	Name	School/Country	係 person in charge
1	仲宗根 萌 Moe Nakasone	嘉手納中学校 Kadena Junior high school	健康管理
2	喜友名 怜美 Remi Kyuna	コザ高校 Kozu Senior high school	リーダー
3	大久 勝利 Katsutoshi Daiku	八重山高校 Yaeyama Senior high school	サブリーダー
4	イータン ジャックソン Ethan Jackson	アトランタ沖縄県人会(USA) Atlanta Okinawan Association	食事
5	仲兼久 カタリナ Catalina Nakaganeku	在亜沖縄県人連合会(アルゼンチン) Argentine Okinawan Association	スポーツ

Group [あーまん♡]

	Name	School/Country	係 person in charge
1	知花 香美 Konomi Chibana	嘉手納中学校 Kadena Junior high school	サブリーダー
2	伊吉 智里 Chisato Iyoshi	那覇西高校 Nahanishi Senior high school	健康管理
3	兼城 賢翔 Kensho Kaneshiro	南風原高校 Haebaru Senior high school	リーダー
4	福里 大結 Daiyu Fukuzato	マレーシア沖縄会 Malaysia Okinawan Association	食事
5	ユイ ジーン クリスフォード Yui Jean Clifford	ワシントンDC沖縄会(USA) Okinawakai of Washington D.C	スポーツ

Group [わさび]

	Name	School/Country	係 person in charge
1	我如古 未和 Miwa Ganeko	北山高校 Hokuzan Senior high school	リーダー
2	山入端 青海 Seira Yamanoha	向陽高校 Kohyoh Senior high school	サブリーダー
3	比嘉 照 Higa Sho	ボリビア沖縄県人会 Bolivia Okinawan Association	食事
4	山本 イリーナ Irina Yamamoto	在亜沖縄県人連合会(アルゼンチン) Argentine Okinawan Association	スポーツ
5	彭 アナベル 雪珠 Anabel Se Zhu Pang	ソウル沖縄会(韓国) Soul Okinawan Assosiaton	健康管理

## (8) 講師紹介

担当科目	講師	
移民学習 I 総合学習 I II		<b>沖縄 NGO センター 大仲 るみ子</b> 県内で数少ない国際協力に携わる市民団体で、開発教育・国際理解教育ファシリテーターを務めています。第5回世界のウチナーンチュ大会ではプレイベントとして「レッツスタディー！ワールドウチナーンチュ事業」で県内の生徒たちと移民先の県系人を結び、移民学習教材「チャンプレアンド」や「移民かるた」などの作成にも携わりました。
歴史学習		<b>早稲田大学琉球・沖縄研究所招聘研究員 上里 隆史</b> 琉球大学法文学部（琉球史専攻）卒業。早稲田大学大学院文学研究科修士課程修了。現在、法政大学沖縄文化研究所国内研究員。第13回窪徳忠琉中関係研究奨励賞受賞。NHK・BS ドラマ「テンペスト」時代考証担当。《専門分野》古琉球史、海域アジア史。《主な著書》『目からウロコの琉球・沖縄史』、『誰も見たことのない琉球』（『島人もびっくりオモシロ琉球・沖縄史』）
社会学習 I		<b>那覇まちま〜いガイド</b> 経験豊富な地元ガイドと那覇のまちを歩いて、今までとは違う角度から那覇を観て楽しんで頂きます。また、国際通りのコースでは、活気溢れる公設市場の中に入り沖縄の食文化や戦後那覇市がどの様に復興していったかなどを紹介します。
社会学習 II		<b>沖縄こどもの国</b> 明治末期から大正にかけての農家のたたずまいを復元した国登録有形文化財「沖縄市ふるさと園」にて、地域の風俗、習慣、歴史を肌で感じていただきながら、衣類の染色に昔から重宝してきた藍染め体験を行っていただきます。
移民学習 II		<b>WYUA 世界若者ウチナーンチュ連合会 金城 孝帝</b> 第5回世界のウチナーンチュ大会をキッカケに沖縄本部を中心として「WYUA」を発足、アメリカ・ハワイ・ブラジル・ポリビア・ペルー・アルゼンチン・イギリスに支部を置いています。沖縄の未来を担う人材の創出をはかり「世界のウチナーンチュ」の発展を担うことを目的とし活動中です。
平和学習		<b>ひめゆり資料館 学芸員 古賀 徳子</b> ワークショップやファシリテーションの実践を続け、特に平和教育の手法を磨いています。これまでの沖縄における平和教育はどうだったのか？これからどんな形で平和教育を進めて行けばいいのかを模索し、参加型手法のフォトランゲージや、ロールプレイを通して沖縄の平和教育を作ってこられました。
伝統工芸・芸能体験学習		<b>TAO ファクトリー 代表 蔵當 慎也</b> 伝統的な「組踊」を現代風アレンジした舞台を制作・演出・プロデュース。若い世代の子供たちが沖縄各地の歴史や伝承を題材にミュージカル仕立てのエンターテインメントを演じます。1999年「肝高の阿麻和利」の初演以来、その舞台は海外へも広がっています。2004年～沖縄の移民の父「當山久三ロマン～未来の瞳」を金武町で年1回本公演しています。

## 2.実施内容



## 事前学習 7/5(土)・7/19(土)

### ■ 第一回 事前学習

日時： 平成 26 年度 7 月 5 日(土) 9:30 ～ 13:00

場所： J I C A 沖縄国際センター 多目的室

目的： 県内参加者を対象とし、ホストとして県外参加者を受入れる心構えを持たせる。

時間	内容	詳細	担当/講師
09:30-10:00	事業概要説明	事業の趣旨、心構え、注意事項等の説明	
10:00-11:00	アイスブレイク & 自己紹介		兼城 凜子 (青年リーダー)
11:00-12:00	沖縄移民の歴史講座	① フォトランゲージ ② 南米移民の解説 ③ 「もうひとつのオキナワ」 上映	古謝 敦子氏 (沖縄県ポリビア派遣教師)
12:00-13:00	沖縄紹介プレゼンテーション作成会議	① 沖縄の良さのプレゼンティング ② プレゼンテーションの内容、発表方法決定	兼城 凜子 (青年リーダー)

#### \* 事業概要説明

プログラム開始一か月前に事前学習①を行い、事業の趣旨説明、および海外参加者に沖縄を紹介するためのプレゼンテーション作成を行った。「参加者はたくさんの応募者の中から選ばれた立場であること」、「積極的にプログラムに参加し、海外参加者をフォローしてほしいこと」等を伝え、県内参加者の意識を高めた。

#### \* 沖縄移民の歴史講座—沖縄文化が受け継がれる移民社会

講師： 元沖縄県ポリビア派遣教師 古謝 敦子氏

講師がポリビアの派遣教師時代に撮影した写真やペルーの親戚を訪ねた写真を使って、南米の移民社会で大切に受け継がれている沖縄を学んでいった。トートーメーやエイサーを踊る青少年の写真を見ながら、写真から読み取れることを話し合う「フォトランゲージ」を行い、ビデオ「もうひとつのオキナワ」を通して世界に広がるウチナー社会について学んだ。

#### \* 沖縄紹介プレゼンテーション作成—伝えたい「今の沖縄」は何か

ホストとして世界中から集まる仲間を迎えるため、沖縄を紹介するプレゼンテーションの準備に取り掛かった。青年リーダーの進行で参加者たちはグループに分かれ、海外参加者に伝えたい沖縄についてアイデアを出し合った。



## ■ 第二回 事前学習

日時：平成26年7月19日(土) 9:30 ~ 13:00

場所：JICA沖縄国際センター 多目的室

目的：学習プログラムで実施する沖縄紹介プレゼンテーション作成。

時間	内容	詳細	担当/講師
09:30-11:00	発表準備		
11:00-12:00	模擬発表会 計5グループ	①沖縄の観光、②沖縄の現代、③ウチナーンチュの人柄、④沖縄の歴史、⑤沖縄の伝統	
12:00-13:00	プレゼンテーション改善		

### \* 沖縄紹介プレゼンテーション作成

第一回目の事前学習で決めたグループに分かれ、それぞれが調べてきた資料や集めた写真をまとめ、チューターやボランティアがサポートしながらプレゼンテーションを作成した。

### \* 個性あるグループ発表

本番をイメージして模擬発表を行った。参加者たちは発表が一方的にならないようクイズを入れたり、移民学習の学びを活かして日系社会でも伝わる沖縄の食文化や音楽、ウチナーグチを取り入れるなどの工夫が見られた。自分の言葉で話すことや、聞き手を意識した発表を心がけること、時間配分の仕方等をフィードバックし、再びグループごとに内容の改善に取り組んだ。

### \* 徐々に打ち解けていく参加者たち

青年リーダーの提案で、参加者たちは海外参加者へ向けてメッセージを作成し、フェイスブックのグループページで発信した。フェイスブック上では、プログラムが始まる前から参加者同士の交流が始まっており、カウントダウンをしながら当日を待ちわびていた。



## 学習プログラム【一日目】 8/3(日)

時間	内容	詳細	担当/講師
10:00-11:30	開講式 オリエンテーションⅠ	趣旨説明、スタッフ紹介 資料配布、参加者自己紹介	
13:00-15:00	オリエンテーションⅡ	沖縄紹介プレゼンテーション グループ分け、係決め	
15:00-16:30	交流プログラム	新聞ゲーム、じゃんけん列車、 人間知恵の輪、ダンス等	ボランティア
17:00-19:00	ウェルカムパーティー		

### ■ 開講式・オリエンテーションⅠ

日時： 平成 26 年度 8 月 3 日(日) 10:00 ～ 11:30

場所： JICA 沖縄国際センター 多目的室

目的： 県内参加者を対象とし、ホストとして県外参加者を受入れる心構えを持たせる。

内容： 沖縄県広報交流課から主催者挨拶を行い、共同企業体から本事業の趣旨説明、スタッフ紹介、資料配布等を行った。県内参加者が率先して不安な表情を浮かべる海外参加者に声をかけ、積極的な交流が始まっていた。



### ■ オリエンテーションⅡ

時間： 平成 26 年 8 月 3 日(日)13:00 ～ 15:00

場所： JICA 沖縄国際センター 多目的室

目的： 県内参加者が沖縄紹介プレゼンテーションを実施する。また、グループ分けと係り決めを行う。

内容： 県内参加者が 2 回の事前学習で作上げたプレゼンテーションを発表し、『自分たちが伝えたい沖縄』を紹介した。海外参加者からは「たくさん知らないことがあって勉強になった」と感想が寄せられ、これから始まる学びと交流プログラムへの期待を膨らませていた。県内参加者はやりきった達成感を得たと共に、「笑いのツボは各国違うんだと思った」と早くも異文化を体験していた。





## ■ 交流プログラム（ボランティア企画）

時間：平成26年8月3日(日)15:00～16:30

場所：JICA沖縄国際センター 多目的室

目的：レクリエーションを通して参加者同士、OG・OBとの交流を深める。

内容：本事業のOG・OBであるボランティアが企画し、参加者の交流を深めるために、体を使ったゲームを行った。会場は終始笑い声に包まれ、日本語がわからない参加者に他の参加者が声をかけてルールを説明する場面も見られた。最後は全員でダンスを踊り、言葉の壁を越えた交流の場を持つことができた。



## ■ ウェルカムパーティー

日時：平成26年8月3日(日)17:00～19:00

場所：JICA沖縄国際センター 体育館

### 【式次第】

- |             |                                       |
|-------------|---------------------------------------|
| 1. 歓迎の挨拶    | 沖縄県知事公室<br>秘書広報交流統括監 曾根 淳             |
| 2. 乾杯の音頭    | 沖縄パンアメリカン連合会 会長 大山 盛稔<br>～ 食事・懇談～     |
| 3. 参加者代表挨拶  | 伊佐 茉倫（興南高校）<br>新里 ファビアン、金城 奈美枝(ブラジル)  |
| 4. 海外県人会自慢  | 海外参加者（16名/10ヶ国）                       |
| 5. 参加者による余興 |                                       |
| ① 琉球舞踊      | 仲宗根 萌（嘉手納中学校）<br>神谷 莉央（知念中学校）         |
| ② アルゼンチンタンゴ | 山本 イリーナ、仲兼久 カタリナ(アルゼンチン)              |
| ③ 創作ダンス     | 県内参加者有志                               |
| ④ 書道        | 伊佐 茉倫（興南高校）<br>楚南 早紀（宮古高校）<br>～ 記念撮影～ |



内容： ホームステイ先の家族や関係団体を合わせて 100 名近くの方々が集まり、世界 10 ヶ国から集まったウチナーンチュ子弟と県内若者の交流の機会を喜んだ。参加者による余興では、琉球舞踊やアルゼンチンタンゴ等の伝統芸能が会場を賑わせた。また、県内参加者が「ここでの出会いを通して世界のウチナーンチュとの繋がりを深めていきたい」という思いで書いたという『四海兄弟』と『2014』の書道の作品は、この後のプログラムで常に持参され、参加者たちの共通の想いとなった。新たな取り組みとして行った『自国・県人会自慢』では、海外参加者が自国で準備してきたパネルが並び、一ヶ国ずつ紹介する時間も設けた。海外参加者にとっては県人会活動を改めて調べる機会となり、県内参加者にとっては参加国について知るとともに、「地元についてもっと学びたい。語れるようになりたい。」という気持ちを起こさせた。県人会の方々からも、「ウェルカムパーティーで各国の紹介を見るのは初めて。良い取り組み。」との声があがっていた。



ウチナージュニアスタディーをずっと支えてきた関係者やホームステイ先の家族、保護者一緒に

## 参加者のレビューシートから【一日目】

### 【オリエンテーションⅠⅡ、交流プログラム】

- ・コミュニケーションを取りたいという気持ちが本当に大切だと思った。(県内参加者・女)
- ・母語は同じでも人によって発音が違うのが、とてもおもしろいと感じた。(県内参加者・男)
- ・世界中から集まってきたメンバーに会えたことにとても感激した。(海外参加者・女)
- ・沖縄のことについていろいろな発見があった。(海外参加者・男)

### 【ウェルカムパーティー】

- ・海外参加者の(各国の)発表を聞いて、沖縄からとても離れている場所で、沖縄の祭りや沖縄の食べ物を食べていてびっくりした。(県内参加者・女)
- ・各国の県人会自慢や国自慢を聞いて、自分は自分の地元について何も語ることが出来ないなど強く思った。(県内参加者・女)
- ・海外参加者の国と県人会の活動を知ることができた。また、タンゴを踊り、自分の国の紹介も少しできたと思う。(海外参加者・女)

### 【班行動で自分の係の仕事ができましたか】

- ・班長としてしっかりみんなをまとめていきたい。(県内参加者・女)
- ・何もかも積極的にやっていきたい!!(県内参加者・女)
- ・明日からグループみんなの健康管理に気をつかっていきたい。(海外参加者・女)

### 【ウチナーネットワークを担う一員として何か感じたことはありましたか】

- ・海外参加者はしっかり自国で沖縄のことを発表する場を持っているのに、自分はやったことがないので、地元に戻ってしっかり学んだことを伝えていきたい。(県内参加者・女)
- ・壮大なウチナーンチュ文化を共有していく!(海外参加者・男)
- ・コミュニケーションをとるためにもっと日本語を学びたい。そしてもっと沖縄について勉強していきたい。(海外参加者・女)



本事業のOG・OBたち



## 学習プログラム(二日目) 8/4(月)

時間	内容	詳細	担当/講師
09:15-10:45	社会学習 I	国際通りや平和通りを街歩き	那覇まちま〜い
11:30-12:00	県庁表敬		
14:00-18:00	移民学習 I	① アルトウーロ CIR の講話 ② ワークショップ	① 沖縄県国際交流員 当山 樋口 アルトウーロ ② 沖縄 NGO センター
19:30-20:30	スポーツ交流	チーム対抗バスケットボール	ボランティア

### ■ 社会学習 I - 那覇まちま〜い

日時： 平成 26 年 8 月 4 日(月) 9:15 ~10:45

場所： 那覇市国際通り周辺

講師： 那覇まちま〜い事務所

目的： ガイドとともに県民の衣食住を支えた那覇の中心街を歩き、沖縄県民の生活を垣間見る。また、沖縄の食・生活文化を感じる。

内容： 市場本通り、市場中央通り、第一牧志公設市場、平和通り、パラソル通り、ちとせ商店街ビル、えびす通り等

結果： 『地元のガイドと那覇の街を歩く』ことで県外の観光客のだけでなく、県内でも注目されている那覇市観光協会『那覇まちま〜い』に参加し、グループごとにガイドが付いて沖縄の食や生活文化、年中行儀などを学んだ。戦後の沖縄の発展を支えた市場だが、県内参加者にとっても解説を聞きながら歩くのは初めてだったので、熱心にメモを取りながら歩いていた。また、チューターが訳をしなくても、県内参加者自身で日本語のわからない参加生たちにガイドの話の説明するようになっていった。歴史や文化について説明をすることは難しくても、食に関する話題など日常生活に関わることは身振り手振りでも伝わりやすい。うまく伝えることができなくても、市場内に広がっているものを話のネタにして会話が生まれ、参加者同士の距離が近くなっていく様子が伺えた。



## ■ 県庁表敬

日時： 平成 26 年 8 月 4 日(月) 11:30 ～12:00

場所： 沖縄県庁 1 階 県民ホール

目的： 主催者への挨拶

### 【県庁表敬 式次第】

1. 沖縄県知事公室長 又吉 進
  2. 海外参加者代表 玉城 優美 (ボリビア)
  3. 県内参加者代表 兼城 賢翔 (南風原高校)
- ～ 記念撮影～

内容： 沖縄県庁を訪問し、参加者代表が決意表明を行った。代表の二人は「様々な学習を通して沖縄の知識を深め、沖縄県の大きなネットワークを作っていきたい (ボリビア：玉城優美)」「最高に暑い夏を皆で作って行きます (沖縄県：兼城賢翔)」と抱負を述べた。





## ■ 移民学習Ⅰー県系人アルトゥーロ氏の講話・移民ワークショップ

日時：平成26年8月4日(月) 14:00～18:00

場所：JICA沖縄国際センター 多目的室

講師：①沖縄県国際交流員（ペルー） 当山 樋口 アルトゥーロ氏  
②沖縄NGOセンター 大仲 るみ子氏

目的：海外に住む日系人・沖縄県系人子弟が、沖縄から海外に移民として輩出されるようになった歴史を学び、現在の沖縄県系社会について知る。また、互いのアイデンティティーについて考えを共有する中で、同じウチナーンチュでありながらも多様性があることを知る。

内容：①ペルーの日本移民、一世のおばあさんの話  
②ワークショップ（唄から考える移民、移民カルタ、「あなたはなに人？」）

結果：①県系人アルトゥーロ氏の講話

アルトゥーロ国際交流員が県系人として生きてきた経験や、ペルーへ移民した先人たちについて語った。自身の夢が叶えられないと悟ったときに思い出した、祖父から受け継いだウチナーンチュのあきらめない精神。自身もアイデンティティーに悩んでいたこと、日本に来てからの苦労や県系人だからできる目標や自分の夢など、実体験に基づく話は参加者の共感呼んだ。



### ②「ウチナーンチュ」でつながる参加者

様々な視点から移民について考えるワークショップ。最初はディアマンテスの唄の歌詞から人々の苦悩を読み取り、当時の心境を想像した。県内参加者が海外参加者へ、歌詞を指でなぞって教えるなどの配慮がグループ毎に見られた。次に、参加者たちを悩ませたのは「あなたは何人？」とアイデンティティーを問うワークショップ。自身のバックグラウンドを振り返りながら、一人ひとりが持つ様々なアイデンティティーをみんなで共有した。住む場所は違えど、すべての参加者に共通していたのは「ウチナーンチュ」である自分。祖先の歴史から、今また同じルーツを持つ者同士、繋いでいくものを考える時間となった。



## ■ スポーツ交流（ボランティア企画）

日時： 平成 26 年 8 月 4 日（月） 19:30 ～20:30

場所： JICA 沖縄国際センター 体育館

目的： 参加者同士の交流を図ると共に、班でのチームワークを向上させる。

内容： 班対抗バスケットボール大会

結果： 二日目を迎え、本格的な学習プログラムが始まった。参加者全員の交流を深めると共に、様々なワークショップを行うためのチーム作りの一環として実施したスポーツ交流。スポーツが得意な人もそうでない人も、一日の疲れを見せないくらいにコート中を走り回り、声を掛け合ったり、勝敗を喜び合ったり悔しがったりしながら、バスケットボールを楽しんだ。参加者からは「スポーツはユニバーサルな言語だ！」  
「いろんな人と話せて仲が深まった」と感想が出ていた。



## ■ 参加者のレビューシートから【二日目】

### 【社会学習Ⅰ】

- ・知っているはずの国際通りだったのに知らないことがたくさんあった。(県内参加者・女)
- ・いろんな沖縄の場所を見学し、すごく興味が深まった。すごくきれいで、ゴミ一つなかった。(海外参加者・女)
- ・(ホームステイ期間中に)自分でも国際通りに行ったが、いろいろな説明を聞きながらまわることはとても良かった。いろいろなことを発見し、「見る」と「観る」の違いを感じた。(海外参加者・女)

### 【移民学習Ⅰ】

- ・仕方がなく移民した、祖先のおば～、おじ～がいて、とても過酷な状況でも生きていかなければいけないことがあったことを知った。そんな中でもウチナーンチュらしい「あきらめない心」や粘り強さが今の私たちを作ったと知った。(県内参加者・男)
- ・それぞれが生きてきた経験によってアイデンティティーができる、と考えることはとてもよかった。(海外参加者・男)
- ・とても良い話し合いができた。自分たちが同じだということを知ることができた。(海外参加者・男)

### 【班行動で自分の係の仕事ができましたか】

- ・遅れてくる人がいたので、グループで声かけしたい。(県内参加者・女)
- ・事前にやるべきことを伝える努力をした。(県内参加者・男)
- ・スポーツ交流でグループメンバーをまとめられた。(海外参加者・女)

### 【ウチナーネットワークを担う一員として何か感じたことはありましたか】

- ・やはり言語は大事。海外の人たちの話を聞いて感動したので、話せる言語を増やしてもっと交流したいと思った。(県内参加者・女)
- ・沖縄のいろいろなところをまちなーいする！もっとたくさんの世界のうちなーんちゅとつながりたいと思った。(県内参加者・女)
- ・今回の経験を自分の中にとどめるだけでなく、帰ったら自分が学んだこと、感じたことを話していきたい。(海外参加者・女)



## 学習プログラム(三日目) 8/5(火)

時間	内容	詳細	担当/講師
08:30-09:00	課外学習	海外参加者国紹介 I	進行：青年リーダー
09:30-11:45	歴史学習	沖縄の歴史と文化	上里 隆史氏
14:30-16:30	伝統芸能学習 I	現代版組踊「肝高の阿麻和利」 バックステージツアー	平田 大一氏 あまわり浪漫の会
19:30-21:00	伝統芸能学習 II	パフォーマンスワークショップ	TAO ファクトリー 藏當 慎也氏

### ■ 課外学習－海外参加者国紹介 I

日時： 平成 26 年 8 月 5 日 (火) 8:30～9:00

場所： JICA 沖縄国際センター 多目的室

目的： 海外参加者がどのような国から来ているのかを知り、海外の日系社会で継承される沖縄文化を知る。海外参加者にとっては自国の活動を振り返り、また他国のアイデアを知る機会とする。

内容： 海外参加者による国紹介、県人会の活動紹介

結果： 3 日間に分けて海外参加者全員が発表した。どの参加者も事前によく調べており、写真やビデオなどを織り交ぜながら自国の紹介をしていた。厳しく制限時間を設けていなかったため、時に伝えたいことがありすぎて長くなってしまうことがあったが、色々な国のことを知り、いつかみんなの国を訪ねたいと、参加者は各々世界への関心が広がったようである。また県内参加者からは、海外参加者の自国への知識に驚き、自分も沖縄や地元のことをもっと学びたいという感想も出ていた。





## ■ 歴史学習－沖縄の歴史と文化

日時： 平成26年8月5日(火) 9:30 ～ 11:45

場所： JICA沖縄国際センター 多目的室

講師： 早稲田大学琉球・沖縄研究所招聘研究員 上里 隆史氏

目的： 沖縄がどのような歴史を経て現在まで至ったのか、特に「琉球王国」の時代に焦点を当てて俯瞰する。過去から現在の沖縄をつなぐ視点を持たせ、そこから未来への可能性を模索する視点を養う。

内容： 海と暮らす沖縄の人々、琉球王国の誕生、大交易時代等

結果： 琉球史の専門家である上里隆史氏を講師に迎え、映像や実物資料を活用しながら説明して頂いた。出来事としての歴史を語るだけでなく、琉球人の知恵や交渉力の高さなど、参加者たちの祖先の素晴らしさを伝えるような内容だった。参加者にとって歴史は難しいという印象があるが、質疑応答の時間を多く持たせたことで、それぞれが興味のある分野について質問をしながら沖縄の歴史への理解を深めていた。琉球が交易を通して日本や東アジアを結ぶ世界の架け橋となっていたことや、軍事力ではなく文化で評価されることを目指していたことについて、感心している様子が感想文から伺えた。海外参加者もチューターに助けをもらいながら、移民社会でも受け継がれるトートナーの由来や方言について、諸外国とのかかわりについて等の質問をしていた。他のプログラムと比べて、学習的な色合いの強く、興味の度合いに差が出やすいプログラムだが、講師とコミュニケーションを取りながら進められたことによって参加者の学ぶ意欲を促すことができたようである。



## ■ 伝統芸能学習Ⅰ

日時：平成26年8月5日(火) 14:30～16:30

場所：きむたかホール

講師：平田 大一氏、あまわり浪漫の会

目的：同世代の中高生が演じる故郷の英雄をモチーフにした歴史劇・現代版組踊で沖縄の芸能を体験する。

内容：バックステージツアー、パフォーマンス体験ワークショップ

結果：会場には、100名を超える舞台関係者、参加者（以下、あまわりキッズ）の他に、沖縄県主催アジアユース人材育成プログラムの参加者、うるま市内の中学生、県費留学生なども参加し、総勢22ヶ国250名もの人が一堂に会していた。最初に、舞台を構成している男性アンサンブル（舞踊）、女性アンサンブル（舞踊）、バンドチームの演舞と演奏を観覧し、その後、参加者たちは全員ダンスチームと音楽チームに分かれ、きむたかキッズによる演舞体験ワークショップを行った。他の団体と合同で行うワークショップということで、最初は戸惑っていた参加者たちだったが、歌と踊りを通して会場に一体感が生まれ始め、成果発表として舞台上がったときには笑顔と笑い声で溢れていた。最後に「肝高の阿麻和利」フィナーレが披露されたときには、参加者の表情が一変、舞台にくぎ付けになり、中には涙を流す参加者もいた。同世代の中高生たちが一丸となって歌い踊る様子に胸を打たれ、「地元への誇り、それを仲間と伝えている姿に感動した」「言葉ではなく心で伝わった」との声があがっていた。





## ■ 伝統芸能学習Ⅱ

日時：平成26年8月5日(火) 19:30 ~ 21:00

場所：JICA沖縄国際センター 多目的室

講師：TAO ファクトリー 藏當 慎也氏

目的：伝統芸能「組踊」を現代風にアレンジした舞台「現代版組踊」の一部を体験する。沖縄の多彩な文化を全身で感じ、チームが一体となる連帯感と達成感を味わう。

内容：『ダイナミック琉球』のパート別練習

結果：「肝高の阿麻和利」の舞台の卒業生が代表を務める TAO ファクトリーを招き、フェアウェルパーティーで披露する『ダイナミック琉球』のワークショップを行った。参加者たちは馴染みのない動きに四苦八苦していたが、肝高の阿麻和利で感動した直後のワークショップだったため、インストラクターの掛け声に励まされながら練習を続けていた。中には泣き始める参加者もいたが、「踊りたいのに出来ない」という口惜しさからであった。「難しかったけど、その分できたときに達成感があった」「みんなで成功させたらもっと絆は深くなるし、その過程でみんなが教えあっているのもこのプログラムの良い点」「絶対に覚えて完璧にしたい」と盛り上がっていた。



## 参加者のレビューシートから【三日目】

### 【歴史学習】

- ・本当に知らないことばかりだった。琉球史は中学の社会で簡単に教わるくらいで、あんなに深く学ぶことができてよかった。(県内参加者・女)
- ・軍事力ではなくて、文化で評価してもらおうとしていて、国をあげて文化の発展をしたことを初めて知ったし、その考え方はすごいと思いました。(県内参加者・女)
- ・シートに書ききれないくらいいろいろなことを学んだ。この講義はとても興味深く、沖縄が様々な歴史と文化を持つ地域なのだとわかった。(海外参加者・男)

### 【伝統芸能学習Ⅰ、Ⅱ】

- ・一人ひとりが同じ気持ちを持って踊っていたので、心が一つになっているなど思い、とても感動した(県内参加者・女)
- ・口だけでなく、態度や表情でしっかりと語られると心は動くと感じた。(県内参加者・男)
- ・本当に感動して、涙が出てきた。(海外参加者・女)
- ・ダンスはとても難しいけど、フェアウェルパーティーではしっかり踊れるように頑張りたい(県内参加者・女)

### 【班行動で自分の係の仕事ができましたか】

- ・朝、昼、夕の食事で全員分届いているか確認できた。(県内参加者・女)
- ・集中力が切れていた子に声をかけられた。(県内参加者・女)
- ・ダンスのときに感じた気持ちをグループで伝えられた。(海外参加者・男)

### 【ウチナーネットワークを担う一員として何か感じたことはありましたか】

- ・阿麻和利を見て、自分のこと、自分のルーツ、住んでいるところを愛する心、誇りを持つことは大切だし、それを人に伝えるのは大変だけど、できている人はキラキラしていると改めて思う。この気持ちを忘れずにしたいし、発信できる人になりたい。(県内参加者・女)
- ・ダンスの練習、国紹介の準備、もっと前向きにいろいろと始めていく！(海外参加者・女)



事業を越えて、22ヶ国の中高生が交流した

## 学習プログラム【四日目】 8/6(水)

時間	内容	詳細	担当/講師
※台風による影響で自然学習（カヌー&マングローブ体験）をキャンセルし、五日目に予定していた平和学習を前倒しにした。また、金武ネイチャーみらい館で予定していたキャンプファイヤーはOIC 体育館での交流プログラムとなった。			
08:30-09:00	課外学習	海外参加者国紹介Ⅱ	進行：青年リーダー
09:30-12:00	移民学習Ⅱ	世界若者ウチナーンチュ大会の企画	世界若者ウチナーンチュ連合会（WYUA）
14:00-17:00	平和学習	ひめゆり平和祈念資料館見学 平和構築ワークショップ	ひめゆり平和祈念資料館 学芸員 古賀 徳子氏
19:00-21:00	交流プログラム	ボランティア企画	ボランティア

### ■ 課外学習－海外参加者国紹介Ⅱ

日時： 平成 26 年 8 月 6 日（水） 8:30～9:00

場所： J I C A 沖縄国際センター 多目的室

目的： 海外参加者がどのような国から来ているのかを知り、海外の日系社会で継承される沖縄文化を知る。海外参加者にとっては自国の活動を振り返り、また他国のアイディアを知る機会とする。

内容： 海外参加者による国紹介、県人会の活動紹介

結果： 3 日間に分けて海外参加者全員が発表した。どの参加者も事前によく調べており、写真やビデオなどを織り交ぜながら自国の紹介をしていた。厳しく制限時間を設けていなかったため、時に伝えたいことがありすぎて長くなってしまったことがあったが、色々な国のことを知り、いつかみんなの国を訪ねたいと、参加者は各々世界への関心が広がったようである。また県内参加者からは、海外参加者の自国への知識に驚き、自分も沖縄や地元のことをもっと学びたいという感想も出ていた。





## ■ 移民学習Ⅱ

日時： 平成 26 年 8 月 6 日(水) 9:30 ～ 12:00

場所： JICA 沖縄国際センター 多目的室

講師： 世界若者ウチナンチュ連合会 (WYUA) 金城 孝帝氏

目的： 世界各地に存在する 40 万人のウチナンチュ。先人たちが築いてきたこれらのネットワークを若者が引き継ぎ、どんなことを行っていきたいか、若者ならではの視点からアイデアを出し合う。

内容： WYUA の成り立ち、活動を知る。グループ毎に世界若者ウチナンチュ大会に参加すると仮定し、プログラムのアイデアを話し合う。

結果： まず WYUA の成り立ちや活動をビデオで紹介。若者同士で世界のウチナンチュの交流をしている WYUA の活動は、これまでのプログラムでウチナンチュの絆を実感している自分たちの次のステップとしてあることを感じ、大学生になったら WYUA に入りたいとアンケートに書く参加者も多かった。

ワークショップではウチナンチュ大会の企画コンペを実施。様々なアイデアが出た中で優勝したのは、沖縄料理と参加者の国の料理を組み合わせ、新しい料理を作るコンテストをするという企画を出した「シーサーズ」。「移民の人たちはみな沖縄とその国の『ミックス』であり、料理と似ている。良い組み合わせをすることで、より『美味しい』ものを生み出していきたい」というねらいと、料理はその場の交流だけでなく、それを国に持ち帰って伝えることができるという点が評価のポイントとなった。



## ■ 平和学習

日時： 平成 26 年 8 月 6 日(水) 14:00 ～ 17:00

場所： ひめゆり平和祈念資料館

講師： ひめゆり平和祈念資料館 学芸員 古賀 徳子氏

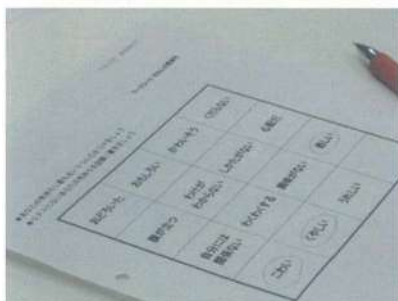
目的： 日本で唯一地上戦が繰り広げられ、県民の 1 / 4 が犠牲になった沖縄。参加者と同世代の子どもたちも学徒隊として出陣し、多数の命を落とした。ひめゆり平和祈念資料館の視察とその後のワークショップを通して、戦争の実態のみならず、沖縄がどのように復興し、平和構築のために現在どんな取り組みをしているかを学び、「平和を希求する心」を共有する。そして、平和を創るため、自分たちに何ができるのかを話し合い、一人ひとりが平和構築の発信基地となることを目指す。

内容：資料館見学、アニメ「ひめゆり」鑑賞、平和構築ワークショップ

結果：参加者からの反響が大きかった平和学習。ひめゆり学徒隊の証言が聞けたこと、またワークショップで「平和」に対する多様な意見交換できたことが印象強かったようだ。言葉はわからなくても、語り部の方の前から一步も動かない海外参加者たち。「伝えたい」彼女の気持ちは言語を越えて胸に迫るものがあった。真剣な眼差しで耳を傾ける参加者からは、ウチナーンチュとしてこの歴史を語り継いでいかなければならない使命を感じているようにも見えた。平和を作るための方法を考えたワークショップでは（下記参照）グループで意見を一致させて発表しようとして進めていたが、各国の政治や歴史、教育の在り方で意見を一つにすることに苦戦し、結果的に複数の意見を発表する班がほとんどであった。だが、その結果が返って国や宗教による意見の多様性を知ることとなり、「平和」という普遍的なテーマであっても同意を得ることの難しさを実感したようだった。最後の感想共有では、ある海外参加者が「戦争は大変だったけれど、もし戦争がなかったら私は存在していない」と複雑な心境を語り、多面的に歴史を見る大切さを気づかせた。

「平和」を作るための9つの方法 ※取り組むべきこと、重要だと思うものをランク付けする。

- A 差別や偏見を持たないで一人ひとりの人間の命と尊厳を大切にする。
- B 国際交流の活動をおこなって外国人と友だちになり、異文化を理解する。
- C どんな形の暴力も使わない。他の人が暴力を使うことも許さない。
- D 音楽やアート、演劇などを通して、平和をテーマにしたイベントを開く。
- E メディア（新聞やテレビ、インターネットなど）を通じて、平和の大切さを訴える。
- F クラスや学校で、「戦争」「平和」について話し合う。
- G 他の人と意見が対立したときは、わかるまで耳を傾け、話し合って解決する。
- H 国と国との争いを平和的に解決するよう、政治家にはたらきかける。
- I あなたのアイディア





## ■ 交流プログラム（ボランティア企画）

日時： 平成26年8月6日(水) 19:00～21:00

場所： JICA沖縄国際センター 体育館

目的： 言葉を越えた心の繋がりをつくる。

内容： グループ対抗ゲーム、アームレスリング、ダンス等

結果： 楽しみにしていた自然プログラムやキャンプファイヤーがキャンセルとなり、表には見せずとも気落ちしていた参加者を、ボランティアが多いに盛り上げた交流プログラム。様々なゲームが企画され、終始笑いが絶えることがなかった。また、ジェスチャーゲームやイラストを描くゲームで日中のワークショップでは見られない得意分野が発揮されるなど、参加者の新たな一面を発見する機会ともなった。サプライズで誕生日をお祝いされた参加者は「こんな誕生日は初めて」と喜び、最後のダンスではそれぞれ深まっていく絆を感じていた。





## 参加者のレビューシートから【四日目】

### 【移民学習Ⅱ】

- ・世界でこんなにつながりを大切にしている団体がいること初めて知った。次のフィリピン大会にぜひ参加してみたい。(県内参加者・女)
- ・「どのようにネットワークを広げていくか」ということについてみんなの意見を出し合えるのはとても興味深かった。このワークを通して、私に何ができるのかということのヒントを得た(海外参加者・女)

### 【平和学習】

- ・国が違えば、考え方も変わってくるんだなあと思い、自分も意見を出してみても、すごく良い勉強になった。(県内参加者・男)
- ・皆で戦争について意見交換して、自分は日本人特有の主観的な考え方をしていることに気づいた。(県内参加者・女)
- ・とても素晴らしいワークショップだった。みんな学徒隊の話に感動していた。今沖縄が平和を求める理由がわかる。この経験をみんなで広げ、分かち合えたらいいなと思う。(海外参加者・女)

### 【班行動で自分の係の仕事ができましたか】

- ・今日も仲良くチームとして協力できた。今日は難しい内容ばかりだったけど、いい意見ばかり出てとても刺激的だった。(県内参加者・女)
- ・移民学習、ひめゆり、夜のゲーム、すべてのプログラムでいろいろ話し合いをした。それぞれ違うアイデアをシェアできてよかった。(海外参加者・女)
- ・もっと自分から発表していきたい。(海外参加者・男)

### 【ウチナーネットワークを担う一員として何か感じたことはありましたか】

- ・WYUAの企画を通して、沖縄のことばかり発信するのではなく、参加国のこともしっかり知ることは大事だと思った。(県内参加者・女)
- ・海外参加者の中で、沖縄戦について「こんなにひどいと知らなかった」と言っていた。世界にはもっと戦争の悲惨さを知らない人がいると思うので、私たちが伝えなければと実感した。(県内参加者・男)
- ・もっと平和についてみんなと勉強していきたい。それからWYUAのこともちゃんと知ってきたい。何もかも一生懸命にやりたい。(海外参加者・女)

## 学習プログラム(五日目) 8/7(木)

時間	内容	詳細	担当/講師
※台風による影響で本日予定していた平和学習は前日に変更した。またビーチでの交流は中止し、代替案を実施した。			
10:00-11:00	総合学習	ワークショップ	JOCA 佐藤 豊
11:00-12:00	スポーツ交流		
14:00-15:00	課外学習	海外参加者国紹介Ⅲ	進行：青年リーダー
15:00-17:30	パフォーマンス練習		ボランティア

### ■ 総合学習

日時：平成26年8月7日(木) 10:00～11:00

場所：JICA沖縄国際センター 体育館

講師：JOCA佐藤 豊

目的：2001年にインターネットで世界中に反響を及ぼしたメール「世界がもし100人の村だったら」は世界の人口を100人に見立てて世界の現状をわかりやすく描いている。ワークショップで世界の状況をシミュレーションし、貧困や環境問題など、多様なグローバル問題を考えるきっかけを作る。

内容：「世界がもし100人の村だったら」ワークショップ

結果：急きょ自然学習の代替案として行ったワークショップ。温暖化の影響で国が沈むかもしれない状況にあるツバルの現状や、食糧危機に悩む国がある一方で日本がどれだけ食料を廃棄しているか等をシミュレーションして学んだ。参加者は、こうした世界問題は他人事ではなく、一人ひとりの生活や意識が影響していることに気付き、「私たち次第で将来が変わるんだ」と生活を見直すきっかけとなったようだった。特にツバルの海の写真は沖縄の海と重なり、環境問題を強く意識したようである。また本ワークショップの考案者が、人が幸せになる条件として「伝統文化に誇りをもつこと」と提唱していることを紹介し、「なんのためにここにいるのか」という問いかけを改めて参加者に行った。それぞれ初心に帰り、祖先から伝承される沖縄文化、ウチナーネットワークの絆について、じっと振り返る時間となった。



### ■ 課外学習－海外参加者国紹介Ⅲ

日時： 平成 26 年 8 月 7 日（木） 14:00 ～ 15:00

場所： J I C A 沖縄国際センター 多目的室

目的： 海外参加者がどのような国から来ているのかを知り、海外の日系社会で継承される沖縄文化を知る。海外参加者にとっては自国の活動を振り返り、また他国のアイデアを知る機会とする。

内容： 海外参加者による国紹介、県人会の活動紹介

結果： 3 日間に分けて海外参加者全員が発表した。どの参加者も事前によく調べており、写真やビデオなどを織り交ぜながら自国の紹介をしていた。厳しく制限時間を設けていなかったため、時に伝えたいことがありすぎて長くなってしまうことがあったが、色々な国のことを知り、いつかみんなの国を訪ねたいと、参加者は各々世界への関心が広がったようである。また県内参加者からは、海外参加者の自国への知識に驚き、自分も沖縄や地元のことをもっと学びたいという感想も出ていた。



### ■ パフォーマンス練習

日時： 平成 26 年 8 月 7 日（木） 15:00 ～17:30

場所： J I C A 沖縄国際センター 多目的室

目的： パフォーマンス仕上げ、参加者の自主性を高める。

内容： パート別練習、全体練習

結果： 昨年の参加者や、現代版組踊経験者のリードで、パフォーマンス練習を行った。参加者は不安だった部分を確認して何度も練習することで、自信がついてきたようだ。また、リラックスした雰囲気の中、バレエの得意な参加者がバレエレッスンをしたり、普段話していないメンバーと談話したりする姿も見られた。



## 参加者のレビューシートから【五日目】

### 【総合学習】

- ・日本でのこの生活は普通だと思っていたので、贅沢に暮らしていると知ってびっくりした。この生活より下の生活をする自信がないけれど、少しでも贅沢を減らしていかないとけないと思う。(県内参加者・女)
- ・私たちの義務は、これから私たちのことだけじゃなく、世界中の人のことを考えないとけないことだと気付いた。(海外参加者・女)

### 【班行動で自分の係の仕事ができましたか】

- ・だんだん集団意識がでてきて、注意し合っている人が出てきた。食事係だけでなく、自主的に配膳を手伝っている人もいた。(県内参加者・女)
- ・グループでダンスを練習してうまくなった。すごく達成感を感じた。(海外参加者・女)

### 【ウチナーネットワークを担う一員として何か感じたことはありましたか】

- ・(地球の大切さを学び) 日本を変える前に、沖縄が変わってみせる!と思った。(県内参加者・女)
- ・この素晴らしく、注目を集めるだろうダンスを広め、それがどこからきているのか、どこで学んだかを伝える。沖縄のことをとても誇りに思っている。(海外参加者・男)



パフォーマンス自主練習の様子 OB/OB が教えに来てくれた

## 学習プログラム【六日目】 8/8(金)

時間	内容	詳細	担当/講師
09:30-12:00	社会学習Ⅱ	藍染体験、古民家見学	沖縄こどもの国
14:00-17:00	総合学習Ⅱ	振り返り&報告会準備	沖縄 NGO センター
17:00-19:30	伝統芸能学習Ⅱ	パフォーマンスワークショップ	TAO ファクトリー

### ■ 社会学習Ⅱ

日時： 平成 26 年 8 月 8 (金) 9:00 ～ 12:00

場所： 沖縄こどもの国 チルドレンズセンター

講師： 沖縄こどもの国 幸喜 新氏

目的： 参加者の祖父母や曾祖父母が生きた時代の生活を体感する。自然の厳しさと恵みの中で、自然や人とのつながりを大切にしながら生きてきた沖縄の先人の知恵を学ぶ。

内容： 藍染体験、古民家見学

結果： ほとんどの参加者が初めての藍染体験で、和気あいあいとした雰囲気デザインに取り組んでいた。藍は防虫・殺菌効果があるため、古くから沖縄では重宝されており、昔の人たちの知恵に感心する参加者もいた。自分のデザインに愛着がわき、完成したストールを、アクセサリーとして最終日まで身に着けている参加者もいた。復元された明治末期から大正時代の沖縄の家屋が建っている「ふるさと園」を見学した際には、特に海外参加者たちの反応が大きかった。「祖父母から聞いていた沖縄の家に似ている」と興味深く家屋を観察し、仏壇の部屋の位置や、ひんぷんなど、風水の影響や生活の知恵が詰まった家造りから、昔の人の自然との繋がりや暮らしを感じていたようである。





## ■ 総合学習Ⅱ

日時： 平成 26 年 8 月 8 (金) 14:00 ~ 17:00

場所： J I C A 沖縄国際センター 多目的室

講師： 沖縄 NGO センター 大仲 るみ子氏

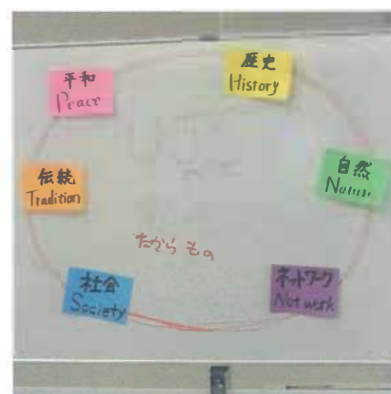
目的： 今回の各学習プログラムでの体験を通して共に学んだことから「沖縄の宝」を探し、宝モノを残し、守っていくためにネットワークを活用し、共にできることを考える。最後に参加者それぞれのこれからの「行動宣言」を考え、発表する。

内容： お互いの良いところをメッセージで贈る  
ウチナージュニアスタディーで見つけた「宝物」

結果： 「未来に残したい宝物は何か」

一週間の様々なプログラムを通し、仲間との絆を深め、多方面から「沖縄」を学んできた参加者。最終日の報告会に向け、振り返りの時間を持った。

まずはアイスブレイクとしてみんなの良いところをポンチョに書き、メッセージを仲間たちへ贈った。休み時間には、書ききれなかったメッセージを書きに行ったり、じっとメッセージを読んだりする姿が見られた。報告会では、未来に残したい沖縄の宝を学習プログラムのテーマ毎に発表することを決め、これまで様々なワークを行ってきた班で学んだことをブレインストーミングした。平和・歴史・伝統・自然・社会・ネットワークの6テーマで意見を出し合った。その後各自が発表したいテーマに分かれ、報告会に向けての準備が始まった。



## ■ 伝統芸能学習Ⅱ

日時： 平成 26 年 8 月 8 日 (金) 17:00 ~ 19:30

場所： J I C A 沖縄国際センター 多目的室

講師： TAO ファクトリー 藏當 慎也氏

目的： 発表に向けて、最後の練習を行う。

結果： プログラム 3 日目から始まった練習も、この日が最後。練習時間以外にも夜や空き時間に集まり、大まかな振り付けはマスターすることができた。最後のステージ演舞の完成度を高めるため、全体の統一感や見せ所となるポイントなどを TAO ファクトリーから指導してもらった。最後の声出しでは、全員が一つの舞台を創り上げる意気込みが湧き出していた。



## 参加者のレビューシートから【六日目】

### 【社会学習Ⅱ】

- ・藍染めが植物からできること、たくさんの工程と時間が必要なことがわかった。(県内参加者・女)
- ・伝統文化である藍染を体験できたことはとても良かった。(海外参加者・男)

### 【総合学習】

- ・みんなからのメッセージを読んで、ものすごく感動した。大切な仲間が世界中にでき、最高の夏になった。(県内参加者・女)
- ・プレゼンテーションの準備は大変だけど、頑張って最高のプレゼンをしたい。(県内参加者・女)
- ・ポンチョのメッセージを書くのはとても良いアイデアだと思う。家に持って帰り大切にしたい。(海外参加者・女)
- ・最後に沖縄での生活を振り返り、それをまとめることができた。(海外参加者・女)

### 【班行動で自分の係の仕事ができましたか】

- ・レポートの提出の声掛けを頑張った(県内参加者・男)
- ・自分自身の思いをメンバーに伝えられた。(海外参加者・男)

### 【ウチナーネットワークを担う一員として何か感じたことはありましたか】

- ・このネットワークをどう生かしていくのか、真剣に考えていきたい！(県内参加者・男)
- ・これからどうしていくかを考えて自分たちが発信できることを知った。もっと沖縄のことを発信していきたい。(県内参加者・女)
- ・この一週間で学んだことをすべて、いろいろな方法でたくさんの人に伝えたい！(県内参加者・女)



少しの時間だが、この仲間たちで念願の海へ！

## 学習プログラム【七日目】 8/9(土)

時間	内容	詳細	担当/講師
09:00-11:30	総合学習Ⅱ	報告会準備	沖縄 NGO センター
14:00-16:30	報告会・修了式	グループ別発表、行動宣言 修了証授与	
17:00-19:00	フェアウェルパーティー		

### ■ 総合学習Ⅱ

日時： 平成 26 年 8 月 9 日(土) 9:00 ～ 11:30

場所： JICA 沖縄国際センター 多目的室

講師： 沖縄 NGO センター 大仲 るみ子氏

目的： 報告会に向けて、グループごとに内容をまとめる。

結果： 前日に引き続き、報告会の準備に取り掛かった。グループによっては、前日のプログラム終了後に集まって準備を進めたところもあり、一週間の学びをどのように伝えるか、参加者が試行錯誤している様子が伝わってきた。また残り時間を惜しんで交流を深めているようでもあった。それぞれ様々な一週間の思いを抱えながら発表をまとめ、準備ができたグループは各々リハーサルに入るなど、これまでのグループ学習のやり方が板についてきているようだった。最後に個人発表の「行動宣言」を書き、午後の報告会に備えた。



## ■ 報告会・修了式

日時： 平成 26 年 8 月 9 日(土) 14:00 ～ 16:30

場所： JICA 沖縄国際センター 多目的室

目的： 一週間で学んだことの成果を発表する

### 【式次第】

#### ① 報告会

主催者挨拶

沖縄県知事公室

秘書広報交流統括監 曾根淳

学習プログラムの振り返り

兼城 凜子（青年リーダー）

研修報告・行動宣言

参加者全員

#### ② 修了式

ジュニア大使認証状授与

海外参加者

修了証授与

県内参加者

感謝状授与

青年リーダー

～ 記念撮影～

結果： 各学習プログラムで学んだことは何か。「社会」「歴史」「平和」「伝統芸能」「自然」、そして「ネットワーク」をテーマに、グループでまとめた結果を劇やポスター等それぞれの方法で表現した。今回新しく得た知識や経験を今後どう活かし、どう「沖縄」を守り継承していきたいか。ウチナージュニアスタディーの学びや交流は今日で終わりなのではなく、今日から始まるのだということ共有した。各自の行動宣言では、今後自らが沖縄文化の発信者となり、ウチナーネットワークの絆を大切にしていくと宣言。最後に修了証等を授与され、各国との架け橋となることを誓った。





## ■ フェアウェルパーティー

日時：平成26年8月9日(土) 17:00～19:00

場所：JICA沖縄国際センター 体育館

目的：UJSすべての関係者に感謝の気持ちを伝え、最後の思い出となる時間を過ごす。

### 【式次第】

- |                              |  |
|------------------------------|--|
| 1. 参加者全員によるパフォーマンス『ダイナミック琉球』 |  |
| 2. 開会の挨拶                     | 沖縄県知事公室 広報交流課<br>交流推進監 下地 誠                                  |
| 3. 乾杯の音頭                     | 沖縄アルゼンチン友好協会<br>会長 仲村渠 友邦                                    |
| 4. 参加者代表挨拶                   | 比嘉 舞優(コザ高校)<br>マリッサ キング(カナダ)<br>～ 食事・懇談～                     |
| 5. 参加者による余興                  |  |
| ⑤ ブラジルのダンス                   | 金城 奈美枝 (ブラジル)<br>新里 ファビアン(ブラジル)                              |
| ⑥ メキシコの伝統舞踊                  | 山入端 ヒロミ(メキシコ)  |
| ⑦ ボイスパーカッション                 | 兼城 賢翔(南風原高校)   |
| ⑧ ペルーの民族舞踊                   | イータン ジャックソン(アメリカ)<br>ジョアナ 伊礼 エスコバル(ペルー)<br>セルベラ 国頭 ディエゴ(ペルー) |
| ⑨ ボリビアの民族舞踊                  | 比嘉 照 (ボリビア)<br>屋良 朝晴(ボリビア)<br>玉城 優美(ボリビア)                    |
| 6. スライドショー<br>&贈る言葉          | 兼城 凜子<br>ジョアナ 伊礼 エスコバル                                       |
| 7. 閉会の挨拶                     | JOCA 佐藤 豊  |
| ～ 記念撮影～                      |  |

結果：いよいよ迎えた「ダイナミック琉球」の本番。この瞬間のために、寝る間を惜しんで練習に取り組んできた。衣装をまとい、ステージに立った参加者からは不安な表情は消え、堂々とした演舞者の顔になっていた。音楽が始まり、祈りのポーズから勇壮な舞いを展開していった。迫力のある見事なステージに、会場からは拍手と歓声が響き、参加者の成長を感じ目頭を押さえる関係者の姿もあった。

参加者代表挨拶では、この一週間がかけがえのない時間であったことが強調され、保護者や関係者への感謝の気持ちを伝えていた。最後にはほとんどの参加者が泣き出し、抱き合ってプログラムの終了を惜しんでいた。



## アフターイベント 11/8(土) @ おきなわ国際協力・交流フェスティバル

### ■アフターイベント

日時：平成26年11月8日(土) 13:00 ~ 14:00

場所：JICA沖縄国際センター 多目的室

目的：学習プログラムを振り返ると共に、一般の人々にUJSについて知ってもらい、その意義や目的を共有する。また参加者主体のプログラムを通して、自ら企画・運営する立場となって、UJSの学びを同世代と分かち合い、ウチナーネットワークを担う次世代の交流の場に繋げる。

内容：プログラムの内容をパネル展示、「沖縄」を見つめるワークショップ

結果：沖縄発の国際協力・交流を県民に体験して頂くことを目的として開催される「おきなわ国際協力・交流フェスティバル2014」。その中の県ブースに事業を紹介するパネルを作成した。アイデアを出し合いながら写真や新聞記事等を組み合わせて、一週間の学びをプログラム毎にまとめる中で、改めてUJSを振り返り、ウチナーンチュとしてのアイデンティティーや誇りについて考える機会となったようである。

そして参加者の発案でUJSの学びを一般の人々と共有しようと兼城賢翔君（南風原高校）の進行でワークショップを行った。「平和」「歴史」「伝統」「ネットワーク」の4つにテーマを絞って沖縄とそれらのキーワードで連想するものを出し合い、出されたアイデアを書いた付箋からイメージされる「絵」を作っていた。UJS参加者たちは、グループワークを進めながら、UJSで海外参加者と学校の平和学習の違いについて話し合ったエピソードや、知る機会の少ない琉球の歴史等、この夏の学びや経験を他の参加者と共有していた。4つの絵はそれぞれユニークな発想でまとめられており、「伝統」をテーマとしたグループでは、沖縄の様々な伝統が昔から現在、そして未来へリレーのように続いていることを表現していた。

最後に「こうして沖縄について考えることが、ウチナーンチュである誇りを継いでいくことに繋がっていく。今日やったことを家族や友達にも話して沖縄についてもっと知ってほしい」、とUJS参加者が全員前に出てワークショップを締めくくった。ワークを進めながら、中心となってまとめていくUJS参加者の姿はとても頼もしく、彼らが確実に未来へ向かって沖縄と世界の架け橋となる一歩を踏み出していることが伝わってきた。





### 3.参加者感想文

## (1)海外参加者



ユイ ジーン クリフォード (17)

Yui Jean Clifford

ワシントン DC 沖縄会 (USA)

### 「ウチナージュニアスタディーに 参加して見つけた自分」

UJSの旅は、わたしの人生で大きな経験でした。同じような文化の伝統を受け継いだ世界中の人々といっしょに活動し、いっしょの時間を過ごせて楽しかったです。残念だったことは、この旅が台風のために大きな影響を受けたことです。取り消されてしまったプログラムがたくさんあったため、予定されていた色々な体験学習を満喫できなかったのでは、と思いました。ほとんどの時間を代わりのプログラムに費やしたほか、自ら何かを体験するというよりは、教室の中で色々な情報を学び観察することに時間を費やしました。しかし、わたしはこの旅から多くを学ぶことができました。大きな同じような文化の伝統のもとに結びついた世界が、どのようにしてわたしに大きな影響を与えてきたのか、ということについて、この旅でじっくりと考えることができました。このことは、沖縄の伝統がどのようにして世界に広がっていったのかという移民学習から始まりました。琉球王国の歴史も楽しくて、わたしは沖縄文化に興味を持ち始めました。その後、藍染めを体験し、ひめゆりの塔・平和祈念資料館を訪問しましたが、この2つにもっとも心を動かされました。学習プログラムはそれぞれ異なるものでしたが、相互に影響を及ぼし合う性格のものでした。互いに影響を与えあうため、経験を存分に味わうことができ、生涯の思い出となりました。

これらの学習プログラムを通じて、わたしは自分の思いと考えを伝えることができました。そして将来どのようにして世界に影響を与えていきたいのかについて考えをめぐらせることができました。わたしは、この「ウチナー平和」プロジェクトを通して沖縄の価値を世界に広め、沖縄の平和の思想がどれほど世界をより良くしていくのに役立つか、人々に教えたいと思います。これを実現するために、わたしは人々と連携の輪を作る必要があります。また、人間の絆を通して沖縄の価値を広げていきたいと思っています。このことを踏まえると、UJSに参加できたからこそ、わたしは人々と絆を結ぶことができたと思います。いっしょに過ごしたのはわずか1週間だったかもしれませんが、時間の短さとは比べものにならない特別なものでした。UJSの人々とつながりができたので、世界中の人々とつながりができたように感じます。さらに、いつの日か、世界は1つに結ばれるだろうと思いました。世界が1つに結ばれると、世界はより良きものに変化することでしょう。1つの小さなプログラムで芽生えたものは、何かもっと大きなものに成長することが可能です。UJSは、相互に影響を及ぼしあうような、人の心に訴えかける活動にもっと狙いを定め、参加者たちがほかのUJSの参加者たちと交流できるようにするべきだと思います。わたしたちは、自ら体験し、仲間たちと話し合うことで、もっとも学ぶことができると 생각합니다。こうした体験と対話があれば、UJSによって、人々の絆はより一層強まり、沖縄の伝統・文化遺産はより大きな影響を持つことになると思います。

### 「Finding myself through UJS」

Uchina Junior Study tour was a great experience in my life. I enjoyed all the activities and the time that I spent with the people all around the world with some similar heritage. Unfortunately, the typhoon had a large impact on our trip. Many of the activities were cancelled and I felt like we weren't able to receive the full experience. We spent most of our time doing other activities in replacement or inside the lecture room to learn and observe the information rather than experience it. But, I learned a lot from the trip and made me critically think about how the unity of the world under one main similar heritage has made a large impact on me. It started from the emigration lecture talking about how the heritage spread across the world. Then I enjoyed the history of Ryukyu Kingdom, igniting my interest in Okinawan culture. Later in the program, the indigo dyeing and the visit to Himeyuri Museum impacted me the most. These programs were different because it was interactive. Interactive activities leave a full experience and a lasting impression. Through these programs I was able to communicate my ideas and thoughts. This got me to think about how I want to impact the world. Through our project of Uchina Peace, I want to spread Okinawan values to teach others how Okinawan thought of peace can help better the world. To accomplish this, I need to make connections among people and spread it through the bonds of people. With this in mind, what made UJS so very special was the bonds that I made there with the people. It may have been only a week together, but it felt way more special than that. Having connections with people of UJS, feels like having connections around the world and that one-day the world could be united. Through the unity of the world, it could change for the better. Therefore, starting small in a little program can develop to something larger. I think that UJS should focus more on the impactful activities such as interactive activities and allow the students to interact with other UJS members. We learn the most through experience and talking with our peers. Through this, UJS can have a larger impact with stronger bonds and a legacy of Okinawan Culture.





イータン ジャックソン (18)

Ethan Jackson

アトランタ沖縄県人会 (USA)

### 「私のUJSでの経験」

私の名前はイータン・ジャックソンです。何よりもまず、今回の旅を実現させてくださった全ての方々から感謝の言葉をのべさせてください。経費を負担してくださった沖縄県に、今回の旅をぼくの生涯の思い出にしてください。UJSのスタッフの皆さんに、そして、私の沖縄滞在中に色々とお世話をしてくださいました家族の皆さんに。私にとって日本への訪問は初めてで、生涯忘れることはできないものになりました。

沖縄では、実に様々な多くのことを学びました。沖縄がなぜかとも聖なる地であり、なぜかもありがたい地なのかということも学びました。あのように小さなコミュニティであっても、人々は共に働くことができ、望むことを何でも成し遂げることができるということも学びました。だから、グループ別のワークショップが本当に気に入りました。何人かの人と話したということではなく、今回の旅に参加した一人ひとりと十二分に知り合うことができたのです。

私が一番好きだった学習プログラムは、伝統工芸の体験学習でした。たとえば、藍染めです。何百年もの歴史をもちながら、今日でも、まるで新しいもののように、現代に息づいているのです。伝統芸能のバックステージツアーも気に入りました。和太鼓打ちを体験できましたが、最高でした。演奏の若者たちは太鼓そのものの一部となって、全身全霊を太鼓に打ち込んでいました。その心と魂が私に伝わってきました。そんな若者たちが、私たちのために時間を割いて才能を披露してくれたことで、今回の旅は生涯忘れえないものになりました。私はどちらかというと、経験して学ぶタイプです。だから、ワークショップの中には、学校の授業か何かを受けているようなものがあって、退屈すぎる感じのものがありました。3時間も座っていなければならないようなワークショップは、もっと面白くする手立てを見つけるべきではないでしょうか。私自身、学校の授業の感じがするプログラムは好きではありませんでした。旅のおかげで私の楽しみレベルが多くの面でかなり広がりました。今回、やってみたくもないことをたくさんしなければなりません。例えば、最後の日のダンス。ダンスなんておかしくて、私は全然やりません。スケートボーダーはダンスなんてしません。だから、その日、私はやる気がないように見えたと思います。ところが、です。やらなければならないので、とにかく、やってみました。すると、うまくいかなかったのに、やり通すと気分がよくなったのです。結果的にOKでした。今回の旅でこうしたことを学びました。UJSを開いてくださいました皆様、重ねてありがとうございます。私の人生を変えた旅、もう2度とめぐりあえない旅だと思います。

### 「My UJS Experience」

My name is Ethan Jackson, and first off what I want to really say is thank you so much to all of the people that helped put this together, and who paid for it, and for the staff of UJS to help make my trip a memory of a lifetime, and to all of my family who helped me and took care of me while I was there too. My first time in Japan I could never ever forget. I learned so many different things while I was over there. I learned why the land is so sacred and why we appreciate it so much. It taught me that even in such a small community, you can work together and accomplish anything you want to. That's why I really liked the group workshops because it gave me a chance to completely get to know everyone on the tour, instead of only talking to certain people. My most favorite part of the program were the traditional activities that we were able to participate in like the indigo dyeing, something that was done many many years ago is being used in present day today like it's a new thing. The back stage tour of the performing arts was also one of my favorites because I got to play the taiko (which was super fun) and it showed me the heart and soul of the kids that were a part of it and they really put their everything into that, just them giving us time to show us a couple of their special talents is another thing I will be forever grateful for from the trip. Since I'm more of a hands-on type of learner some of the workshops got way too boring for me like I was at school or something. I feel like we should find a way to make those workshops that you have to sit for 3 hours in way more fun, I just didn't like the school feeling mainly. The tour pushed my comfort levels a lot in many ways, and I had to do a lot of things that I was not comfortable with. Like with the dance we had to do at the end, it pushed me because I did not want to do the dance AT ALL because I don't dance, skateboarders do not dance, so I wasn't looking too good. But I did it anyway and even though I messed up, I still felt better about myself because I went through with it and it turned out to be okay. Those were the types of things that the tour taught me. Thank you to everyone again who put this together. It was a life changing trip that I can never take back.





マリッサ キング (15)

Marissa King

レスブリッジ沖縄文化協会

(Canada)

### 「ウチナージュニアスタディーに 参加して見つけた自分」

UJSの参加者として沖縄を訪問する前、私にとってウチナンチュであるということがどういうことなのか、わたしは本当のところ、わかっていませんでした。以前、わたしは、日本人の血が半分はいつている、と人に言っていました。でも、今では、ウチナンチュの血が半分はいつている、と言うようになりました。そして、わたしはそう言えることを誇らしく思っています。沖縄県人会の活動にもっと参加しよう、沖縄の歴史を勉強しようと思い立ったとき、わたしにとってUJSが最高のチャンスとなりました。参加させてもらえてとても感謝しています。わたしの人生を足元から変える体験で、生涯、忘れられないものになるでしょう。沖縄がわたしの恋人になるなんて夢にも思いませんでした。美しい島、また行きたい島、住みたい島・・・でも、まず日本語を勉強しなくちゃ。あんなに短い時間だったのに、みんなと仲良くなれるなんて思ってもみませんでした。

UJSの最後の日、色々な思いがこみあがってきました。参加できてうれしかったという思い、感謝の気持ちでいっぱいになったこと、せっかく知り合ったみんなが全員で一緒にの日を過ごせるのは今日が最後なのだと思って悲しくなったことなどです。色々な気持ちがこんがらがってしまい、わたしはその日に撮った写真でほとんど泣き顔だったと思います。でも、振り返ってみると、今回沖縄についていっぱい勉強することができましたし、これからも、沖縄の勉強を続けていきたいと思っています。

わたしは特に、平和学習と琉球王国の歴史に興味を持ちました。沖縄で学んだことはカナダに帰った後、県人会の人々にお話をしました。そのうち、何人かは将来、「ウチナージュニアスタディー」に参加すると思っています。私はこれからずっと県人会の活動に参加しようと思っています。というのも、わたしたちがどこから来たのかを知ること、わたしたちが今住んでいる所にわたしたちのご先祖様がどのようにしてやってきたのか、その歴史を知ることが大切なことだと思うからです。沖縄から帰国して現実の世界に戻ると、わたしの頭と体はショックを受けてしまいました。時差ぼけになりましたし、カルチャーショックもありました。「全快」するのに1週間ほどかかってしまいました。でも、それなのに、沖縄のことを思うと、たった2週間しかいなかったのに、ホームシックになってしまいました。こんな経験をさせてもらい、お礼の気持ちをいいつくせません。400語以内の感想文ではとても書きつくせません。本当にありがとうございました。沖縄のみなさんとまたお会いできればと思っています。

### 「Finding myself through UJS」

Before coming over to Okinawa and being a participant in UJS, I was not really sure what being Okinawan meant to me. Before I used to just tell people that I was half Japanese but now I tell them that I am half Okinawan and that I am proud of it. When I decided that I wanted to be more active in my kenjinkai and learn about the history of Okinawa UJS was the perfect opportunity for me. I am so grateful that I got to be a part of this, it has truly been a life changing experience and I will always remember it. I did not expect to fall in love with Okinawa so much, it is such a beautiful island and I want to go back there and stay but first I will learn Japanese ha-ha. I also did not expect to grow so close to everyone in such a short amount of time. The last day of UJS was full of mixed emotions for me, I was happy that I got to be a part of this, thankful too, and also sad because I knew that we weren't going to spend every day together again. I was a mess that day and am pretty sure I am crying in most of the pictures that were taken that day. But looking back, I have gained so much knowledge about Okinawa from this experience and I want to continue learning about it. I am especially interested in the peace studies and also the history of the Ryukyu Kingdom. I have shared what I have gained from this experience with my Kenjinkai and I think there may be some future UJS members. I want to keep my Kenjinkai around because I believe that it is important to know where we come from and know the history of how our ancestors came to place where we live now. Coming back to Canada and reality, it was a shock to my system and it took about a week for me to get over my jet leg but also the cultural difference and I became homesick for a place that I was only there for two weeks. I cannot express how thankful I am for this experience and 400 words is not long enough. Thank you and I hope we can meet again.





比嘉 照 リカルド (18)

Sho Ricardo Arata Higa

ボリビア沖縄県人会(Bolivia)

### 「ウチナージュニアスタディーに 参加して見つけた自分」

初日からとても心が広く、友情やホスピタリティの精神を持つ陽気な人たち、沖縄を通じてこれから長い間、関係を続けていける人たちとの出会いがありました。沖縄は小さな島ですが、豊かな文化、歴史、陽気さのある島です。

台風のせいであくつかのスケジュールが実施されなかったのは残念でしたが、代わりに別の活動があり、そこでも色々学び楽しむことができました。約2キロの長さがある那覇の国際通りに行きましたが、ここではあらゆるものを売っていました。その後沖縄県庁に行きました。そこで開会式が行われ、歓迎の言葉を頂きました。

ペルー移民に関する話の中で、負けないように、障害を乗り越えることを辞めないように、前に向かって進むという話がありましたが、それは私たちのオジイチャンやオバアチャンがやってきたことであり、非常に考えさせられました。いつまでも先祖のことを称えていかななくてはなりません。

沖縄がどうして常に平和主義なのか、それから沖縄が中国と日本と東南アジアの間に入って貿易をしてきたことなど、沖縄の歴史についても学びました。私が驚いたことは、沖縄は昔から長い間、沖縄の文化を表に出して闘ってきたことで、私はこの考え方がとても好きです。

たしか火曜日だったと思いますが、肝高の阿麻和利を見に行きました。私が今までにみたショーの中で最も素晴らしいもので、感動しました。全く非の打ちどころがなく、沖縄流の様々な踊りの踊り手から（たくさんの方がいました）、信じられないほど上手な歌のバンドまで、本当に、本当に素晴らしかったです。

平和についての考えを聞き、話し、みなさんと共有しました。ひめゆりの歴史を見聞きした後で、戦争というのはすべてを破壊するひどいことであること、なにがなんでも避けなくてはいけないものであるということがわかりました。この苦しみは人類が繰り返してはならないものであり、私たちは次の世代に戦争の恐怖を語るべきです。

違う国に住み、違う言語を話しているけれども共通している文化を一つの場所で共有し、ずっと昔から友達だったかのように一緒に生活をしたことは、素晴らしい文化体験で、私の心の中にしまっておく宝物です。私の経験を私の国の次の世代に伝え、沖縄文化の保護のために貢献していきます。

### 「Que pude encontrar a través de UJS」

Desde el primer día pude conocer personas de gran corazón, personas con ese espíritu de amistad, hospitalidad y alegría, personas con las que pude crear lasos duraderos, conectados por Okinawa, una isla pequeña pero rica en cultura, historia y alegría.

Bueno aunque fue una lástima que el tifón arruinara algunos planes, estos fueron reemplazados por otros en los cuales aprendimos y nos divertimos mucho, pude conocer la calle internacional de Naha que recorre aproximadamente 2 kilómetros, había de todo un poco, luego fuimos a la prefectura de Okinawa en donde tuvimos el acto de inauguración, nos dieron palabras de aliento y de bienvenida.

Algo que me hizo pensar fue el discurso sobre la inmigración peruana, donde nos hablaron de no rendirnos, de no dejarse vencer por los obstáculos y seguir adelante, porque eso es lo que nuestros ojichans y obachans hicieron, y hay que honrar su memoria siempre.

Aprendí también de historia de Okinawa, de cómo Okinawa siempre fue pacifista e incluso comerciante entre la china, Japón y el sudeste asiático, quede sorprendido con como pensaban desde ya mucho tiempo atrás "combatir mostrando la cultura de Okinawa, mostrarle al mundo Okinawa a través de su cultura" me gusto mucho aquel pensamiento.

Un martes si mal no recuerdo fuimos a ver un "ensayo" de la obra musical Amawari, fue el mejor show que he visto, quede conmovido por la excelente presentación, realmente impecable, desde los bailarines (que eran muchos) con sus diferentes danzas estilo okinawense, hasta la banda con canciones increíbles, fue muy pero muy bueno.

Escuchamos, hablamos y compartimos ideas de paz, luego de escuchar y ver la historia de himeyuri, vimos como la guerra es algo devastador y horrible, algo que se debe evitar a toda costa, debemos transmitir este sentimiento, contar a futuras generaciones los horrores de la guerra para que no tengan la humanidad que volver a vivir ese gran sufrimiento.

La cultura que compartimos de nuestros distintos países, los diferentes idiomas, y todos conviviendo en un solo lugar, como un solo grupo, como si fuéramos amigos de toda la vida, fue un intercambio cultural asombroso, un tesoro para guardar en la mente y el corazón. Transmitiré mis experiencias las futuras generaciones de mi país y contribuiré a la conservación de la cultura okinawense en el.





屋良 朝晴 (16)

Tomoharu Yara

ボリビア沖縄県人会 (Bolivia)

### 「忘れられない偉大な経験」

まず初めに、先祖の土地を知りたいという私の夢を実現させてくれた沖縄県にとっても感謝をしています。また、この旅は驚くほど素晴らしいもので、とても面白い文化や習慣を知ることができました。びっくりしたことはたくさんありますが、そのうちの一つは、沖縄の人たちのホスピタリティです。もう一つは、食事です。あんなに美味しい料理は今までに食べたことがありませんでした。私は島に行ったのは生まれて初めてで、海を見るのも初めてだったのでとても感動しました。ホームステイをしていた時は、日本語を覚え、上手になるだけでなく、たくさんの場所に行き、たくさんの人と知り合いになりました。私の親戚はとても親切にしてくれて、いつも私を守ってくれました。その上、無料で食事も宿泊場所も提供してくれました。ボリビアが懐かしくなることもありましたが、沖縄が大好きになったので、ボリビアに戻りたくなかったです。

私はUJSのプログラムをととても気に入りました。たくさんの面白いこと、知らなかったことを学ぶことができてよかったです。藍染、国際通り、肝高の阿麻利などたくさんの経験を通じて、沖縄文化がもっと好きになりました。新しいことや面白いことを学びたいという気持ちで毎朝気持ちよく起き、その後友達と話しをしながら朝食を食べ、他の国の文化についても学びました。その後で講習に行きました。大変な講習もあったけれど、どれも興味深いものでした。JICA沖縄国際センターには素晴らしい施設があります。食事、娯楽室、カラオケ室、サービス、部屋、すべてがよかったです。一日を終えて学び疲れていても、元気を回復することができました。また、ボランティアの人たちも素晴らしい人たちで、いつも私たちを助けるためにそばにいて、わからない言葉を通訳してくれて、より楽しく過ごすことができました。台風の影響でキャンプファイヤーやビーチに行く計画がなくなりましたが(ビーチにはほんの少ししか行けませんでした)、バス旅行などすべてのプログラムをみんなで楽しみました。

これだけたくさんの国の若者が集まり、自分たちのルーツや文化を学びながら、兄弟のように一緒に生活するという事は、またとないよい経験でした。みんなこの経験の中でできる限り多くのことを学び、楽しもうとしたと思います。これからは、沖縄の素晴らしい文化に関する知識を広めるなどして、学んだことを活用していこうと思います。そうすることで、ウチナーンチュの若者たちが沖縄文化をもっと好きになり、沖縄県から提供されるスカラシップ制度を利用するようになります。そうすることで他の若者たちも違う文化に関する知識を広めることができます。沖縄文化のような他に類のない文化は、決して失われてはいけないと思います。

### 「Una gran experiencia inolvidable」

Primeramente, me siento muy agradecido hacia la prefectura de Okinawa, que hizo realidad mi sueño de conocer la tierra de mis ancestros. Además, el viaje fue asombroso, conocí culturas y costumbres muy interesantes. Hubo muchas cosas que me sorprendieron, una de ellas fue la hospitalidad de los habitantes de Okinawa. Otra fue la comida, la más deliciosa que había probado en mi vida. Yo nunca había estado en una isla, ni había visto el mar, por eso me sentía muy emocionado. Mientras estaba en homestay, conocí muchos lugares y personas interesantes, además de ir recordando y mejorando mi japonés. Mis parientes fueron muy amables conmigo y siempre me estaban cuidando, encima de eso, me daban alimento y hogar gratis. Aunque extrañaba mi país, Bolivia, no quería regresar, pues Okinawa me encantaba.

Acerca del programa UJS, me gustó mucho, pues pude aprender muchas cosas interesantes, y que no sabía, lo que me agrado mucho. Aizome, kokusai dourí, kimutaka no amawari, hubieron muchas experiencias que incrementaron mi gusto por la cultura okinawense. Todos los días me levantaba con un buen humor, dispuesto a aprender muchas nuevas e interesantes cosas, luego desayunaba conversando con mis amigos, aprendiendo también sobre otras culturas. Luego venían las clases, algunas muy agotadoras, pero siempre interesantes. Debo felicitar también a JICA por sus excelentes instalaciones. Todo era muy bueno: la comida, la sala de juego, la sala de karaoke, el servicio, las habitaciones, todo en general, excelente. Todo esto hacia que levantáramos el ánimo y ganemos fuerza luego de un agotador día de aprendizaje. También debo destacar al voluntariado, pues siempre estaban a nuestro lado apoyándonos, ayudándonos, traduciendo algunas palabras que no lográbamos entender, haciendo la experiencia aún más interesante y placentera. Aunque hubo algunos inconvenientes por causa del tifón, que causaron disgustos como el que no pudiéramos ir al camp fire o a la playa (fuimos tan solo un momento), todos, y me incluyo, disfrutamos todos los programas, viajes en autobús, en fin, todo.

El que pudiéramos reunirnos jóvenes de tantos países y convivir como hermanos, aprendiendo sobre nuestros orígenes y culturas es una oportunidad que tal vez nunca podamos repetir, por eso creo que todos nosotros le sacamos el máximo provecho. Y ahora, utilizare todo lo que aprendí para que se expanda más el conocimiento acerca de la asombrosa cultura okinawense. Y esto lo lograre haciendo que los jóvenes uchinanchuus se sientan más atraídos hacia la cultura uchina, y participen en becas de estudio ofrecidas por la prefectura okinawense, para que así puedan expandir sus conocimientos de otras culturas. Pienso que una cultura tan única como la okinawense no debe perderse jamás.





玉城 優美 (13)

Yumi Tamashiro

ボリビア沖縄県人会(Bolivia)

### 「ウチナージュニアスタディーで 学んだこと」

私が今年、このツアーに参加した理由は、どのような学習ができるのか知りたく、また自分のアイデンティティーをより明確にすることで、今回応募しました。

UJSのメンバーと初めて会ったとき、何を話したらいいのか分からなく、カチンコチンで、話どころじゃありませんでした。でも、時間が過ぎていくにつれて、皆となじみ、いつの間にか、家族のような友達関係が出来上がっていたのです。またいろんな学習に取り組み、私たちは、その大切さや考え方まで変わってきました。UJSがあった為、私たちは、沖縄のいろんな姿が見えてきました。そして、見て、触れて、学ぶことができました。そのほかにも自然学習、沖縄の海的美しさに感動しました。

平和学習では、自分の意見をしっかり持ち、トラブルを起こす前に、話し合いが重要だと学びました。歴史学習では、琉球王国時代の沖縄と中国との関係があったということが分かりました。文化学習では、藍染めや現代版組踊の阿麻和利の指導も受けました。すごくかっこよかったです。このほかにもいろんな場所に行きました。

私は、UJSのおかげで、沖縄がもっともって好きになり、このツアーをできる限りコロニアに広げて行きたいと思っています。そしていつかボランティアとして、参加できたらいいと思っています。今の私は、沖縄に行ってもっと気づきました。前までは、私の住んでいるボリビアは沖縄と何も関係の無い国と思っていましたが、沖縄に行ってみると違う国、場所から来てそして、「みんな一緒だよ」と言われた瞬間、ほっとした気がしました。なぜなら、沖縄からどんなに離れていても同じく繋がっているんだと思えたからです。「どんなに離れていても繋がっている」まるで、一期一会ですね。

最後に、全プログラムを通して伝えたいことは、こうやってUJSのようなプログラムがあるから、沖縄の文化は忘れられずに済み、これからも広がりつつあるのじゃないかと思っています。なので、絶対にこの大切なつながりが失われないように、UJSのツアーをみんなで守っていければと考えています。UJSで私は、新しく考えられるようになったような気がします。本当にたくさん沖縄の方に感謝しております。本当に自分のためにもなりましたし、これからの人たちもすぐのためになると思っています。沢山、いい思い出が出来ました。

### 「UCHINA JUNIOR STUDY DE MANANDA KOTO」

WATASHIWA KOTOSHI CONO TOUR NI SANKA SHITA RIUU WA DONOYOUNA GAKUSHUU GA DEKIRUNOKAGA SHIRITAKU, MATA JIBUN NO IDENTITI WO YORI MEIKAKUNI SURUKOTODE CONKAI OOBOSHIMASHITA.

U.J.S. NO MEMBAA TO HAJIMETE ATTATOKI NANIWO HANASHITARA HNOKAGA WAKARANAKU KACHINKOCHIN DE HANASHIDOKORO JA ARIMASEN DESHITA. DEMO JIKAN GA SUGITEKUNITSURE MINA TO NAJIMI ITSUNOMANIKA KAZOKUNOYOONA TOMODACHIKANKEIGA DEKIAGATTEITANODES.

MATA IRONNA GAKUSHUUNI TORIKUMI, WATASHITACHIWA SONO TAISETSUSA YA KANGAEKATA MADE KAWATTEKIMASHITA .UJS GA ATTATAME WATASHITACHIWA OKINAWA NO IRONNA SUGATA GA MIETEKIMASHITA .SOSHITE MITE HURETE MANABUKOTOMO DEKIMASHITA .SONO HOKANIMO :SHIZEN GAKUSHUU:OKINAWA NO UMI NO UTSUKUSHISA NI KANDOU SHIMASHITA .

HEIWA GAKUSHUUDE WA: JIBUNNO IKENWO SHIKKARI MOCHI SEIJIKA WO KICHINTO KIMERU KOTOTO TORABURU WO OKASUMAENI HANASHIAIGA JUUYOU DATO MANABIMASHITA.REKISHIGAKUSHUUDEWA: RYUUKYU OUKOKU JIDAINO OKINAWA TO CHUUGOKU TONO KANKEIGA. ATTA TOIUKOTO GA WAKARIMASHITA.BUNNKA KAKUSHUUDE WA: AIZOME YA GUENDAIBAN KUMIODORINO AMAWARINO SHIDOU MO UKEMASHITA .SUUGOKU KAKKOYOKATTADESU.KONOHOKANIMO NIMO IRONNA BASHONI NI IKEMASHITA.

WATASHIWA UJS NO OKAGUE DE OKINAWA GA MOTTO MOTTO SUKINI NARI, KONO TOUR WO DEKIRU KAGUIRI.COLONIA NI HIROGUETE IKITAITO OMOTTE ORIMASU.SOSHITE ITSUKA BORANTIA TOSHITE SANKA DEKITATARA ITO OMOTTEIMASU. IMANO WATASHIWA OKINAWA NI ITTE KOU KIZUKIMASHITA: MAE MADE WA,WATASHINO SUNDEIRU BOLIVIA WA OKINAWA TO NANIMO KANKEINO NAIKUNI TO OMOTTEIMASHITAGA OKINAWA NI ITTE MINNA CHIGAU KUNI, BASHO KARA KITE SOSHITE: MINNA ISHO DAYO .TO IWARETA SHUNNKAN ...WATASHIWA SUKOSHI HOTTO SHITA KI GA SHIMASHITA .NAZENARA OKINAWA KARA DONNANI HANARETE ITEMO ONAJIKU TSUNAGATTEIRUNDA TO OMOETA KARADESU.DONNA NI HANARETEITEMO MINNA TSUNAGATTEIRU MARUDE ICHIGO ICHIE DESUNE.

SAIGONI ZEN PUROGURAMUWO TOOSHITE TSUTAETAIKOTOWA: KOUYATTE UJS NO YOUNA PUROGURAMU GA ARUKARA OKINAWA NO BUNKA WA WASURERAREZUNI SUMI KOREKARAMO HIROGARITSUTSU ARUNO JANAINO KATO OMOTTEIMASU .NANO DE ZETTAINI KONO TAISETSUNA TSUNAGARIGA USHINAWARENAYOUNI U.J.S. NOTOUR WO MINNA DE MAMOTTE IKEREBATO KANGETE IMASU. U.J.S. TOUR DE WATASHIWA ARASHIKU KANNGAERARERUYOUNI NARIMASHITA KIGASHIMASU .HONTOU NI TAKUSAN OKINAWA NO KATA NI KANSHA SHITE ORIMASU.HONTOU JIBUN NO TAMENIMO NARIMASHITASHI KORE KARANNO HITOTACHINIMO SUGOKU TAMENI NARUTO OMTTEIMASU.TAKUSAN NI OMOIDEGA DEKIMASHITA .





セルベラ クニガミ ディエゴ アロンソ (18)

Cervera Kunifami Diego Alonso

ペルー沖縄県人会(Peru)

### 「私の人生の中でもっとも素晴らしい 経験の一つ」

今年、私にはとても運のよいことがありました。沖縄文化を維持するために行われた二つの大きな活動に参加させてくださった方々に、感謝します。夏にはニーセーターツアー2014のプログラムに参加しましたが、このプログラムへの参加がUJSに参加するきっかけとなりました。文化について色々と教えてもらい、沖縄の歴史と文化について、もっと学びたいと興味を持つきっかけとなりました。こうしてUJSに参加し、文化、歴史、沖縄の人についてたくさんのことを学びました。その上、私の家族の輪が広がりました。アルゼンチンのニーセーターツアーですでに家族の輪が広がっていましたが、今回更に輪が大きくなりました。私たちを結びつけるこの特別な絆によって、これからも家族の輪が広がっていきます。

沖縄に着いてすぐに、とても素敵な経験をしました。私のホストファミリーは私のことを知らないにも関わらず、まるで長い時間を経て再会したかのように私を受け入れてくれました。いつも私のことを大事にしてくれ、家族の歴史、習慣、沖縄の文化について、たくさん教えてくれました。

JICA沖縄国際センターに到着すると、とても温かく迎えてくださいました。台風警報によりプログラムの内容が大幅に変更しましたが、このような短期間であったにもかかわらず、とても充実したプログラムでした。レクチャーは情報満載で面白く、移民や歴史についてたくさん学びました。先祖の歴史や琉球王国の終わりなど、忘れないように、そしてあとで見直しができるように、レクチャーの間にたくさんのメモを取りました。世界若者ウチナンチュ連合会(WYUA)での活動は、どうしたら沖縄文化を失わないようにできるか、ウチナンチュのネットワークを強くするためにはどうしたらいいかなどの意見交換ができる理想的なものでした。ひめゆり資料館を訪れた時は、とても悲しくなりました。第二次世界大戦のことを本で読むのと、実際にその場にいた人から事実を聞くのは、全く違いました。

私がとても気に入ったのは、肝高の阿麻和利のショーでした。私が今までに見た中で、最も素晴らしいショーでした。私は素晴らしいさに茫然とし、完全版を見たい気持ちでいっぱいです。日本語をもっと勉強して、沖縄に戻って私の家族や参加していたスタッフのみなさんに会いたいです。もっと話をして、みなさんの事を知りたいです。それまで沖縄文化や、この2週間の間に学んだ素晴らしいことを広めるためにできる限りの努力をしたいと思います。また、私の友達に、スカラシップ制度に応募して、毎年開催されているこのプログラムに参加し、世界規模でどんどん大きくなっていくこの家族の一員になることを勧めたいと思います。

この素晴らしいプログラムに参加させていただく機会を頂き、私はとても感謝しています。このプログラムに参加できたことをとても幸せに思うし、ウチナンチュであることを誇りに思います。

### 「Una de las mejores experiencias de mi vida」

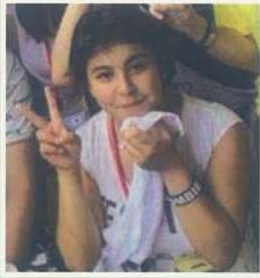
Este año he sido muy afortunado, me siento muy agradecido con la vida y con todas las personas que hicieron posible mi participación en dos grandes actividades que se realizan con el fin de mantener la cultura uchinanchu y no dejar que se pierda. En verano participé en el programa Niseta Tour 2014 que fue lo que me motivó en gran parte a presentarme en el UJST, me enseñó mucho acerca de la cultura y me hizo interesarme más por aprender sobre la historia y cultura de Okinawa. Yo me presenté con esa idea al UJST y sí he aprendido mucho sobre la cultura, historia y la gente de Okinawa, además mi familia creció, ya había crecido en Niseta Tour Argentina, pero ahora creció aún más y sé que seguirá creciendo gracias a este lazo tan especial que nos une.

A penas llegué a Okinawa me llevé una gran y bonita impresión porque mi familia a pesar de que no me conocía, me recibió como si nos estuviéramos reencontrando después de muchos años, me trataron muy bien toda la semana, me enseñaron mucho sobre la historia de mi familia, de las costumbres y la cultura de Okinawa. Al llegar al Jica nos recibieron de manera muy cálida y bonita. A pesar de que hubo un gran cambio del programa por la alerta de un tifón, me pareció que fue muy completo para los pocos días que estuvimos en ahí. Aprendí mucho sobre la inmigración y la historia los talleres fueron muy didácticos e interesantes, pude tomar bastantes apuntes para poder repasar y no olvidarme, como la historia del origen y caída de Ryukyu. La actividad con la WYUA fue ideal para poder intercambiar ideas respecto como impedir que la cultura uchinanchu se pierda y como conectar de una manera sólida la Red Uchinanchu. Cuando visitamos el museo de Himeyuri, me sentí muy triste debido a que es muy diferente leer en una hoja o un libro lo sucedido en la II Guerra Mundial, a que alguien que estuvo ahí te lo cuente con detalles sin alterar nada.

Sin duda alguna mi parte favorita fue la visita al Kimutaka hal, el show de Kimutaka no amawari es el mejor show que he visto en mi vida, me dejó anonadado y tengo muchas ganas de verlo completo. Aprenderé japonés y algún día regresaré para volver a ver a mi familia, tanto los de staff como participantes, podremos conversar más y conocernos bien. Mientras tanto haré todo lo que pueda por seguir difundiendo sobre la cultura uchinanchu y todo lo que he aprendido en esas maravillosas dos semanas, también alentaré a mis amigos para que postulen a la beca y se unan a esta gran familia que cada año se conecta y crece más alrededor de todo el mundo.

Estoy muy agradecido por la oportunidad que me dieron de poder ser participe de este gran programa, me siento muy feliz y honrado de haber participado y muy orgulloso de ser uchinanchu.





ヤマノハ ガルシーア ガラ ヒロミ (13)

Gala Hiromi Yamanoha García

メキシコ沖縄県人会 (Mexico)

### 「ジュニアスタディー2014での 私の経験」

「ウチナージュニアスタディー」での経験は、めったに経験できない経験でした。私の人生の中でも最もすばらしかった出来事として、いつまでも覚えています。尊敬できる、いつまでも忘れたくない多くの人と知り合いになり、彼らのこと、彼らの国のことなどたくさんを学びました。また、たくさんのきれいな場所を訪れたことはいつまでも忘れないでしょう。

プログラムの中で、嫌だと思ったことは何一つありませんでした。2週間は短すぎました。沖縄を楽しみ、学びながら、もっとたくさんの時間をみなさんと一緒にすごしたかったです。たくさんの時間ビーチに行く事はできませんでしたが、楽しかったです。みんなビーチに行ったり、野外での活動に参加したかったので少し残念がっていましたが、スタッフのみなさんは、この経験を特別で楽しいものにしてくださいました。私がいたグループはとても熱心で、みんなよい意見を出していて、たくさん考えさせられました。また、みんな外国人なのになんとかして他の人たちとコミュニケーションを取ろうとしているのをすごいと思いました。他のグループもとても頑張っていました。

沖縄から帰ってからは、UJSでの経験について、誰とも話をしたくありませんでした。もうみんなと一緒にいないというのを思い出すと、寂しい気持ちになったからです。その後、沖縄に関する事を他の人たちに伝えるのがプログラムの目的だったということ思い出して、学校の友達に話をし、学校で沖縄に関するレポートを作ったことで、沖縄に行ったことを誇りに思いました。家族に話しをしたら、みんなとても嬉しそうでした。他の人たちにも私のようにUJSを楽しんで欲しいし、今度はリーダーとして参加して、今回と同じような気持ちをまた味わいたいです。ジュニアスタディーでみんなと一緒に生活し、楽しんでいる様子を見たいです。私の今後の役割は、UJSで友達と一緒に学んだことをメキシコで伝えることです。

たくさんの素晴らしい経験をさせていただいて、みなさんに感謝しています。

アリガトウゴザイマス。

### 「Mi experiencia en el Junior Study 2014」

MI experiencia en el Uchina Junior study fue una experiencia única, siempre la recordare como una de las mejores cosas que me han pasado en la vida, conocí mucha gente que aprecio mucho y que siempre recuerdo, aprendí muchas cosas de ellos y de sus países, conocí muchos lugares hermosos y siempre los tendre en mi mente, realmente no hubo nada que me hubiera disgustado del programa, pienso que 2 semanas no fueron suficientes, quería pasar mas tiempo con todos ellos disfrutando y aprendiendo mas sobre Okinawa, aunque no pudimos ir mucho tiempo al mar fue muy divertido, todos esperaban que fuéramos al mar y que hiciéramos las actividades al aire libre, estaban un poco tristes pero los organizadores se encargaron de hacer esta experiencia única y que fuera muy divertida, mi equipo de trabajo era muy trabajador, cada uno aportaba muy buenas ideas, me hacían reflexionar mucho, sus opiniones me dejaron pensar mucho, también admiraba como los extranjeros trataban de comunicarse con los demás aunque no supieran como, eso era muy bueno, los demás equipos también eran muy originales. Cuando regrese de Okinawa no quería hablar con nadie sobre mi experiencia en el Junior Study porque me ponía triste recordar que ya no estábamos juntos pero después recordé cual era el objetivo del programa, transmitir a las demás personas sobre Okinawa, platique con mis amigas de la escuela, hice un proyecto en la escuela sobre Okinawa y me sentía orgullosa de eso, platique con mi familia todos quedaron felices, realmente quiero que otras personas disfruten el junior study tanto como yo lo hice, también quiero volver a ser parte del junior study como líder, quiero volver a sentir lo mismo que fui la primera vez, quiero ver a todos conviviendo y disfrutando del junior study. Ahora que estoy en México me encargare de transmitir todo lo que aprendí junto con mis amigos del Junior Study.

Les agradezco por dejarme vivir muchas experiencias hermosas. ARIGATOU GOZAIMASU





金城 奈美枝 (15)

Namie Kanashiro

ブラジル沖縄県人会 (Brazil)

#### 「四海兄弟」

私はウチナージュニアスタディーに参加して沖縄に対しての考え方が変わりました。日本に住んでいた時、ウチナーンチュウの子孫としての自覚が全然なかったのに、ブラジルへ来て、ウチナージュニアスタディーに参加し、その自覚を持ち始めたのだけではなく、それが誇りに思えるようになりました。ジュニアスタディーに参加する機会が得られたことで、ポリビア、アルゼンチン、メキシコ、ペルー、アメリカ、カナダ、韓国（中国）、マレーシアのウチナーンチュウの子孫、そしてもちろん沖縄のウチナーンチュウと友達になり、みな家族になれた気分です。

沖縄では初めて会う親戚の人たちにとっても温かく迎えられて、初めてという感じが全然なくて、忙しい中いろんなところに連れて行ってもらって本当にお世話になりました。

琉球國祭り太鼓を通して出会った瑞慶覧先輩も愛知県からわざわざ会いに来てくれてウチナーンチュウの“迎恩”はすごいと思った。プログラムが始まり、誰も知らないし、言語の違いとかもあるからみんな静かにしているのかと思ったらそれとは逆に言語の違い関係なくみんなが楽しそうに話しているのを見て「やっぱりすごい」と思いました。県内参加者が話しかけてきてくれたり、誰かに何かを伝えるとき手伝ったり、手伝わってもらったり、みんなと絆を深めていくにつれて、もうブラジルに帰りたくない、この一週間ずっと続いてほしいと思えるぐらいとても楽しかったです。

台風が来て、みんながプログラムの初日に言った「ウチナージュニアスタディーで一番楽しみにしている事」で多かった海、キャンプファイヤー、カヌー体験ができなくて本当に残念でした。でも海には（少しだけだったけど）行けたし、キャンプファイヤーやカヌー体験はできなかったけど、ボランティアのみんなと楽しく過ごすことができました。

歴史学習ではなぜ沖縄が文化的に栄えているか、昔、琉球王国は3つに分かれていたことなどを知り、社会学習では、昔、国際通りの下に川が流れていたこと、平和学習で（ひめゆり平和祈念資料館）では、兵隊の看病をした女性の話を聞いたり、移民学習でArturoさんの体験の話を聞いてその話の中に自分と少し重なる部分があったり、肝高の阿麻和利バックステージツアーではみんなの踊っている姿を見てとても感動しました。そのほかにもダイナミック琉球の練習とパフォーマンスや世界若者ウチナーンチュウ大会について、移民かるた、世界がもし100人の村だったらワークショップ、藍染め体験、ボランティアの人たちとの交流、ポンチョ... そしてプログラム最後の日の総合学習では一週間みんなと過ごした日々の出来事が次々と思えば浮かんで来たり。本当にBest week everです。

Hoje em dia ha jovens descendentes de Okinawa, como nos aqui no brasil que nao conhecem Okinawa の美しさそして歴史の素晴らしさ, entao continuando Matsuri Daiko e Karate, e se der quero fazer tambem o 三線, quero ir repassando a linda cultura de Okinawa.

今回、この事業に参加できて本当に感謝しています。皆さん本当にありがとうございました。





新里 ファビアン (15)

Fabian Shinzato

カンボグランデ沖縄県人会 (Brazil)

### 「UJSの一員として」

UJSへの参加は、間違いなく人生で最もよい決断でした。実は、沖縄に行く前には少し不安でした。なぜならば、日本語を上手に話せなかったからです。でも、沖縄に着いてみると、私を受け入れてくれた家族はとても思いやりにあふれていて、親切でした。UJSの活動の最中にはわかりやすく上手に通訳してくれる人がいて、他の参加者の話だけでなく、沖縄の歴史や文化について教えてくれる人たちの説明も非常にわかりやすかったです。

ホームステイでは、私の遠い親戚と知り合うことができ、彼らの生活の仕方、文化、考え方なども知ることができ、またもちろん、彼らと一緒に話をするので、とても貴重な経験になりました。みなさんとても親切で、私をいろんな沖縄の観光地に連れて行ってくれました。一生忘れることはありません。また、自分の家族の歴史や先祖について、よりたくさんのことを学ぶことができました。

世界中の色々な所から来た大勢の友達を作ることもできました。この関係をずっと続けたいと思います。皆さんからのお話を聞いて、それぞれの国について少し知ることができ、またみなさんにブラジルとブラジルの文化についてお話をしました。このプログラムの活動、散策、講座、活発なワークショップなどを通じて、一緒に楽しい時間を過ごし、たくさんのことを学びました。

ひめゆり資料館を訪れる機会がありましたが、ここで、沖縄の人たちがなぜ戦争に反対するのかということがわかりました。沖縄の人たちは戦争により非常に辛い思いをしたのです。ここで、戦争を生き延びた女性に会いました。この方から、子供の時に友達と一緒に防空壕に避難しなくてはならなくなり、そこで、負傷者のお世話をしたという話を聞きました。しかし、その負傷者の人々を防空壕に残して、自分たちは、より安全な別の防空壕に移らざるを得なくなったという、とても辛い状況に追い込まれ、ずっと長く心に傷を負ってしまったそうです。こんなにも辛い思いをした後でも、親切でいい人たちで続けられる沖縄の人たちを私は尊敬します。

この時期に台風が沖縄の近くを通過していたので、野外での活動はあまりすることができませんでした。でも、資料館や記念碑を見て回りながら沖縄の自然の美しさを味わうことができました。

肝高の阿麻和利を見た時は、とても感動しました。踊り手たちが、踊りを通じて気持ちを伝える方法は、とても印象的で、こんなに好きになるとは思っていませんでした。

ブラジルに戻って、今までにないほど、沖縄の文化をもっと学びたいという気持ちが高まっています。沖縄で見たり学んだりしたことを、色々な人に話したいと思います。沖縄に戻って、今後のUJSでボランティア活動に参加できるように、日本語をもっと上手に話せるようになりたいです。沖縄県庁のみなさん、UJSのみなさん、スタッフのみなさん、ボランティアのみなさん、その他、このプログラムの実施を可能にするために働いてくださったすべてのみなさんに感謝しています。このプログラムで過ごした日々は、私の人生で最も素晴らしい日々でした。

### 「Fazendo Parte do UJS」

Ter escolhido participar do UJS, com certeza, foi a melhor decisão que já fiz na vida. Confesso que antes de ir para Okinawa, estava com um pouco de medo, devido ao fato de não saber falar com fluência a língua japonesa. Porém, ao chegar lá, a família que me recebeu foi muito compreensiva e gentil. E durante as atividades do UJS, havia ótimas pessoas traduzindo e desta forma fui capaz de compreender tanto as apresentações dos outros participantes como as palestras das pessoas que vieram nos ensinar sobre a história e a cultura de Okinawa.

Durante o Homestay tive a oportunidade de conhecer meus parentes distantes e seu modo de vida, sua cultura, a maneira que pensam e seus ideais; e é claro tive a oportunidade de comunicar-me com eles, o que foi uma experiência única. Eles foram muito gentis comigo, levaram-me para muitos pontos turísticos de Okinawa, os quais jamais irei esquecer. Também pude aprender mais sobre a história e origens de minha família.

Fiz muitos amigos de diversas partes do mundo e pretendo mantê-los para sempre. Através de suas palestras e relatos aprendi um pouco sobre seus países e também contei a eles sobre o Brasil e sua cultura. Juntos nos divertimos e aprendemos muito durante as atividades, passeios, aulas e workshops bem dinâmicos deste programa.

Tivemos a oportunidade de visitar o Museu Himeyuri, onde compreendi o motivo dos okinawanos serem tão contrários a guerra, eles são um povo que sofreu muito durante ela. Lá, conheci uma senhora sobrevivente da guerra, ela relatou que quando criança tivera que se esconder em cavernas junto com seus amigos, onde cuidaram dos feridos. Porém houve situações realmente traumatizantes nas quais não havia outra opção a não ser abandoná-los e ir para outra caverna mais segura. Por isso eu admiro muito os okinawanos, mesmo depois de tanto sofrimento conseguem ser um povo muito gentil e simpático.

Não tivemos a oportunidade de realizar muitas atividades ao ar livre, devido ao tufão (typhoon) que estava passando por perto de Okinawa na época, porém apenas através dos passeios aos museus e monumentos já era possível enxergar as tão admiradas belezas naturais de Okinawa.

Emocionei-me muito durante performance de Kimutaka no Amawari. A maneira como os dançarinos transmitiam seus sentimentos através da dança eram impressionantes, não imaginava que fosse gostar tanto.

Agora que voltei para o Brasil minha vontade de aprender mais sobre a cultura de Okinawa nunca foi maior. Irei relatar as coisas maravilhosas que vi e aprendi para as pessoas. Aperfeiçoarei meu japonês, pois pretendo voltar para Okinawa como voluntário e ajudar nos próximos UJSs. Muito obrigado à prefeitura de Okinawa, à organização, aos STAFFs, aos voluntários e à todas as pessoas que tornaram este programa possível, os dias que passei nele foram os melhores de minha vida.





仲兼久 カタリナ (17)  
Catalina Nakaganeku  
在亜沖縄県人会 (Argentine)

### 「ウチナージュニアスタディーを通じて 見つけたこと」

私が見つけたことは「違い」です。国籍の違い、行動様式の違い、考え方の違いなどです。私はこのプログラムに参加する時に、この違いは当然あるだろうとは思っていましたが、実際に一緒に生活してみると、よりよく理解することができるようになると、よりすばらしいものが得られるように思います。

また、このプログラムに参加したことで、家族や新しい日本人の友達と交流するためにもっと日本語を学びたい、というやる気が高まりました。

このプログラムに参加して、私の性格が変わったように感じます。以前は私のためにしてくれることに感謝することが出来ていませんでしたが、今ではもっと「お願いします」や「ありがとう」を言えるようになりました。日本では、人々がお互いをとても尊重していることがわかります。

また、今までは沖縄のことも日本のこともよく知りませんでしたが、今回の経験によりもっと沖縄のネットワークに参加できるようになったと感じました。沖縄の歴史を学び、文化を知り、少し言葉を覚えることで、より沖縄の輪の一員になることができた、と感じられました。単に子孫であるというだけでは、自分のルーツに誇りを感じることはできませんでしたが、ルーツを知ることによって、沖縄人の子供であるという感情が目を覚ましたようです。

この経験から出した結論はたくさんあります。

第二次世界大戦中に、日本からアルゼンチンに移住した私の家族のような経験をした人たちが他にもいました。移民に関する講習では、言葉もわからないのに自分の国から知らない国に行き、その国でなんとかして生きる努力をした人たちが大勢いることを学びました。平和をどのように守り、広めていくかということは、どの社会に住んでいるか、どの国に住んでいるかによって見方が違います。

最後に、この経験から、私がこれからやりたい目標ができました。そのうちの一つは、もっと県人会の活動に参加し、日系社会の若者たちとの関係を持つということです。そのために、県人会の活動にもっと関心を持ち、できる活動を手伝い、参加することで、日系社会の若者たちとのつながりを持ちたいです。

また、私はアルゼンチンの自分の家族と日本にいる家族の間の架け橋になりたいです。最近、両国間の関係は失われてきています。このコミュニケーション不足の結果として、私の家族の若い世代は、沖縄人としてのルーツを理解していません。理解するためには、アルゼンチンにいる家族の一員として、電話をかけたり、写真を同封した手紙を日本の家族に送ったり、テクノロジーを利用してビデオ通話をして、お互いの顔を見ながら話をしたらよいと思います。写真やそれぞれの名前を載せた家系図を作ったりすることで、よりこの家族の一員であることを知り、感じることができるといいでしょう。

以上が、近いうちに私がやりたいと思うことです。それができた時に、少し難しいけれど、不可能なことではない「アルゼンチンと日本の間の架け橋になりたい」という私の夢に、少し近づけるといいと思います。

### 「Lo que encontré a través de Uchina Junior Study」

Lo que encontré fueron diferencias. Diferentes nacionalidades, diferentes formas de ser, diferentes pensamientos. Yo fui al intercambio pensando en que habrían de estar presentes estas diferencias, pero al vivirlas, pude comprenderlas mejor. Pienso que a partir de las diferencias se logran hacer cosas muy buenas si las personas logran entenderlas y aceptarlas.

El intercambio también me dejó muchas más ganas de seguir aprendiendo japonés. Para poder comunicarme con mi familia y con los nuevos amigos japoneses que hice.

Siento, además que el intercambio cambió mi personalidad. Antes yo no apreciaba o agradecía los actos que hacían por mí. Ahora, en cambio, empecé a implementar más el "por favor" y el "gracias". Ya que pude ver e implementar en Japón el gran respeto que se tienen unos a otros.

Me sentí, además, más integrada a la red uchina ya que no conocía mucho de Okinawa, sino más de Japón. Aprender la historia de Okinawa, saber sobre su cultura, conocer un poco de su idioma me hizo sentir un poco más parte de la red Uchina. Porque ser solo descendiente no me hacía sentir orgullo por mis raíces, sino fue por medio del conocimiento de ellas, que llegó a despertar en mí esa emoción de ser hija de okinawenses.

Mis conclusiones de esta experiencia fueron muchas:

Hay otros casos como el mío. Descubrí que hay otras personas que sus familias pasaron lo mismo que la mía que vino de Japón por la Segunda Guerra Mundial a Argentina.

Con la clase de inmigración también aprendí que las personas se van de su país a un lugar desconocido e intentan sobrevivir sin saber el idioma en muchos casos. Esto es una gran demostración de que las personas luchamos para sobrevivir.

La paz y cómo pensamos protegerla y propagarla es un punto de vista que depende de país y/o la sociedad en la que estemos.

Por último, el intercambio me dejó objetivos en los que pensar y llevar a cabo. Uno de ellos es participar más de actividades en mi Kenjinkai y estar más en contacto con jóvenes de la colectividad. Para lograr esto pienso estar atenta a cada actividad, colaborar con lo que pueda y al participar e integrarme pienso que entraré en contacto con los jóvenes de la colectividad.

También quisiera ser un nexo entre mi familia que está acá (en Argentina) y la que está en Japón ya que la comunicación con estos últimos años se está perdiendo. Esta falta de comunicación da como resultado que los chicos de mi familia no comprendan muy bien sus raíces Okinawenses. Para lograr esto pienso llamar o enviar cartas con fotos a la familia de Japón de parte de miembros de la familia de acá, organizar una video-llamada para que se pueda ver "cara a cara" la familia por medio de la tecnología, hacer un árbol genealógico con la foto y nombre de cada integrante y así saber y sentirse parte de la familia.

Estos son algunos objetivos que me propuse un poco cercanos, cuando los logre quedré alcanzar un sueño un poco más complicado pero no imposible: ser un nexo entre Argentina y Japón.





山本 イリーナ (17)  
Irina Yamamoto  
在亜沖縄県人会 (Argentine)

### 「UJSでの経験」

私はこの経験を一生忘れません。そして、思い出す時はいつも、たくさんの愛情と共に思い出します。誰かが私に「沖縄はどうだった？」と聞く度に、私はにっこりと笑って、信じられないほど素晴らしいと言います。言いたいことがたくさんありすぎて、少ない言葉では言い切れず、伝えられません。

UJSのプログラムに参加している間に、沖縄や他の参加者の国々の歴史や文化について学び、今では友達と言える、素晴らしい人たちに会いました。とても楽しかったです。すべては、プログラムの間ずっと私たちを気にかけてくれ、UJSが素晴らしいものになるように努力してくれたスタッフの方々のおかげです。台風など予期しないこともありましたが、スタッフの方々はいつも笑顔でいてくれて、プログラムが実施できるようにたくさん努力してくれているのに、予定の活動が実施できなかったことを、私たちに謝ってさえくれました。このプログラムが忘れられない体験となるように、面倒なことや心配なことなど色々あったと思いますが、努力してくださったみなさんに感謝します。

今度は私がこの素晴らしいウチナーの輪を広げて行く番です。私は沖縄とアルゼンチンの文化の懸け橋になりたいです。アルゼンチンの日系社会の若者が自分たちのルーツを知ることができるように、彼らを招いて沖縄の文化を広めたいです。また、沖縄に戻ってスペイン語を教えたいです。その目的を果たすために、私には主に3つのステップがあります：

#### (1) 日本語が流暢になるまで勉強し続ける。

UJSで学んだことで最もよかったことの一つは、よりよいコミュニケーションのためには、言葉ができることよりもむしろやる気が大切だということです。小さい時から勉強をしなかったことをいつも後悔しています。

#### (2) 経験を伝える。

すべての学んだことや、過ごした素晴らしい時間を意味のあるものにするためには、これがもっともよい方法だと思います。この経験を伝えなかったら、この経験が広まることなく、単なる思い出で終わってしまいます。また、伝えることで、より多くの人が文化に興味を持つようになると思います。

#### (3) 学び、経験を積み重ね続ける。

このステップが私にとっては最も重要です。なぜなら、これは“エンジン”のような働きをするからです。人々に伝え、輪を広げていけるようになるためには、まだ私には学び、知らなくてはならないことがたくさんあります。

### 「EXPERIENCIA UJS」

Nunca voy a olvidar esta experiencia, y siempre que la recuerdo lo hago con mucho cariño. Cada vez que alguien me pregunta “¿Cómo te fue en Okinawa?” lo único que puedo hacer es sonreír y decir: fue algo increíble. Y es que son tantas las cosas que me gustaría decir que en pocas palabras se me hace imposible transmitir.

Durante el JST aprendí muchísimas cosas sobre la historia y cultura de Okinawa y de los otros países del resto de los participantes; conocí a un grupo de personas extraordinarias a quienes hoy puedo considerar amigos. Me divertí mucho. Todo esto fue gracias a un grupo de staff que siempre estuvo pendiente de que estemos bien y de que el Junior Study sea para todos nosotros algo único, a pesar de todos los imprevistos, del tifón, siempre nos mostraron una sonrisa y hasta se disculparon por las actividades que no pudimos realizar cuando fueron ellos los que más empeño habían puesto para que se realicen. Por todas las molestias, las horas de sueño, las preocupaciones, y por todo lo que hayan hecho para que este intercambio sea gratamente inolvidable, eternamente MUCHAS GRACIAS!

Ahora es mi turno de seguir expandiendo esta hermosa red uchina. Me propuse como objetivo ser un nexo cultural entre Okinawa y Argentina, es decir, fomentar la cultura Okinawense en la Argentina invitando principalmente a los jóvenes de la colectividad a conocer más acerca de sus raíces, pero también me encantaría volver a Okinawa y enseñar el castellano por ejemplo. Para lograr esto, me propuse tres escalones principales:

(1) **Seguir aprendiendo nihongo hasta hablar fluidamente.** Si bien una de las cosas más lindas que aprendí en el Junior es que el idioma no es tan importante como la voluntad, creo que para una comunicación óptima, como la que me gustaría, si se necesita, me arrepiento siempre de no haber aprendido de chica.

(2) **Transmitir experiencias.** Creo que es la mejor forma de darle sentido a todas las cosas que aprendí o los buenos momentos que pasé. Si no transmitiera las experiencias, éstas no trascenderían y serían simples recuerdos. Aparte es un modo de que más personas se interesen en la cultura.

(3) **Seguir aprendiendo y adquiriendo experiencias.** Este escalón es el más importante para mí porque funciona como “motor”. Todavía me falta muchísimo por aprender y conocer para luego seguir transmitiendo y así poder expandir la red.





福里 大結 (15)

Daiyu Fukuzato

マレーシア沖縄会 (Malaysia)

### 「私のウチナージュニアスタディー体験」

「ウチナージュニアスタディー」は私のこれまでで一番記憶に残るものになりました。私の人生に重要な勉強になりました。

初めの日、私は緊張してほかの参加者のだれにも話しかけることができませんでした。でも、そんな私にみんながとても親切でやさしくしてくれたので、自信が付き始めました。みんなと話をし、知りあえるようになりました。青年リーダーとボランティアの人たちは、参加者が楽しみながら互いにもっとうちとけることができるようゲームをやってくれました。沖縄の参加者たちは沖縄文化のプレゼンテーションしてくれたので、とても面白くて、クリエイティブだと思いました。そのあと、私たちのように海外から参加した仲間が自分たちの住んでいる国のプレゼンテーションをしました。こんなプレゼンテーションのおかげで、参加者の国についてたくさん勉強できました。

ものすごく残念だったのは、タイミングの悪い時に台風がきたことです。カヌー体験やキャンプファイヤーや海岸での活動など、野外活動が予定されているころでした。私たちみんなが楽しみにしていたのに、野外活動の予定は全部、吹っ飛んでしまいました。でも、ボランティアの人たちが、野外活動が中止になった代わりに、とてもおもしろいゲームをしてくれたほか、おもしろい学習プログラムをつくってくれたのでラッキーでした。

私が一番感動したのは阿麻和利という沖縄の伝統の踊りでした。肝心の阿麻和利は素晴らしいものでした。踊っている人たちはとてもエレガントで、エネルギーがすごかったです。伝統の踊りにかける情熱はとてもすごいものだと思います。別の日には、TAOの人たちが来てくれて、「ダイナミック琉球」という踊りを教えてくれました。私たちは、この踊りを何度も練習して、UJSの最後の日に、みんなの前で踊りました。大成功だったと思います。

このほか、沖縄の歴史を勉強しました。沖縄戦はとても悲しい歴史です。ひめゆりの塔と平和祈念資料館に行ったとき、戦争中のひめゆりの生徒たちのことを描いた「ひめゆり」というアニメを見ました。戦争のころ、沖縄の人たちは、敵の兵隊に捕まったら殺されると思っていました。そう教え込まれていたのです。でも、真実は違っていました。兵隊さんたちは敵でも生徒たちは殺さないし、生徒たちを戦闘の場所から引き離して、助けようとしてくれていたのです。先生たちが生徒たちに間違ったことを教えたため、生徒たちは逃げまどい、洞穴に隠れました。そして死んでしまった生徒たちがたくさんいたのです。とても悲しい歴史です。

私はUJSに参加できて沖縄についてたくさん勉強しました。勉強したことは住んでいるマレーシアの人々に伝えますし、次の世代の人々にも伝えます。みなさんに約束します。私は、沖縄県の大使になって、沖縄の文化がどんなに素晴らしいものなのか人々に知ってもらう活動のお手伝いをしていきます。

### 「My Uchina Junior study」

This Uchina junior study program had become one of my best memories in my life, and gave me a important lessons for my life.

The first day I was so nervous that I couldn't talk to the other participants, but the people there were so kind and friendly to me that I started to build up my confidents to communicate and interact with them. Then the senior leader and the volunteer members planned some games for us to play and get to know each other better. There was a presentation about Okinawa's culture from the Okinawa participants I find it very interesting and creative. The participants from overseas including myself had a presentation about our country and I get to know more about the other participant country from what they share to us.

It was very unfortunate that the typhoon came at the wrong timing upsetting all our plan for the outdoor activities like the canoeing, campfire and beach activities which everyone was looking forward to. Luckily the volunteer members planned some very interesting games and programs to help made up for it.

My deepest impression from this program is the Okinawa cultural dance called Amawari. We have watched the Kimutaka no amawari performance and it was amazing. The people were so elegant, energetic and I could see their feeling to the cultural dance was very strong. After that day the people from TAO came and teach us how to dance "Dynamic Ryukyu". We have practice this dance a lot and we performed on the last day of the program. I think that was a very successful performance.

Other than that I have learned the histories of Okinawa, the battle of Okinawa were a very sad history. We went to the Himeyuri Peace Museum and watched the animation film "Himeyuri" about the himeyuri students in Okinawa when the war was ongoing. That time the peoples thinks that if they are caught by the enemy's soldier they will be killed, they were taught to think like that. But the truth was not like that, the soldiers will not kill them, they will just keep them away from the battle and rescue them. This is very sad, because of what the teachers taught them, they ran and hide in the caves and many dies.

Through this program I have learned a lot about Okinawa. I will spread what I have learned in this program to the people in my country and the future generation. I promise to be an ambassador for Okinawa prefecture and helps promote Okinawa.





彭 アナベル 雪珠 (16)  
Anabel Se Zhu Pang  
ソウル沖繩会 (Korea)

### 「ウチナージュニアスタディの感想」

UJSに今回、参加できましたことを心より感謝しています。沖縄で過ごした2週間でわたしの人生は確実に変わりました。わたしは、あの2週間を思い出すたびに、とても幸運な人間だと思うとともに、厳肅な気持ちになります。

親戚の人たちと久しぶりに会えました。世界各国から来た人たちと会えました。沖縄について、歴史、文化、伝統そのほかについて学ぶことができました。UJSのおかげで、わたしは母方の祖先の歴史について実にたくさん学ぶことができました。

沖縄滞在中、ちょっぴりがっかりしたことが2つありました。食べられるだろうなと思っていた沖縄の伝統料理があまり出ませんでした。もう1つは台風警報でした。心から体験したいと思っていた野外活動がキャンセルされたのです。たとえば、海岸での活動、キャンプファイアー、カヌー体験などでした。でも、スタッフの皆さんには感謝いっぱいです。スケジュールの変更に取り組み全部練り直してくれたのです。おもしろい企画がいっぱいでした。

最後の日は、将来の行動宣言というプレゼンテーションをしました。UJSに参加したことで、将来、何をしたいのか、どんな人間になりたいのか、というものでした。わたしの行動宣言では、沖縄のことをもっと学んで本物のウチナーンチュになりたいと言いました。この目標はまもなく達成できると思います。わたしは来年、2015年の初めですが、ハワイに移住して、おじさんとおばさんの家からハワイの高校に通うことになりました。おじさんとおばさんはハワイの沖縄県人会の会員です。ハワイの県人会は、わたしがこの数年住んできた中国やソウルの沖縄県人会よりぐっと大きい県人会です。ということは、わたしが沖縄について体験できることが多くなるということになります。

わたしはこれまで、何度かハワイに行ったことがあります。そのとき、週末はいつも盆踊りに参加しました。沖縄の踊りと音楽が大好きになりました。そのとき、盆踊りクラブに入っておじさんとおばさんから三線（さんしん）を教えてもらおうと心に決めたのです。二人とも、三線のプロの先生です。わたしの夢がまもなくかなうことになります。

UJSの間、得たことが実にたくさんありました。何にも変えがたい価値あるものがたくさんありました。このため、わたしのルーツ探しの旅が再び始まりました。ウチナーンチュの血が入ったわたしのアイデンティティを明らかにする旅です。わたしに、そして、ほかの参加者に、そんな特別の経験をさせてくださいましたみなさんにお礼を申し上げます。

### 「Uchina Junior Study Reflection」

I really appreciate this opportunity to participate in this program. These two weeks in Okinawa definitely made a difference in my life. Every time when I think back, I feel I'm so lucky and I'm filled with awesomeness.

I got to meet my relatives whom I didn't see for a longtime, met people from all over the world, learned many things about Okinawa such as history, culture, tradition and more. Through this program, I really got to know many things about the mother side of my lineage.

Two things that were a bit disappointing during the program were that we didn't get to eat many of the traditional Okinawan food I expected to eat. And the typhoon warnings made us cancel the outdoor activities, which we were really looking forward to experience, such as the beach, campfire, canoe etc. But at the same time I truly appreciate the entire staff member for reorganizing the schedule and making the program complete. We got to have lots of fun.

On the final day we presented our action plan of what do we want to do or what kind of person we want to be in the future, having participated in this program. My action plan was that I wanted to learn more things about Okinawa, and become a real Uchinanchu. And I think I will soon achieve this goal. At the beginning of next year, I will be moving to Hawaii to live with my uncle and aunt and to attend a high school there. They are members of the Kenjinkai, and the Kenjinkai there is much bigger than in China and Seoul (the two countries I lived in the past few years). This means I'll have more opportunity to experience about Okinawa.

The last few times I went to Hawaii, we went to join the Bon Dance every weekend. I really fell in love with the Okinawan dance and music; at that moment I decided that I'm going to join this Bon Dance club and learn Sanshin from my uncle and aunt, who are professional Sanshin instructors. I think my dream's going to come true soon.

During this UJS program, I really obtained a lot; I received things that are worth much more than gold. It has reconnected me to my roots, and to clarify my identity as a part Uchinanchu. Thank you so much for making such a special experience for me, and for others.





内間 未来 (17)

Miki Uchima

ドイツ沖縄県人会 (Germany)

#### 「ウチナージュニアスタディー2014」

沖縄に行く前、目的が2つありました。1つは、わたしのルーツをもっと学ぶこと。もう1つは、沖縄の自然を発見し、その沖縄らしさを公害から守る道を見つけることでした。

沖縄に着いて最初の1週間、わたしは親戚の家族とともに過ごしました。沖縄の気候と言葉に慣れることができるとても良かったです。UJSが始まる前に参加者全員と知り合えたのですから、それは素晴らしいことでした。

最初の日みんなが打ち解けるためのアイスブレイク。ゲームをしましたが、わたしは心配していましたことばの問題を気にかけずに、ほかの参加者と話すことができました。歓迎パーティーは本当に楽しかったです。

台風のために「自然学習」が取り消されてしまい、悲しかったです。みんな悲しんでいましたが、安全第一ですから、仕方ないな、と思いました。それでもなお、ほかの体験プログラムがあればよかったと思いました。誰かが話してくれるのをただ聞くだけなのと、自分自身で何かを体験するのは違いますから。

学習プログラムはおもしろかったのですが、盛りだくさん過ぎました。しばらくたつと、集中するのが難しくなりました。メンバーが毎日同じグループで、同じ教室で勉強したので、集中力が欠ける感じはなおさらのことでした。レクリエーションの時間があまりありませんでした。また、休憩時間が短かったので、他のグループの参加者と話す機会が夕食の時間以外あまりありませんでした。2、3日たつと、小さなグループがいくつもできてしまった理由です。だから、次回はグループのメンバーを毎日入れ替えて、だれもが知り合えるようになると思います。

とりわけ、沖縄が初めてという参加者にとっては、自分自身で経験をしてみるということが大切です。また、特に食事中は、もっとレクリエーションの時間をつくるのが大切です。

わたしにとって、阿麻和利という組踊の踊り手たちは最高に素敵でした。自分のルーツに誇りを持つということはこういうことなのね、ってこれほど教えてくれるワークショップはありませんでした。わたしにとって、ワークショップで一番印象深かったのは「ひめゆり」のことでした。沖縄の人たちは、あのように恐ろしいことを体験したのに、わたしたちに親切でした。平和とは何なのか。新たな視点で平和の意味を理解しました。

UJSで一番素敵だったことは、立派な人々にたくさん出会えたことです。わたしのように親の一方が日本人で、わたしと同じような体験をした人がたくさんいることがわかってよかったと思いました。沖縄に新しい家族ができた感じです。また近いうちに沖縄を訪れたいと思います。

#### 「Uchina Junior Study 2014」

Before I came to Okinawa I had two goals: First to learn more about my roots. Second I wanted to discover Okinawan nature and ways to protect it's uniqueness against pollution.

The first week I was spending with my family. This was very good because I could get used to the weather and language. I want to point out how great it was that all participants could get in touch before UJS started.

The first day we had ice breaker games which helped me forgetting my fears about my language abilities and talk to other participants. I really enjoyed the welcome party.

Sadly because of the taifoon the Nature Studies have been canceled. Everyone of us was sad but we understood the importance of our security. Even though I wish we could had another alternative program. Because there is a difference between listening to someone and experience things by oneself.

The workshops were interesting but there were just too many and after some time it was hard to keep concentrated. The fact that we were always working in the same groups and room enforced this feeling. We had not much time for recreation or to talk to other participants except the evening since the breakes were short.. That's the reason why we had a lot of seperated groups after a few days.

So next time it would be better if the groups would change daily so you get to know everyone.

Especially for those who have been in Okinawa for the first time it's important that they make their own experience. And it's important to have more time for recreation particularly during the meals.

Most fascinating was watching those Amawari dancers. I don't think that any kind of workshop could have shown me what it means to be proud of your roots. The most impressive workshop for me was Himeyuri. The kindness of Okinawan people despite those awfull experiences gave me a new understanding of peace.

The most beautiful experience during the program was to get to know so many great people. It was good to know that there are a lot more people who are half and thus have made the same experiences like did. It's like a new family and the reason I want to come back soon.





エスコバル 伊礼 ジョアナ (27)

Johanna Etsuko Escobar Yrey

ペルー沖縄県人会(Peru)

(青年リーダー)

### 「10年後の沖縄」

「ウチナージュニアスタディー (UJS)」のリーダーとして10年ぶりに沖縄を再び訪れましたが、この経験は本当に信じられない特別なものとなりました。

他の国にいる子孫たちと一緒に、先祖の土地を訪れる機会を持つことは、非常に豊かな体験です。プログラムの中の体験だけでなく、家族の中でウチナーンチュの日常生活を学び、日々の活動に直接的に関わるという体験ができます。

私は幸運にもこのプログラムに2回参加することができました。1回目は参加者として、2回目はリーダーとしてです。そして参加するごとに、ウチナーンチュの子孫であることにより誇りを感じるようになりました。

戦争で起こったつらい出来ごとに関わらず、ウチナーンチュは前を向いて生き、困難を克服しました。そして何よりも私が驚き、印象に残っていることは、ウチナーンチュは恨みの感情を持っておらず、親しみと感謝の精神を持ち続けているということです。私の先祖の故郷を訪れる機会を得た後は、今度は次の世代に、私の経験を伝えることがとても大事だと思います。そうすることで、本質を失うことなく関係を維持することができます。その本質とはまさに私たちはウチナーンチュであるということです。

沖縄の元奨学生のグループであるキムタカに所属したことが、私の活動(スピーチや情報映像)を進めていくためにも役に立つと感じました。それにより、他の若者たちがこのプログラムに参加することに興味を持つと思います。UJSは私たちのルーツや文化を知るために得られるスカラシップの可能性を探するための第一歩であると思います。また、10年前にアルゼンチン、日本、JST(ジュニアスタディーツアー)に参加した他の国の参加者たちと一緒に世界中に私たちが作りあげ、維持している輪を広げ続けることが重要です。この経験により、輪がより豊かな物になり、この大きな友情は、ずっと続いていきます。

沖縄人の子孫であることの喜びを改めて感じ、遠い国、違う言葉を話すみなさんを結びつける輪に入れてもらうことができ、私たちのために協力してくださったすべての皆さんに、感謝の気持ちでいっぱいです。

### 「Okinawa luego de 10 años」

Regresar a Okinawa como líder del UJS luego de 10 años ha sido una experiencia realmente increíble y especial.

Tener la oportunidad de viajar a la tierra de tus ancestros y compartir con descendientes de otros países es una vivencia muy enriquecedora, ya que vas aprendiendo a través de la experiencia no solo durante el programa, sino también con la familia, en donde aprendes sobre la vida diaria de los okinawenses y te puedes involucrar directamente en las actividades del día a día.

Tuve la suerte de participar en este programa 2 veces, la primera como participante y la segunda como líder, y debo admitir que ambas han sido experiencias que han ayudado a sentirme cada vez mas orgullosa de ser descendiente uchinanchu.

A pesar de todo lo que pasaron por la guerra, los uchinanchus han salido adelante y superado las adversidades, y lo que me deja más sorprendida y me impacta mas, es que mantienen el espíritu de la cordialidad y el agradecimiento, sin ningún tipo de resentimiento.

Luego de ser afortunada en visitar la tierra de mis ancestros, creo que es muy importante poder transmitir todas estas experiencias a las futuras generaciones, para así mantener el vinculo y que no se pierda la esencia, esa esencia que nos caracteriza como uchinanchus.

Al pertenecer a Kimutaka, el grupo de ex becarios okinawenses, siento que esta experiencia me servirá para poder desarrollar más actividades (charlas, videos informativos) mediante las cuales los demás jóvenes se interesen en participar, ya que considero que el UJS es el primer paso para explorar todas las oportunidades de beca que tenemos para conocer nuestros orígenes y nuestra cultura.

Además, es imprescindible seguir ampliando la red que hemos creado alrededor del mundo, la que genere 10 años atrás y que sigo manteniendo con amigos de Argentina, de Japón y de los países que participaron en el JST, lo cual hace de esta experiencia muchísimo más enriquecedora, y la base de grandes amistades que perduran a través del tiempo.

Solo puedo agradecer a todos los involucrados ya que pude revivir aquellos momentos de felicidad que sientes al ser descendiente okinawense y pertenecer a esta red que nos une a todos a pesar de la distancia y los idiomas.



## (2) 県内参加者



仲宗根 萌(13)  
Moe Nakasone  
嘉手納中学校 1年



知花 香実(15)  
Konomi Chibana  
嘉手納中学校 3年

### 「ウチナージュニアスタディーに 参加して見つけた自分」

私はウチナージュニアスタディーに参加して、自分のやりたいこと、自分の将来の夢が決まりました。

ウチナージュニアスタディーに参加する前の自分の将来の夢は、琉舞・三線・太鼓・組踊・二胡の教師免許を取って、教師になることでした。

私の現在の将来の夢は、琉舞・三線・太鼓・組踊・二胡の教師免許を取り、世界で活躍するウチナアンチュになることです。

でも、今回ウチナージュニアスタディーに参加して、自分の英語力の無さを改めて感じました。学校の授業では英語を得意としていても、本当に海外の人と交流して、英語で会話するとなると、何も喋れませんでした。なので、これからたくさん勉強して、チューターさんを必要としないぐらい英語を喋れるようになりたいです。そして、英語だけじゃなく、ポルトガル語、スペイン語、ドイツ語、韓国語も勉強したいと思います。

次、海外参加者のみんなと会うときには、みんなと英語で会話ができるようになりたいです。

私は、今まで1人で部屋に寝たり、洗濯したりしたことがなかったので、今回参加できて、国際交流とは別の、日常生活に必要なことも学ぶことができました。そして、これからは、海外でも暮らしていけるぐらいの英語力を身につけて、琉舞・三線・太鼓・組踊・二胡も海外で披露できるレベルまで上達したいです。

今回、このウチナージュニアスタディーに参加できて、貴重な体験ができました。この経験を活かして、これからも頑張っていきたいと思います。

### 「ウチナージュニアスタディーに 参加して見つけた自分」

私がウチナージュニアスタディーで見つけた自分、それは、沖縄のことを知っているつもりで、知らない自分でした。このウチナージュニアスタディーに参加して初めて知った沖縄、そして、もう一つの沖縄を私は見つけることができました。それは、日本以外にある、世界各国にある沖縄です。沖縄から移民をした人達が伝えていった沖縄の食や文化、それが今、もう一つの沖縄となって、私達と繋いでくれているということです。

私が初めて海外参加者と会って驚いたこと、それは、みんな祖父母や親が住んでいた沖縄を誇りに思っているということです。私は沖縄に住んでいるにもかかわらず、今まで、移民や沖縄の歴史、文化についてあまり興味を持っていませんでした。しかし、海外参加者に沖縄について質問されると答えきれない自分がいた時、すごく恥ずかしく思いました。私は、もっと沖縄を知って世界に沖縄の文化を伝えていけるような、沖縄と世界の架け橋になりたい、そう思いました。今まで何も気に留めなかった、ニュースでの移民や歴史のコーナーでしたが、ウチナージュニアスタディーに参加して、すごく興味を持つようになりました。また新たな発見があったりして今では、移民や歴史のニュースを見るのが楽しみです。

そして、私のなかで「世界のウチナアンチュとつながっている」ということが自信につながったし、海外参加者から多くの刺激を受けました。海外参加者の多くは自分たちの国の言葉、英語を話せるのが普通であって、さらに日本語を話せる人も少なくはありませんでした。私は、世界に沖縄を伝えていく、という夢をかなえるために、英語を勉強しています。英語が話せるようになったら今度は私が海外参加者の国に訪問したいです。

このように、私が多くの体験、成長が出来たのも近くで見守ってくれたスタッフの皆さん、ボランティアの皆さん、参加者の皆、家族、先生のおかげです。心から感謝しています。





城間 瑞生(14)  
Mizuki Shiroma  
寄宮中学校2年



神谷 莉央(14)  
Rio Kamiya  
知念中学校2年

### 「ウチナージュニアスタディーに 参加して見つけた自分」

僕は、このウチナージュニアスタディー一事業に参加して、とてもよい経験ができたと思います。

なぜなら、英語やスペイン語などの外国の言語が生で聞けたり、自分自身も海外参加者と交流するために英語を使おうと頭を回転させ、よい勉強の機会ができたからです。それに、今後の高校進学の話や、同期の人たちの恋愛についてののりけ話が聞けたりと、自分自身にとって得になる話などを教えてもらえたり、自分にとって物心ついて初の弟気分をあじわえてとても楽しかったです。

僕は、最初とても緊張していて、全然喋ることが出来なかったり、元々しゃべること自体が苦手なのでちょっともたつきながら喋ってもちょうと最後まで聞いてくれたし、初めてやるビリヤードでも優しく最初から教えてくれて、全然うまくいかなくても、ほめてくれてとてもうれしかったです。

11日には、家族以外の人と初めてカラオケに行ったり、ほぼ丸一日空港にいても楽しかったのは、同期の人たちがいたからこそだと思います。

報告会で発表したことは、緊張しすぎて覚えていないのですが、今は少しでもUJSで学んだことを勉強や生活に生かしていければと思います。

UJSを終えて、僕は今海外参加者が言っていたことを少しはわかるようになりたいと思ってスペイン語を少しずつ勉強しています。日常会話ぐらいは話せるようになって、いずれは、UJS2014に参加した同期の人たちの母国語を少しでも話したり、分かるようになる様子ががんばりたいと思います。

僕は今まで、市の少年の船などいろいろなものに参加してきましたが、ここまでの最後に感極まって涙が止まらなくなるのは、初めてでした。皆の前では、泣かないように頑張ったけれども、JACAを出た瞬間涙があふれてきて止まらなくなりました。

UJS2014での一週間本当にとっても楽しかったです。

### 「一人のウチナーンチュとして」

UJSに参加した一週間は私にとってかけがえのないものになりました。UJSでの日々はとても充実していて、沖縄の事、海外の事をたくさん学ぶことが出来ました。そして、学べたと同時に自分自身ウチナーンチュなのに知らない事が多くて恥ずかしく思いました。また、この事業に参加して「自分は沖縄の未来を担う一人なんだ。」と実感しました。だからこそ、これからはもっともっと勉強し沖縄の事をたくさんの人に知らせ、好きになってもらいたいと思いました。

UJSに参加して私自身、変わった事があります。それは沖縄について今まで以上に興味が湧いてきて、沖縄と世界の繋がりについて考えるようになった事です。テレビを見ている時でも、移民の事や世界に住むウチナーンチュが出ている番組等を見つけると釘付けになって見ます。また、「自分はウチナーンチュとして何が誇れるか。」と、参加前は意味さえ分からなかったアイデンティティーについても考えたりします。ツアー中、肝高の阿麻和利の見学に行った時、平田大一氏が「一流の島んちゅが一流の国際人になれる」とおっしゃっていました。私はこの言葉にグッときて、本当にそうだなと思い、自分も一流の島んちゅになりたいと思いました。

ツアー中の一週間、私は全力で楽しむことが出来ました。それは、参加者全員がすぐに仲良くなる事が出来たからだと思います。とても短い期間ではありましたが、みんな家族みたいに絆が深まって、別れの時がとても苦しかったです。海外参加者とは、言葉が通じない場面がたくさんあり、英語やいろんな国の言語をもっと勉強して話せるようになりたいと思いました。それでもどうにかコミュニケーションをとって一緒に楽しく過ごすことが出来ました。

スタッフ、ボランティアの皆さん、事業に携わっている全ての方々のおかげで、充実した体験を通して大きく成長することができました。本当に感謝しています。これからは大好きな沖縄を世界中に広げていきたいです！





下地 小春 (15)  
Koharu Shimoji  
石垣中学校 3年

### 「UJSで学んだこと」

私は最初、楽しそう！という気持ちだけでこの事業に参加しました。沖縄のことにについて知らないこともたくさんありましたが、ウチナーンチュとしてのアイデンティティなどは考えたことはありませんでした。

しかし、今回ウチナージュニアスタディーに参加し、沖縄の歴史や、ウチナーンチュが守ってきた伝統文化を学び、初めてウチナーンチュとしての誇りを持ちました。先人たちが、自分たちが住んでいる沖縄を愛し、誇りを持ち、守ってきたからこそ今もなお、この素晴らしい文化が生きているのだと思いました。また、海外参加者とともに勉強することによって外国の人たちの考えや文化の違いなどに刺激を受け、私自身の視野も広がり、世界についてもっと知りたいと思いました。また、いろんな国に行き、沖縄のことを世界中の人たちに教えることができたらと思いました。そのために今私ができることは、他国語を勉強し、また、なにより沖縄についてもっと知ることだと思います。

1週間という短い時間ではありましたが、自分の中で、自分も知らない扉が開かれたような気がします。物の見方、考え方が変わり、視野をもっと広く持つことそして、地に足をつけて頑張ることが大事だと気が付きました。それは、まず、自分自身を知ること、自分の住んでいる郷土についてしっかりと知識を持つこと。そのうえで、世界に出ていき、ウチナーンチュとしての誇りを持ち、沖縄のすばらしさを広めることができたらと思います。

この1週間は、私の人生のとてもとても大きな宝物になりました。言葉では言い表せないくらい楽しくて、今まで生きてきた中で最も短い1週間だったと思います。これからもずっと、海外参加者も県内参加者もウチナーネットワークでつながっていきたいです。



我如古 未和 (16)  
Miwa Ganeko  
北山高校 2年

### 「ウチナージュニアスタディーに参加して見つけた自分」

私の、今年の夏は本当に最高でこれからも大切にできて一生の思い出になる夏になりました。それは、ウチナージュニアスタディーです。この事業を通して沖縄の歴史や文化、芸能そして移民について、各国の知らないことなど学ぶことができました。

まず、県内参加者と初めて会った時とても緊張していましたが、みんなとてもフレンドリーで気軽に話かけてくれました。その時絶対に楽しい夏になるとわかりました。そして、海外参加者と合流したとき、コミュニケーションをとるのが難しいと思っていたけどみんな日本語が上手でとてもフレンドリーだったのでびっくりしました。そして、すぐに友達になることができました。本当にうれしかったです。

私は、海外メンバーから、いろいろ学ぶことができました。例えば、自分の国に誇りを持つこと、ありのままの自分を受け入れて、自分らしくいることの大切さを知ることができました。

ジュニアスタディーを通して、自分の夢に向かって進みたい道を見つけることができました。

私の、行動宣言は「各国の文化や伝統を共有しながら、自分を通して発信していく」です。行動宣言を実現するために、まずは大好きな沖縄のことをもっと学ぶことから始めていきたいです。将来は海外へ行き沖縄の良さを伝えながら、世界に広がるウチナーネットワークの一員として楽しんで頑張っていきたいです。

最後に、この事業を企画して頂いた皆様、ボランティア、チューターの皆様、貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

ジュニアスタディーのメンバーとの絆は、一生大切にしていきたいです。





喜友名 怜美(17)  
Remi Kiyuna  
コザ高校2年



比嘉 舞優(17)  
Mayu Higa  
コザ高校3年

### 「ウチナージュニアスタディーを 通して」

『今年の夏は今までで一番の思い出ができた』私は、今回のウチナージュニアスタディーツアーに参加してそう強く思いました。

はじめて事前学習に参加したときは、緊張して何を話しているかもわからなくなり、このまま海外参加者と交流できるのかとても不安でしたが県内メンバーと交流していくうちに、このメンバーとなら大丈夫と思えるようになっていきました。

海外参加者との交流は私にとってとても毎日が新鮮で一日一日が過ぎるのが早く感じました。初めての同世代の海外から来た人との会話、初めて知った異国の文化など私の海外へのあこがれをますます強くしてくれました。

そして、一番印象に残っているのは平和学習です。海外参加者とのディスカッションでは、国ごとに違う考えをもっていることに気づかされ、自分の考えがいかにかまい視野で考えていたかに気づくことができました。

その平和学習を通して、私は行動宣言を『語学を学んで沖縄のことを海外に伝える。』にしました。今は、自分から積極的に英語で学校にいる留学生に声をかけたり、海外参加者とSNSで連絡を取り合って英文を読んだり書いたりできるように自分なりに頑張っていますが、目標を達成するまでにはまだまだ遠いのもっと努力を惜しまず励みたいと思います。そして、もう一つ私がやりたいと思っているのが沖縄の平和に対する思いを世界に伝えていくことです。海外参加者から、海外には平和学習がないと聞いたので海外に沖縄の平和についての思いを広げていきたいです。

私は、このウチナージュニアスタディーで新しい夢が見つかりました。それは、青年海外協力隊に入り、何か小さなことでも世界の役に立ちたいという夢です。私は、いつも中途半端なまま諦めたり、投げだしたりしていましたが、この夢だけは必ず叶えたいと思います。そして、今度は私が海外参加者のところに行きたいです。

### 「日々精進だった1週間」

私は、今回のウチナージュニアスタディーを通して様々なことが学べた。

特に私が印象に残っている事は沖縄戦についてみんなで学んだ事だ。私は外国の方もみんな大好きで、色々な人と関わりたかったが、沖縄には基地問題があり身近にいる反対者に批判されても、意見を出すための知識や体験が乏しくいつも何も言えなかった。しかし、昔、沖縄戦でアメリカ人に酷いことされたのに、私たちアメリカ人に優しく接してくれることが嬉しいと今回のプログラムで言われ、私も同じく嬉しかった。小学生の頃から平和学習をしていた私だが、いつも沖縄の人の主観ばかりで、相手国の意見が聞けないのは偏った教育ではないだろうか感じていた。沖縄の人でもアメリカの人でも大切にされるべき存在で、毛嫌いされるべきではないと感じ、今後伝えていきたい。

そして、このプログラムに参加して最も痛感させられたことが、日本の英語教育の遅れだった。参加する前から、遅れてることは感じていたが、あまりにも学校で学んだ事が通じなかったこと、会話が成り立たなかった事は今後、私が英語を学ぶ上で大きなキッカケになった。

沖縄では今、しまくとうば離れや基地問題など様々な問題を抱えているが、私たち若い世代が真剣に考え、体験し発信していくこと必要とされてる。

夏休み明けにクラスでジュニアスタディーについて発表する機会があった。その時に質問されて、違って解釈されて広まってると思ったことがあった。それが、海外の方は我が強くて自己中心的な性格でしたか？という質問があり、あくまでも私が感じた事ですが、我が強いのではなく、私たちより質問を多くしたり意見を言うことは、学ぶ意欲が高く、簡単に人に流されない、自分の意見をもっているだけで、逆に我が強いといていた私たちが変わらなければならないと。

オリエンテーションでこのプログラムに参加して人生が変わったと言う人もいると聞いていたが、私もその中の一人になれた気がする。





小橋川 咲希 (16)  
Saki Kobashikawa  
普天間高校 1年



伊吉 智里 (18)  
Chisato Iyoshi  
那覇西高校 3年

### 「ウチナージュニアスタディーに 参加して見つけた自分」

この事業に参加して、深く沖縄について知ることが出来たし、外国についても知ることが出来ました。外国は沖縄と違うところもちろんありますが、似ているところもあったし、海外参加者がどのようなところで育ってきたのか知ることが出来て、もっと外国に興味をもちました。また、同じウチナーンチュでありながらもウチナーンチュのアイデンティティは多様性があることを知りました。私達若者がこのウチナーネットワークを使って、みんなで先人達が築いてきた沖縄、沖縄の宝、繋がりを引き継ぎ、残し、守っていきたいです。その為には、もっと沖縄のことを知らないといけないし、他国のことも知らないといけないと思いました。

このウチナージュニアスタディーで6日間を共に過ごして、沖縄、海外の友達に出会い繋がりをもちことが出来ました。そして、たくさんの新鮮な言語にふれること、言葉はあまり通じなくても、お互い心で通じ合うことが出来ました。たくさんの国の友達と繋がって、色々な情報を共有する事が出来、なにより、大きな家族みたいで心がとても温かくなります。また、日本語以外の言語を話せるようになりたいし、もっともっと色々なことを学びたいし、沖縄の伝統文化を身につけたいし、たくさんの活動に参加していきたいです。

私の行動宣言である『色々な国の歴史や文化を理解して、ウチナーンチュのアイデンティティを大切にし、発信し、みんなと繋がる』という事を実践する為に、色々な活動を通して、沖縄はもちろん、様々な国の歴史や文化を学び、発信しています。世界のウチナーンチュの友人も増えてきました。ウチナーネットワークの一員としての誇りを大切にしています。

このような事業を企画、そして支えてくれた人達に感謝の気持ちでいっぱいです。ニフェデーピタン。ありがとうございました。貴重な体験になりました。これからも頑張っていきます。

### 「ウチナージュニアスタディーに 参加して見つけた自分」

私はUJSに参加して、沢山のことを学び、吸収することができました。17年間、沖縄に住んでいるウチナーンチュなのに、沖縄のことをあまり知らなかったことが一番驚きました。沖縄の歴史を知ること、沖縄の過去、沖縄の人々の人柄など、改めてウチナーンチュに生まれてよかったなと思いました。海外へ移住し、異国で仕事をし、生活していたことは大変だったと知り、それでも沖縄のことを思い、子孫たちに伝え、その人たちが沖縄に興味を持っていて、今回来てくれたことが、一番嬉しかったです。

私は、UJSを通して、これからは私たちが沖縄の良さ、歴史を伝えて行きたいと思いました。UJSで出会ったみんなは私の一生の宝物です。





伊佐 茉倫 (18)  
Marin Isa  
興南高校 3年

### 「沖縄への熱い思いを広げていこー！」

このプログラムでは、人と人との繋がりがったり、自分の故郷を守り続け、世界に発信すること、自分自身が持つ沖縄へのアイデンティティーなどとても多くのことを学びました。そして、世界中から来てくれた友達との生の意見を聞いたことや、自分の考えたこと、聞いて、見て、触れて感じたことをたくさん口に出して言うことで、相手に伝わると言うことも教わりました。

現在、このプログラムが終わって、1ヶ月が経ちますが、沖縄に対する気持ちの変化や、考え方、いろんな立場からの視点が見えてくるこの素晴らしいプログラムを、私が通っている高校の生徒たちに伝えようと思い、現在、日程調整中です。パワーポイントなので、写真を見せながら、どういうことをしたのかを紹介したり、ダンスを実際に踊ったりして、熱い思いを伝えられたらきっと、沖縄のためになにかしたい！と、感じる人が出てくると思います。そして、こういう気持ちを持つ人が増えるように活動していきたいと考えています。具体的に、一泊二日の交流プログラムをやろうと考えています。これは、賢翔さんが提案してくれて、お互い友人や、沖縄を思う人たちを集めて、スポーツやゲームを通して、交流しながら仲を深めていこうと思っています。そして、これを今年中に募集して、まだ、未定ではありますが、来年の2月か3月には、やりたいと考えています。この交流プログラムを通して、活動していく人が増えたらもっともっと、沖縄が明るく、活動的な島になるのではないかと考えています。また、これを実際に形にするには、難しいと思いますが、周りのアドバイスやサポートを受けながら、皆と協力して形にしていきたいです。



兼城 賢翔 (18)  
Kensyou Kaneshiro  
南風原高校 3年

### 「ウチナージュニアスタディーに参加して見つけた自分」

私は今回のうちなージュニアスタディーが、初めての海外の方との交流でした。元々、英語などの言語と交流は大好きなので、期待に胸を膨らまし今回の事業に参加しました。しかし、研修1日目、いざ海外参加者の皆と顔を合わせると、言語、外国人との初の交流、様々な壁に阻まれ上手くコミュニケーションを取れなかったのを覚えています。積極的に海外参加者と話をしている県内参加者の友達についていき、お互いの文化の違いや言語など教え合い、少しずつ仲良くなっていきました。海外参加者のフレンドリーさと県内参加者の受け入れの心がマッチした瞬間だったと思います。受け入れる心はとても大切だとわかりました。

今回のうちなージュニアスタディーで悔いが残る事が1つあります。それは、私の意志、意見をしっかりと海外参加者に伝えることができなかったことです。理由は、私の英語力が低いからです。ですから、行動宣言にも言った通りもっと英語を勉強し、いつかまた彼らに会うときには自分の意思をしっかりと伝え、彼らの言いたいことも理解してあげられるようになりたいです。





山入端 青海(18)  
Seira Yamanoha  
向陽学校 3年



安里 美紅(17)  
Miku Asato  
向陽高校 2年

### 「自分がこれから沖縄のために 出来ること」

私は、「ウチナージュニアスタディー2014」に参加出来て、本当に幸せだと思っています。沢山の素敵な人達と出会うことができ、言葉では説明できないほどの素晴らしいものを得ることが出来ました。

そして、語学の大切さを痛感させられると共に、改めて語学を学びたい！と気付かせてくれる場ともなりました。文化の違いや言葉の壁があっても、気持ちを持って諦めずに接していれば必ず伝わると感じました。また、お互いの国について知らないことがあれば教え合ったりして、刺激し合えるいい関係にもなっています。

私は、意見交換の時に、本人の口から話された言葉を理解するのではなく、チューターさんからの言葉で理解していました。その時、折角いい意見を言っているのだから、理解したいと思うようになり語学の幅を広げたいと思いました。まずは、世界共通語である英語に力を入れています。

私は、将来看護師になろうと考えています。グローバル化が進む現代社会では、日本の病院を利用するのは国内の人だけとは限りません。なので、このUJSから相手を思いやること、言葉が通じない時にどう臨機応変に対応するか、いかに自分の考えを人にわかり易く伝えるか、考えさせられました。この経験から私は、沖縄にルーツを持つ人々、海外から日本を訪れる人々が安心して医療を受けることが出来るようにしたいです。これから沢山の経験を積むことが、夢実現に繋がっていると思います。なので、気持ち、思いだけでは終わらず、アクションを起こして努力していきます。

最後に、この事業に関わってくくださった皆様、協力してくれた皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

### 「ウチナージュニアスタディーに 参加して見つけた自分」

私は今年の夏、最高の仲間と最高の思い出を作ることができました。この夏、ジュニアのメンバーと過ごした1週間は絶対に忘れないしこれからも作っていきたい、というのが1週間を通して印象深く思ったことです。

最初、事前研修のときは本当に不安だらけでした。打ち解けられるか、楽しくやっていけるか。でも一人ひとりが个性的で優しく、みんな私と仲良くしてくれました。海外参加者と初めて会ったときは緊張気味だったけどみんなにおいていかれたくなかったから一生懸命たくさんかまちょしました。

私たちは金武町に行けなくて楽しみだったことがたくさん中止になったけど、ボランティアのみんなのおかげで火なしキャンプファイヤーもめっちゃ楽しめました。一つ一つのプログラムを終えるごとに達成感が沸いてきたり、疲れとかいろんな感情があったけど、今思えば、沖縄の知識が少しずつ深く深く頭に刻み込まれてたんだなー、と思いました。ジュニアを通して、うちなーんちゅとして沖縄の知識の無さにショックを受けたり自分自身、情けないと思いました。これまで沖縄の文化である琉球舞踊を習ったからといって沖縄のことなら周りの人より少しは多く知ってるつもりでした。また、マリッサのカナダ沖縄県人会の人が少なくなってきたというのを聞いて、ショックを受けました。同じ世代の人が国のために、沖縄のためにがんばっているのに対してなにも行動しない自分はこのままでいいのか、と自分の課題を見つけることもできました。

ウチナージュニアスタディーは私にとって新しい発見をさせたり、自らの手で道を開かせてくれたりと、私にとっては本当にいい事業でした。次は私たち、県内参加者が海外に行ってみんなりに会いに行く番です。私も絶対に会いに行きたいです。





楚南 早紀 (17)  
Saki Sonan  
宮古高校 2年

「ウチナージュニアスタディーに  
参加して見つけた自分」

海外には、約四十万人のウチナーンチュが、祖先の生まれ育った沖縄の文化をそれぞれの国で大切に受け継ぎ、守っていきこうと努力しています。私は今年の夏、ウチナージュニアスタディーというプログラムに参加しました。このプログラムは、県内の中高生と海外に住む沖縄系人が交流し、沖縄の伝統文化や歴史を学ぶというものです。一週間のプログラムの中で参加した十カ国それぞれの文化や歴史に触れ考え方や価値観の違いに驚きの連続でした。今回のウチナージュニアスタディーを通して、とても大きな「もう一つの沖縄」を感じると同時に、私も故郷の為に何ができるのか、もう一度宮古島と真剣に向き合える良い機会となりました。

私にできる事、それは宮古島の良さを世界に発信していく事だと強く心に思い、どのような方法があるのか考えてみました。私の描く宮古島の将来像は、若者が中心となった企画・運営で、国際交流が盛んに行われている島である事です。例えば、宮古島で毎年開催されている「クイチャーフェスティバル」を近隣国である台湾や、ハワイマウイ島などの姉妹都市でも行う事が出来たら、宮古島の文化を世界の人々に知ってもらおうと共に、世界に宮古島の良さを存分にPRできるのではないかと考えました。国際化が進行する現在、海外の同世代と交流するにあたって、自分はどれだけ島の事を知っているのか、どれだけ伝えることができるのか、島外の方と触れ合う時こそが、最も故郷の美しさや文化の素晴らしさに気付く事ができると私は思います。

「綾道」という言葉を知っていますか。これは「あやんつ」と読み、宮古島の言葉で美しい道を表します。私は将来、宮古島の伝統文化を世界に発信していく一員になりたいと考えています。世界と宮古島の綾道になれるよう、島人としてのアイデンティティを大切に、小さな事から少しずつ取り組んでいきたいです。



大久 勝利 (16)  
Katsutoshi Daiku  
八重山高校 1年

「ウチナージュニアスタディーに  
参加して」

今回の研修に参加した当初、言葉の違いや考え方の違いに少々、不安を抱いていた私は海外参加者と上手く打ち解ける自信がありませんでした。でも初日のウエルカムパーティーで、皆で集まって楽しく話をしたり、卓球やビリヤードなどをしながら、海外参加者とすぐに仲良くなる事が出来ました。

それがきっかけで私はその後、自分でも驚く程、積極的にコミュニケーションを交わすことが出来るようになりました。スポーツ交流のバスケの試合では、同じチームにアメリカ人が一人、アルゼンチン人が一人と言語が違う中、試合になるのかと不安でしたが、単語をつなぎ合わせたり、動作やジェスチャーで今からやる事や、作戦を伝えたりして見て、自分の言った言語が相手に伝わり、英語で返してくれた時はもの凄いい喜びを覚えました。また、各国の紹介で、それぞれの国にも興味がわき、いつか全ての国に行ってみたいと思うようになりました。

今回の研修は台風の影響で多くのプログラムが中止になってしまいましたが、その代わりにボランティアやスタッフの方々が皆が楽しめるように様々な交流レクレーションを用意してくださいました。皆で今、この瞬間を楽しもうとすれば、どんな時でも楽しむことが出来るんだということを学びました。

私は今回経験した数々の素晴らしい文化を持つ沖縄を改めて心から大好きになり、誇りに思うことができたと思います。いくつもの貴重な経験、そして、家族のような最高の仲間との出会いに感謝し、これからも世界中にいる沖縄を大切に思う人達とつながっていききたいと思います。

最後に最高の経験をさせて頂き、沖縄県をはじめ、スタッフの皆様に感謝しています。本当にありがとうございました。



兼城 凜子 (23)  
Riko Kaneshiro  
宇都宮大学 4年  
(青年リーダー)

#### 「青年リーダーとしてUJSに参加して」

私は県外からUJSの青年リーダーに応募し、今年の青年リーダーになるチャンスを掴みました。世界で受け継がれる沖縄の文化やウチナーンチュの絆、沖縄を誇りに思う気持ちなど、ジュニアで学んだことや感じたことがいかに重要なことかをジュニア卒業後、さらに実感しました。今回が2度目の参加ということで、青年リーダーとして選ばれた私には何ができるか、どのようにしたら沖縄やジュニアの素晴らしさを伝えられるかを常に考え、沖縄と世界が強い絆・関係を築けるように、そして参加者全員が沖縄をもっと大好きになるように意識して行動しました。最終日のグループ発表とみんなの行動宣言を聞いたとき、私の伝えたかったことがみんなに伝わっていることを知ることができ、とても感動したと同時にそれが青年リーダーをやってよかったと思った瞬間でした。

青年リーダーの経験を生かし、私の夢である教師になったら、自分のルーツ、沖縄の歴史や伝統文化、沖縄の素晴らしさを生徒と共に学び・考える授業を作っていきたいと思う気持ちが強くなりました。この夢を実現することによって、沖縄に誇りを持ち、その素晴らしさを世界に発信することのできる子どもが増えていくと思います。そのために、私自身もっと知識を蓄え、経験を積んでいくとともに、これからもジュニアで出逢った仲間たちと絆を深めていきます。

また、2016年にジュニアの原点である、世界のウチナーンチュ大会が沖縄で開催されます。これまで沖縄が築いてきた絆やウチナーネットワークが発展していくよう、沖縄の将来を担う私たちが中心となって、大会をリードしていきたいと考えています。

私はこれからも夢や目標に向かって精進し、それらを実現することでジュニアや沖縄に恩返しをしていきます。

最後に、素敵な出逢いと経験の機会を与えて下さった沖縄県をはじめ、ジュニアスタディー事業に携わった関係者のみなさん、そして参加者のみんなに感謝を申し上げます。



## 4. 參考資料

(1) アンケート結果

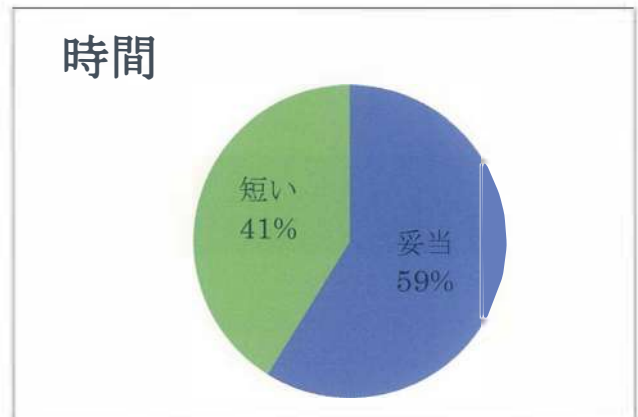
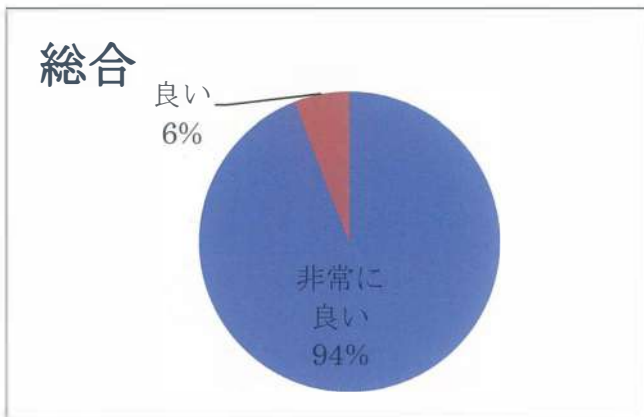
1-1. 事前学習（7月5・19日）の評価とその理由をお聞かせください。（県内参加者のみ）

(1) 総合 非常に良い 16 良い 1 どちらともいえない 0 よくない 0

(2) 時間 妥当 10 長い 0 短い 7

【理由】

- ・移民の歴史も前もって知ることが出来たし、多くのボランティアのみなさんと関わって、アドバイスをもらうことができたから。
- ・事前学習で県内参加者と和を深めて協力し、海外メンバーを受け入れられることができたため。
- ・プレゼンテーションの準備時間もっと欲しかった。
- ・「もうちょっと！」と思えるくらいがちょうどいいと思う。そうすれば、次また会える日までの自分の目標や、課題を見つめ直すことができると思う。



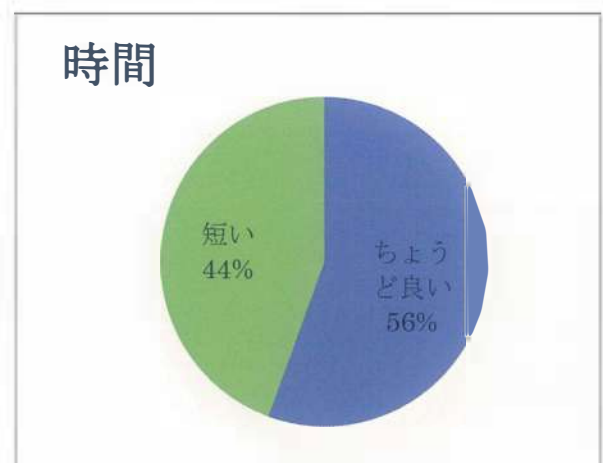
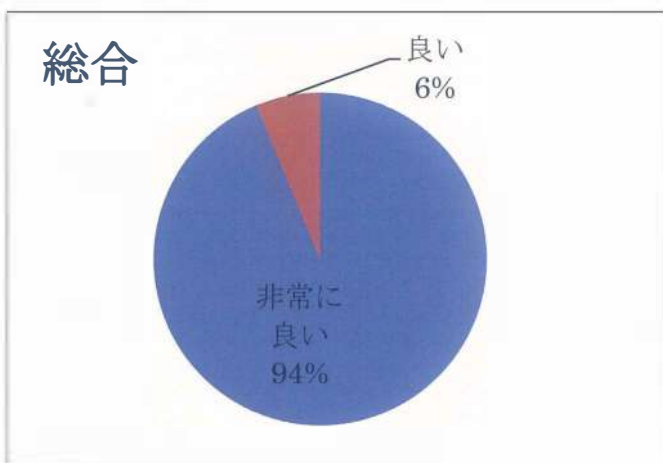
1-2. ホームステイの評価とその理由をお聞かせください。（海外参加者のみ）

(1) 総合 非常に良い 15 良い 1 どちらともいえない 0 よくない 0

(2) 期間 妥当 5 長い 0 短い 10 無回答 1

【理由】

- ・家族に歓迎され、本当に素晴らしい時間だった。
- ・日本の親戚に初めて会うことができ、観光地を訪ねたり、日系人の絆を知ることができた。
- ・日本語がわからなくてもとても素敵な経験ができた。沖縄の家族と沖縄の習慣を共有したことはとても価値があった。
- ・一週間で沖縄をまわることはできず、すべての家族に会うことができなかった。沖縄が本当に好きになり、また戻ってきたいと思った。





## 2. 学習プログラム（8月3～9日）の評価とその理由をお聞かせください。

### (1)総合

【県内参加者】 非常に良い 16 良い 1 どちらともいえない 0 よくない 0

【海外参加者】 非常に良い 11 良い 5 どちらともいえない 0 よくない 0

### (理由)

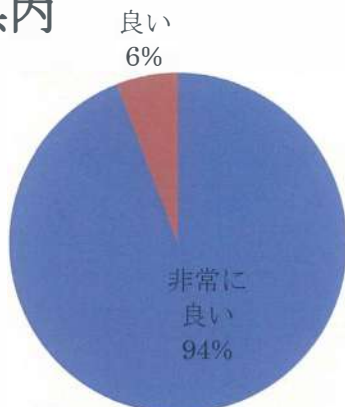
#### 【県内参加者】

- ・自分の知らなかったことが多く沖縄を見つめなおすことができ、自分の将来の夢も学習プログラムを通してはっきり見つけることができたので、とても良い経験ができたと思う。
- ・金武町に行けず、自然学習やBBQが出来なかったのは残念でしたが、他の学習ではたくさんの事を学べたし、みんなとの仲を深めることも出来たのでとても良かったと思う。
- ・もっと一緒にいたい！と思う気持ちがあったけれど、そのくらいなのがベストなんだと思う！自分たちからも会いに行こうと思えるから。

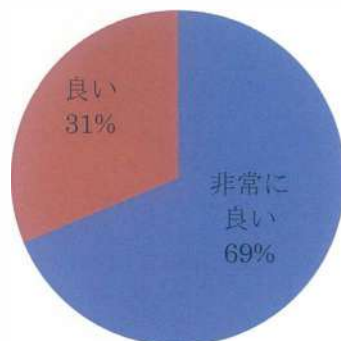
#### 【海外参加者】

- ・多くのことを学び、またとても楽しむことができた。目的は達成できたと思うし、私はとても満足している。
- ・世界中に友達を作る機会を得られ、彼らと素晴らしいネットワークを作ることができた。
- ・素晴らしい人たちと素晴らしいプログラムを進められ、言葉がうまく通じなくても、常に良い心構えで過ごすことができた。
- ・時々何をしているか付いていけないときがあり、もう少しスタッフが必要だと思った。

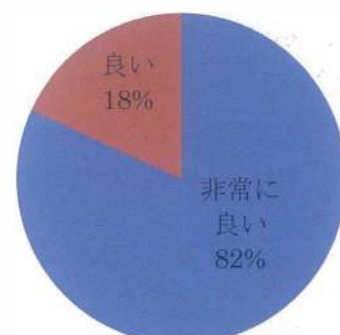
### 県内



### 海外



### 全体



(2) 一日のスケジュールについて

【県内参加者】 □妥当 16 □詰込み過ぎ 1 □もの足りない 0

【海外参加者】 □妥当 11 □詰込み過ぎ 4 □もの足りない 1

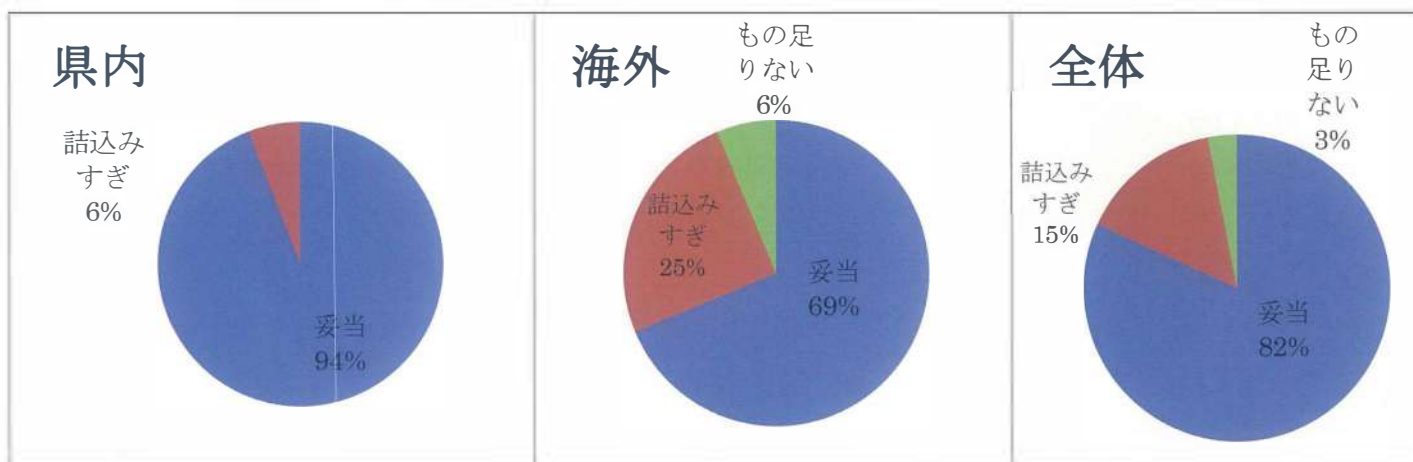
(理由)

【県内参加者】

- ・毎日が楽しくてわくわくした。
- ・時間のメリハリを付けることができ、時間や場所を伝え合うということで、海外参加者との交流も増えた。
- ・毎日、22時位まで活動するのはとっても大変だったのと、もっと海外参加者と話す時間が欲しかった。

【海外参加者】

- ・少し疲れることもあったが、他の参加者と話をしたり一緒に過ごす時間があった。
- ・内容がとても充実していたのでプログラムを削るべきではないが、もし期間が長くできるのであれば、もう少し自由時間が欲しい。



(3) 宿泊先について

【県内参加者】 □非常に良い 13 □良い 2 □どちらともいえない 2 □よくない 0

【海外参加者】 □非常に良い 10 □良い 6 □どちらともいえない 0 □よくない 0

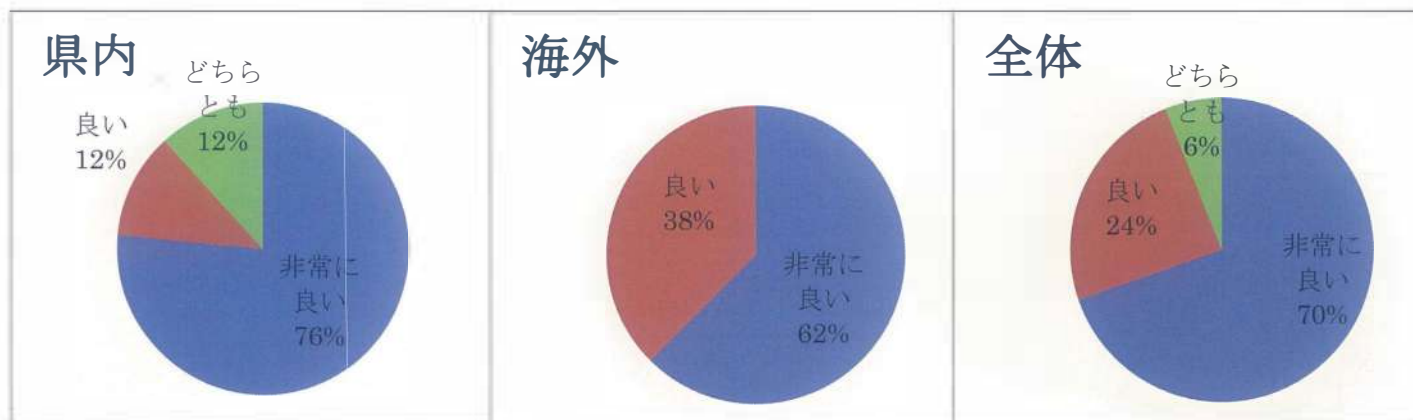
(理由)

【県内参加者】

- ・自分で洗濯も風呂も自由にできてよかった。 ・コミュニケーションの場となる遊び場所もあった。
- ・環境や設備はとても良かったが、初日は寂しさや不安があったので大部屋で過ごせたらいいなと思う。

【海外参加者】

- ・Wifiもあり、便利でとても清潔だった。みんなで遊べる場所もあった。
- ・できれば個人部屋ではなく、ルームシェアをしたかった。





(4) 食事について

①JICA 沖縄国際センター食堂

【県内参加者】

\*量 □妥当 11 □多い 6 □ものたりない 0 \*味 □美味しい 15 □ふつう 2 □美味しくない 0

【海外参加者】

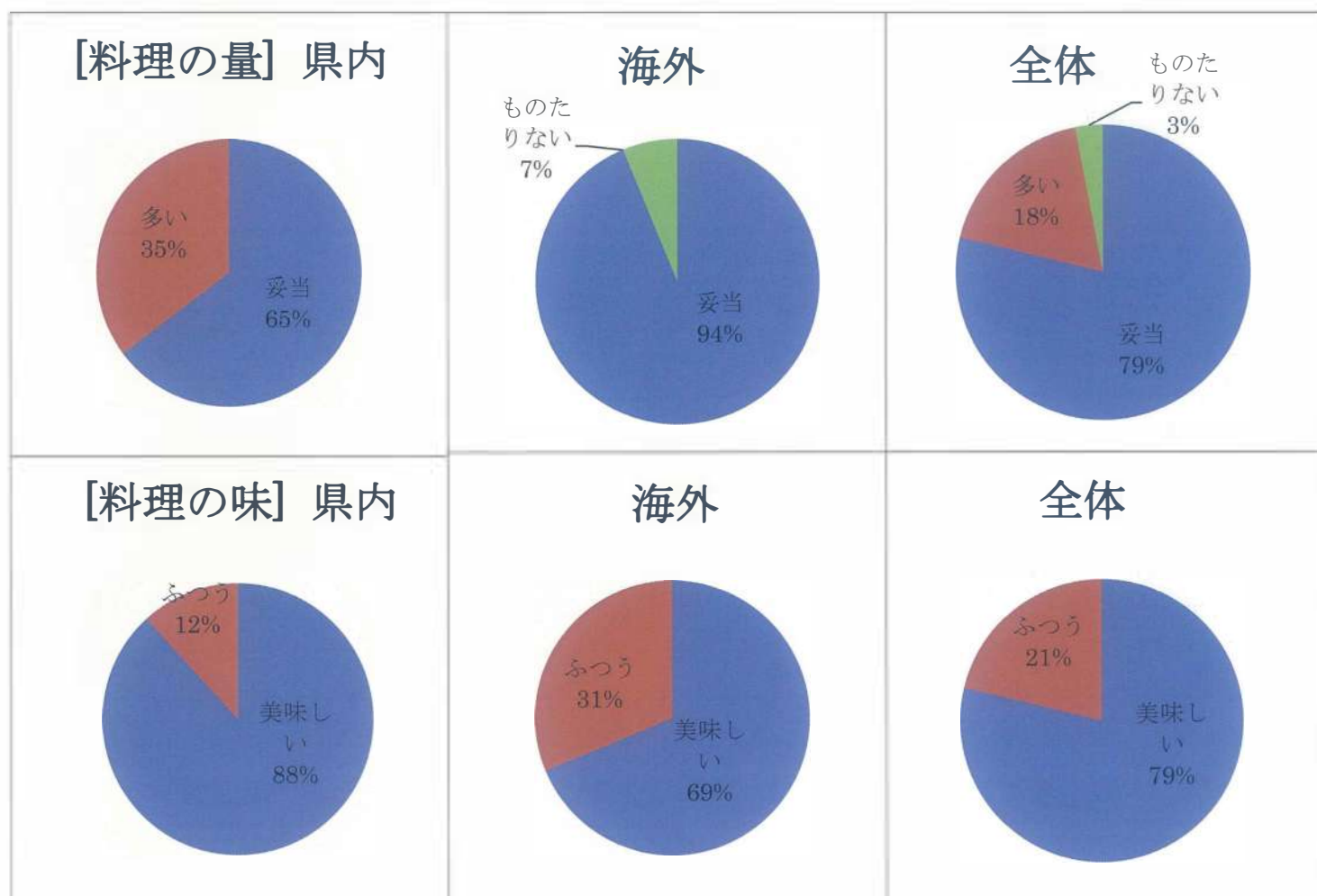
\*量 □妥当 15 □多い 0 □ものたりない 1 \*味 □美味しい 11 □ふつう 5 □美味しくない 0  
(理由)

【県内参加者】

- ・ 普段は口にすることのできない料理をたくさん味わうことができ、食文化の違いも学ぶことができた。
- ・ 朝のバイキングは、それぞれ好きに食べてよかったのがいい。
- ・ 個人差があると思うが、ちょっと多くて残してしまい、申し訳ないという気持ちも多々あった。

【海外参加者】

- ・ 適量でとても美味しかった。毎日メニューの違い、和食と洋食を組み合わせたものだったのでよかった。
- ・ 美味しく、お腹いっぱい食べることができた。 ・ ワーク中にお腹が減ることがあった。
- ・ もう少し沖縄料理が食べられると思っていた。料理も文化の一つであり、外国ではなかなか食べられない。



②施設外レストラン及び弁当

【県内参加者】

・量 □妥当 13 □多い 2 □ものたりない 2 ・味 □美味しい 15 □ふつう 2 □美味しくない 0

【海外参加者】

・量 □妥当 14 □多い 1 □ものたりない 1 ・味 □美味しい 14 □ふつう 2 □美味しくない 0

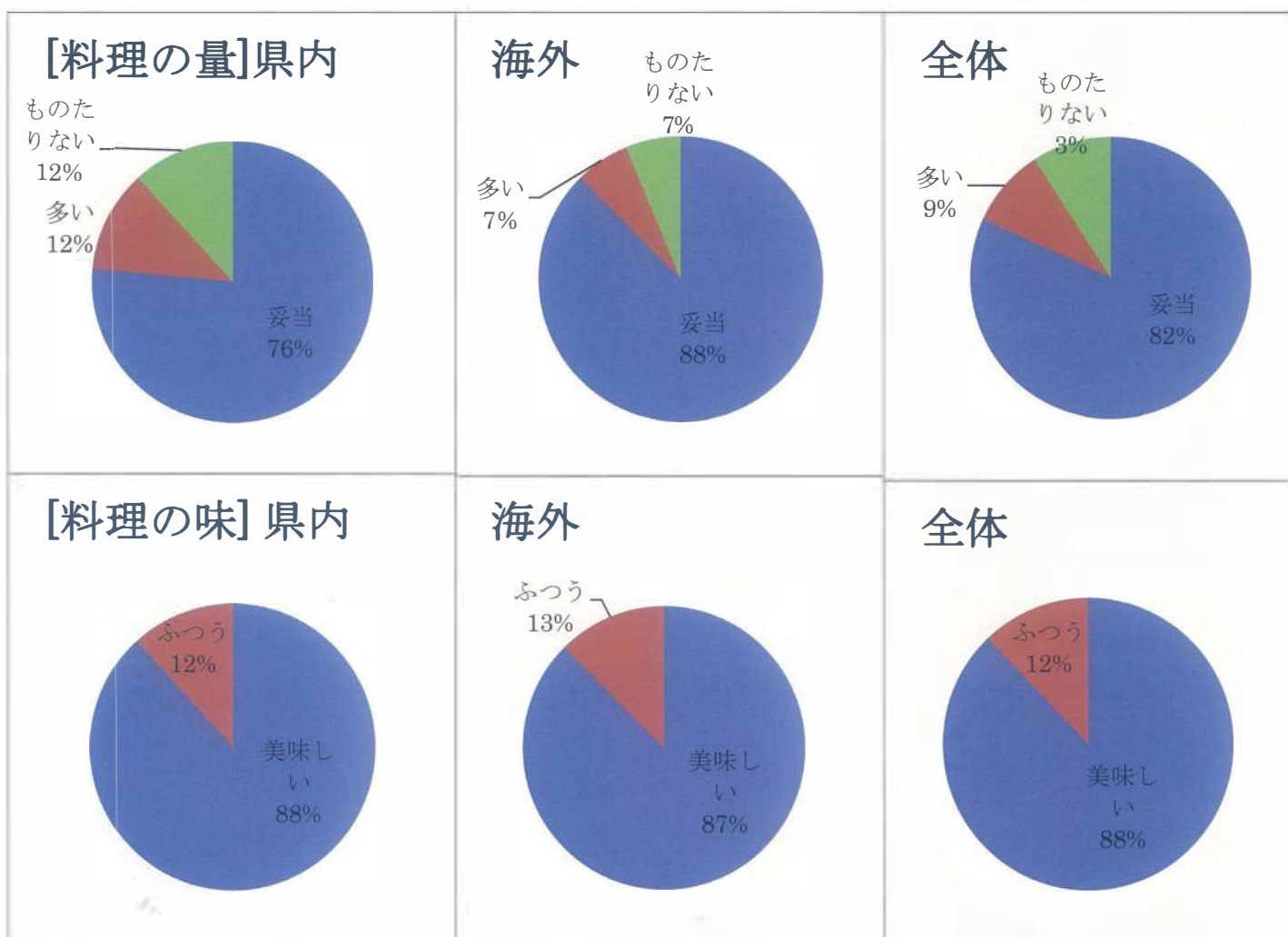
(理由)

【県内参加者】

- ・沖縄の料理やバイキングなど楽しく食べることができた。 ・口に慣れているものが多く美味しかった！
- ・冷めていて海外メンバーにとっては初めて食べるものもあり、冷めたままのは少し食べにくいようだった。

【海外参加者】

- ・沖縄料理は私が一番好きな料理で、世界で一番おいしい料理だ！
- ・沖縄料理のレストランがとても良かった。食べてみたいと思っていたタコライスを食べることができた。
- ・レストランは美味しかったが、お弁当はそこまででもなかった。





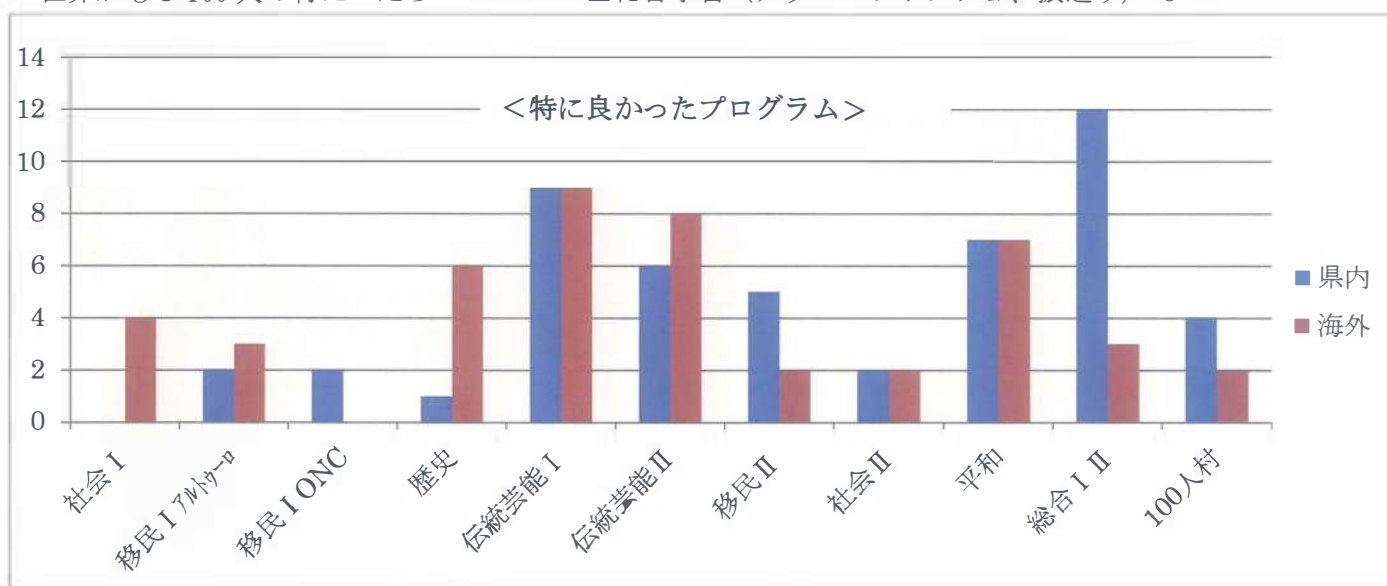
(5)各学習プログラムの中で特に良かったものを3つまで選び、その理由をお聞かせください。

【県内参加者】

- 社会学習Ⅰ（那覇まちまーい） 0
- 社会学習Ⅱ（こどもの国） 2
- 伝統芸能Ⅰ（肝高の阿麻和利） 9
- 伝統芸能Ⅱ（パフォーマンス） 6
- 移民学習Ⅰ（アルトゥーロ氏体験記） 2
- 移民学習Ⅰ（移民カルタ・WS） 2
- 移民学習Ⅱ（WYUA） 5
- 歴史学習 1
- 平和学習 7
- 世界がもし100人の村だったら 4
- 総合学習（メッセージポンチョ、振り返り） 12

【海外参加者】

- 社会学習Ⅰ（那覇まちまーい） 4
- 社会学習Ⅱ（こどもの国） 2
- 伝統芸能Ⅰ（肝高の阿麻和利） 9
- 伝統芸能Ⅱ（パフォーマンス） 8
- 移民学習Ⅰ（アルトゥーロ氏体験記） 3
- 移民学習Ⅰ（移民カルタ・WS） 0
- 移民学習Ⅱ（WYUA） 2
- 歴史学習 6
- 平和学習 7
- 世界がもし100人の村だったら 2
- 総合学習（メッセージポンチョ、振り返り） 3



(プログラムで特に良かった点)

【県内参加者】

- ・「肝高の阿麻和利のバックステージツアー」はとても感動し、衝撃を受けた。あんなにも素晴らしい文化があるのかということを知り、目頭が熱くなったのを今でも鮮明に覚えている。また、それに介して、ダイナミック琉球のワークショップができ、最後にみんなで披露することができたのも良い思い出となった。
- ・ひめゆりの塔に行ったときは、改めて沖縄について振り返ることができ、よかった。
- ・メッセージポンチョは、一生の宝物！いつかみんなが母国語で書いた文字がよめるようになりたい。
- ・たくさんの沖縄を学べた。本当は全部に☑をつけたい。どれもこれもプラスになるものだった。

【海外参加者】

- ・歴史授業はとてもおもしろく、私たちは自分たちがどこから来たかもっと知るべきだと思った。先生は私たちの疑問にすべてこたえてくれた。
- ・「肝高の阿麻和利」は本当に素晴らしかった。中高生がやっていることに驚いた。みんなすごく輝いていて感動した。
- ・以前から行きたかったひめゆりへ行き、体験者の話を聞くことができた。言葉がわからないがとても胸に来るものがあった。

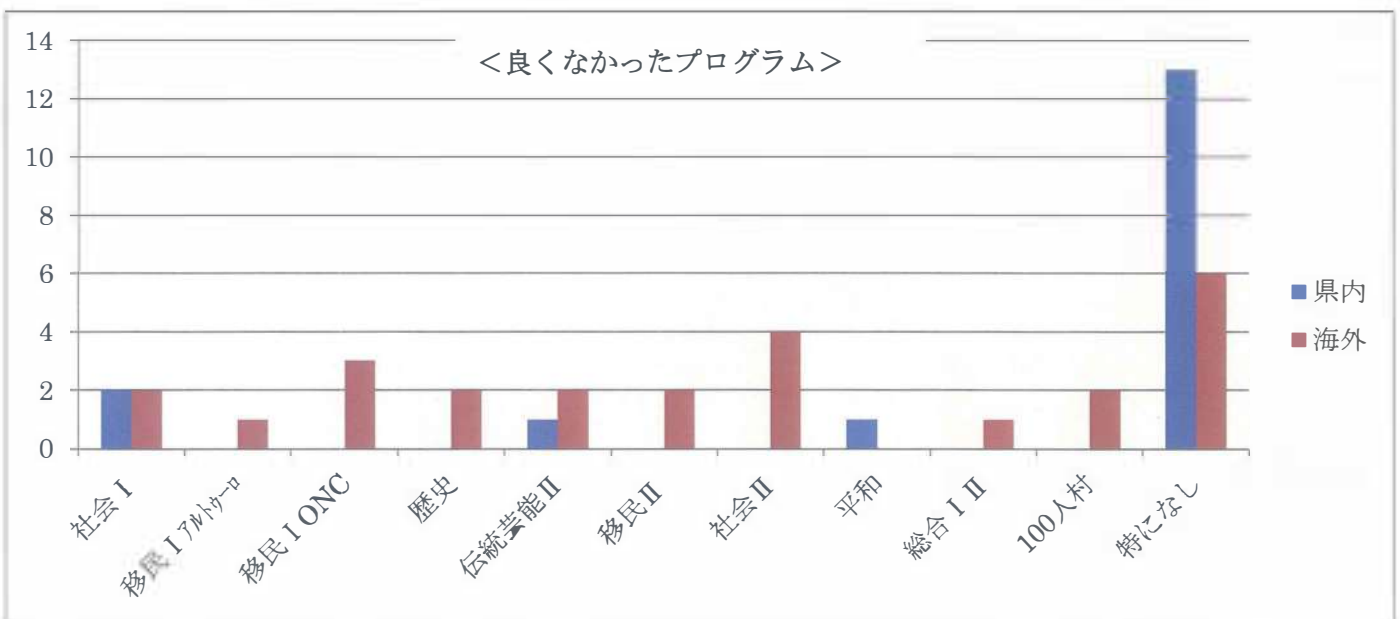
(6) 各学習プログラムの中で良くなかったものを3つまで選び、その理由をお聞かせください。

【県内参加者】

- 社会学習Ⅰ（那覇まちまーい） 2                      □伝統芸能Ⅱ（パフォーマンス） 1  
 □平和学習 3    □特になし 13

【海外参加者】

- 社会学習Ⅰ（那覇まちまーい） 2                      □社会学習Ⅱ（こどもの国） 4  
 □伝統芸能Ⅰ（肝高の阿麻和利） 0                      □伝統芸能Ⅱ（パフォーマンス） 2  
 □移民学習Ⅰ（アルトゥーロ氏体験記） 1                      □移民学習Ⅰ（移民カルタ・WS） 3  
 □移民学習Ⅱ（WYUA） 2      □歴史学習 2      □平和学習 0  
 □世界がもし100人の村だったら 2                      □総合学習（メッセージポンチョ、振返り） 1  
 □特になし 6



(プログラムで改善してほしい点)

【県内参加者】

- ・(まちまーいでは) お店がしまっているところが多く、いつもの賑わいのあるところが見せられなかったものでそこが残念だった。
- ・全てのプログラムが大切で、学びがあるものだったので、良くなかったものはなかったと思う。重要と思うもの(アイデンティティーや平和学習)にはもっとじっくり時間をかけてよかったと思うが、その時間帯や日程も考慮しないといけないと思った。

【海外参加者】

- ・移民学習は良いクラスだと思うがあまり興味を持たなかった。
- ・すべてのクラスが必要だと思うが、あえて選ぶとすれば「歴史、社会Ⅱ、100人村」だ。歴史は大学の講義のようで少し難しく、社会Ⅱでは古民家で雨が降ってきた。100人村はテーマを理解しにくかった。
- ・退屈なプログラムはひとつもなく、すべて違った何かがあり、多くがインタラクティブであり、特別良くないものはなかった。疲れを感じたときもあつたが、おそらくそれは眠る時間が少ないなど、自分たちの責任である。
- ・3時間近くずっと座っているのは大変なため、座って行うプログラムは改善してほしい。



(7) 班行動はプログラムを行う上で有効でしたか？

【県内参加者】 □非常に良い 9 □良い 6 □どちらともいえない 2 □よくない 0

【海外参加者】 □非常に良い 8 □良い 5 □どちらともいえない 0 □よくない 0

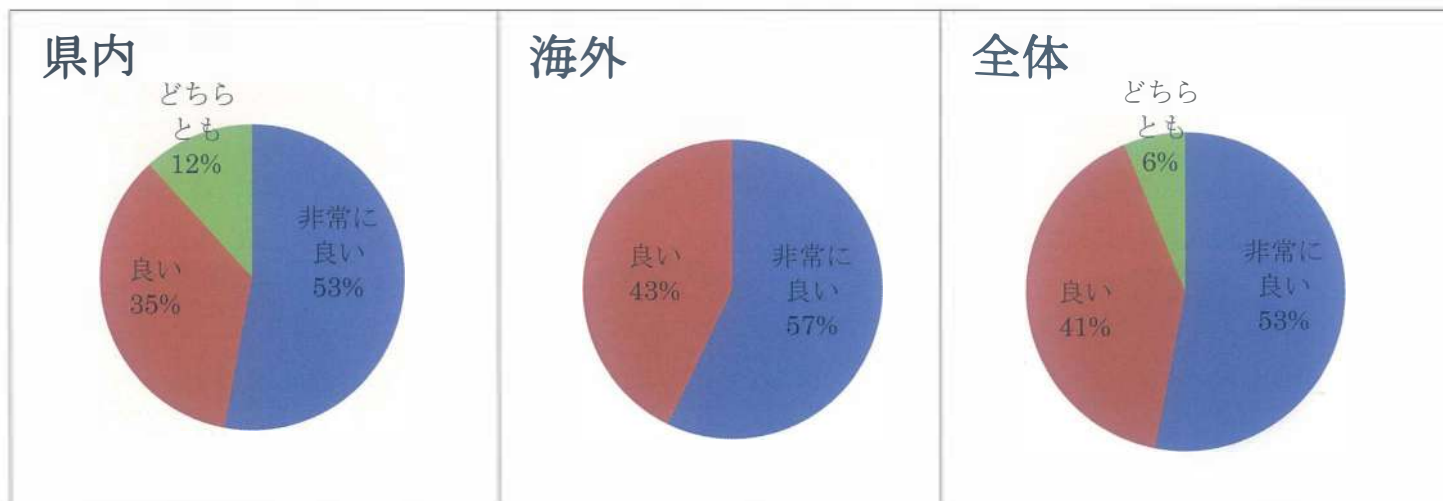
(理由)

【県内参加者】

- ・たくさん話をする事ができた。もしグループがなかったら、海外組だけで一緒にいたりとか、県内参加者だけで一緒にいたりとか、そういうのができていたんではないかなと思う。
- ・自分の役割とか責任感とか生まれた。
- ・全員と仲良くなる機会が少なかったようにも感じたので、プログラムごとにグループを変えるのも、ありだと思った。

【海外参加者】

- ・日本語、英語、スペイン語と3つの言語が混ざっていたので少し複雑だったが、いつも理解しようとし、言語の壁を乗り越えていた。
- ・たくさんの方がいたので班行動はとても効果的だったし、グループワークではチームワークを発揮できた。



(8) 県内（海外）参加者との交流は期待していた通りできましたか？

【県内参加者】 □期待以上だった 13 □期待通り 2 □あまりできていない 2 □できなかった

【海外参加者】 □期待以上だった 10 □期待通り 6 □あまりできていない 0 □できなかった

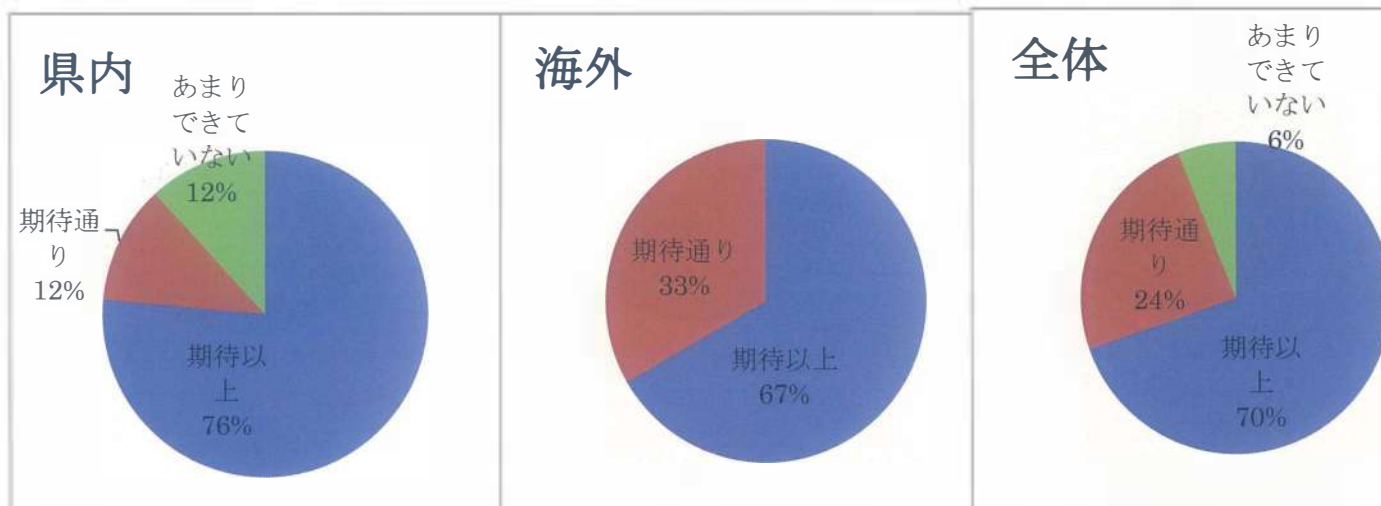
(理由)

【県内参加者】

- ・一番の問題だった言語の違いを早いうちに乗り越えたから。
- ・こんなに海外参加者と仲良くなれるとは思ってなかった。
- ・スケジュールが詰め詰めで、疲れてしまい、夜は各国の話聞くより寝るのを優先してしまった。う少し、話す時間が欲しかった。

【海外参加者】

- ・もちろん！沖縄のみんなはとても素敵な人たちだった。
- ・別れを伝えるときに涙が出るなんて思ってもいなかったし、こんな短い期間でここまで距離が近くなると考えてもいなかった。この友情をこれからも続け、またいつか会いたい。
- ・日本語の問題はあったけれど、英語で話をしたり、他の参加者が手伝ってくれたりして問題なく会話することができた。
- ・何人かの海外参加者とあまり話すことができなかったのが心残りだったが、県内参加者とはとても良くなれた。





### 3. 報告会（最終日）の評価とその理由をお聞かせください。

#### (1) 総合評価

【県内参加者】 □非常に良い 15 □良い 2 □どちらともいえない 0 □よくない 0

【海外参加者】 □非常に良い 12 □良い 3 □どちらともいえない 1 □よくない 0

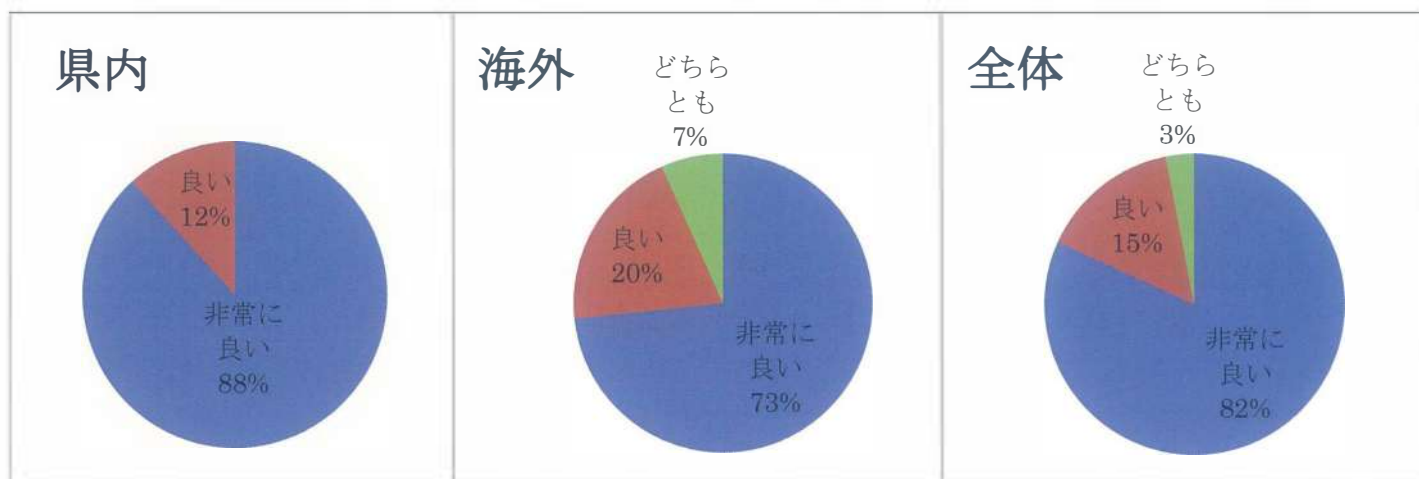
(理由)

#### 【県内参加者】

- ・行動宣言がとてもいいと思った。実際に意識して行動できて、みんなも頑張っているから自分も頑張ろうと思える。
- ・みんながどんな体験をして、どんなことを気に入ったのかを知ることができたし、忘れていたことも振り返ることが出来た。
- ・海外参加者も含め全員で報告会が出来たのがとてもよかった。
- ・親に何を学んだのかとか、自分が1週間で成長した姿を見せることができてよかった。

#### 【海外参加者】

- ・始めは（UJSが終わることが）悲しかったけれど、悲しむことではなく、幸せなんだと思った。私はその場所にいられる70億人のうちの一人であり、こんな経験はもうできないだろうから。
- ・最終日、このプログラムに参加したことは私が今までやってきたことの中で一番だと気付いた。本当に多くのことを学び、これからの人生に生かしていける。自分の国でも日本語をしっかりと学び、沖縄の文化について伝えていきたい。
- ・報告会で全員が座ったとき、私は最初の日を思い出したが、こんなにも素晴らしいグループになるとは想像していなかった。それはグループとして成長しただけでなく、個々人が人として成長したからだと思う。
- ・もっと早く報告会の内容を知っていたら、それに向けてもう少し準備することができたと思う。







## 6. その他意見など

### 【県内参加者】

- ・あと一週間でも長いほうがいいと思った。
- ・今回はこのような事業に参加させていただきありがとうございました。皆様のサポートのおかげで良い経験をさせていただきました！また、国際的な事業に受かれるように頑張っていきます！
- ・一週間の間で、学ぶことがたくさんあった。それをより多くの人に伝えていけるよう、努力していきたい。また、将来は私自身も企画・運営などに関われるような人材として社会貢献していきたい。
- ・最後のフェアウェルパーティーに関して、海外参加者に沖縄の伝統芸能を披露することを提案しておけばよかったと思った。自分が参加した時に、海外参加者の方が沖縄らしいということに衝撃を受けたので、次回からはそのパフォーマンスも入れていければいいと思う。

### 【海外参加者】

- ・私の人生を変えたこのプログラムを作ってくれた皆様に、本当に感謝している。
- ・母国を知る機会を与えてくれたことにとても感謝している。
- ・誰一人このプログラムに参加したことを後悔していないだろう。皆できる限り早く沖縄に戻ってきたいと思っている。自分たちの国にたくさんの美しい経験や思い出を持ち帰ることができ、また今は私たちを待ってくれる家族が沖縄にいる。
- ・もう一度みんなで集まり、このような経験をする機会を持ちたい。
- ・プログラム期間、台風の影響で自由時間があつた。最後のステージのためにダンスの練習ができたことはよかったが、あまりにたくさんの自由時間が出ないよう、そうしたときのためのプランがあってもいいかと思った。

## (2)メディア掲載

琉球朝日放送 報道部 ニュースQプラス » ジュニアスタディツアー

**QAB 琉球朝日放送 報道部**



倉持恵美 棚原 勝也 比嘉 鈴代 草柳 栞堂 真喜屋 美樹 沼尻和樹 中川 菜 川村美保 仲宗根朋美

月曜～金曜 夕方 6時25分より

琉球朝日放送 HOME

2014年8月4日 18時34分

ジュニアスタディツアー



海外に住むウチナーンチュたちの子弟に故郷・沖縄について学んでもらうスタディツアーが始まりました。

今回、ツアーに参加したのはアメリカやカナダ、ポリビアやブラジルなど10カ国から集まった16人の学生たちです。

ウチナー・ジュニアスタディ事業は2001年度から始まり今回で14回目。海外移住者の子や孫たちを沖縄に招き、県内の同年代の子どもたちと生活を共にしながら沖縄の歴史や文化自然などを学習し自分のルーツや故郷について学ぶプログラムです。

4日、県庁で開かれた歓迎セレモニーでは各国の特色あるお土産が手渡されるシーンもあり早くも文化交流がスタートしていました。

沖縄での過ごし方について聞かれた参加者は「キャンプファイヤーとカヌーに乗るのが楽しみです」「沖縄の歴史と自然について学びたいです」と話していました。

一行は4日から7日間の日程で交流を深めていきます。

### 1. [米国高校生沖縄を訪問](#)



Copyright © QAB, Ryukyu Asahi Broadcasting Corporation. All rights reserved.  
No reproduction or republication without written permission.





2014年8月5日 18時31分

22か国の青少年・若者が大交流会



沖縄の文化を学ぶなど国際交流で沖縄を訪れている世界各国の青少年たちが一堂に会し沖縄の伝統文化を体験するワークショップが開かれました。

交流会にはアジア各国の若者がそれぞれの国の環境問題について考え国境を越えたネットワークを育むことを目指した「アジアユース人材育成プログラム」と海外に移住した県出身者の子弟が沖縄の文化について学ぶ「ウチナージュニアスタディ」の22か国の若者が参加。

うるま市で9月公演する「肝高の阿麻和利」に出演する100人あまりの中高生たちと交流しました。交流会では海外からの参加者たちに沖縄の文化を感じてもらおうとミュージカルで披露される創作組踊りを男性と女性の2つのパートに分かれて体験。

参加者たちは手足の動きや振り付けを1つ1つ教えてもらいながら初めての組踊りに笑顔で取り組んでいました。

カンボジアから参加した17歳のパオブ・パニユリートさんは「5日の経験はすごく楽しかったのしかったです。いろんな人がいろんな国から来て、沖縄の伝統的な組踊りとかを経験して、すごく素晴らしかったです」

カナダから参加したキング・マリッサさん、15歳は「このような踊りをするのは初めてでとても素晴らしい経験でした。こういう踊りをする事で、沖縄に近くなった気がします」

そして沖縄の比江島凜さんは「沖縄の文化をみなさんに知ってもらって、沖縄から文化を発信するっていう風にできたらいいなと思っています」

新屋穂乃実さんは「めったにアメリカの人とかほかの国の人とかかわることがないので、言葉が通じないところでのコミュニケーションとか、とってとれるようになるなと思いました」と話していました。

子ども達は遠い国の同じ年ごろの仲間と心を通わせながら沖縄の文化を身近に感じる時間を共有していました。

#### 1. ウチナージュニアスタディー ふるさとの歴史や文化に触れて

## 県系・県内学生が 共に沖縄文化学ぶ

ジュニアスタディー始まる  
海外移住者の子弟と県内の若者が交流し、文化や歴史を学ぶ「ウチナージュニアスタディー」(県広報交流課主催)の歓迎会が4日、県庁1階の県民ホールで開かれた。海外10カ国から16人、県内から17人の中高生らが参加し、6泊7日で県内各地を巡る。

参加者を代表して、ポリビア沖縄県人会から県系3

「ウチナージュニアスタディー」の参加者=4日、県庁



世の玉城優美(ゆみ)さん(13)が「私たちが頑張れば沖縄の文化はいつまでも残る。たくさん学び、それぞれの国に持ち帰りたい」と抱負を語った。南風原高校3年の兼城賢翔(けんしよ

う)さん(18)は「支えてくれる関係者や両親に恩返しのつもりで思い切り楽しむ」と話した。  
海外から参加した学生は出身国の工芸品や酒などを県に贈った。



# 古里の歴史・文化学んだ

## ウチナージュニアスタディ



海外移住者子弟が県内の青少年と生活を共にし、古里沖繩を学ぶ県のウチナージュニアスタディ事業の報告会と修了式が9日、浦添市のJICA沖繩国際センターで開かれた。海外10カ国から15人が、県内から16人が参加。それぞれ歴史や平和などのテーマで学習成果を報告し、「これから

も沖繩の勉強を続ける」「沖繩のアイデンティティーをしっかりと持ちたい」などの行動計画を発表した。県が世界のウチナーンチユネットワークを担う次世代育成などを目的に実施し、今回が14回目。参加者は3日から9日まで、同センターに滞在した。糸満市のひめゆり平和祈念資料館で沖繩戦について学んだ

海外参加者には「ジュニア大使 認証状が、県内参加者には「修了証」が授与された「ウチナーンチジュニアスタディ」報告会および修了式は浦添市、JICA沖繩国際センター

統文化について講義を受け、互いの交流も深めた。母が那覇市出身というドイツから参加した内間未来さん(18)は「いっぱい大切なものを得られた。ウチナーンチユとしての自覚ができた」と感激の涙。県内から参加した南風原高校3年の兼城賢翔さん(18)は「将来は世界と沖繩の懸け橋になるような仕事にしたい」と目を輝かせていた。

1 週間の沖縄滞在で学んだことを発表する海外県系人と県内の学生ら＝9日、浦添市前田のJICA沖縄国際センター



## 県系・県内学生 沖縄学ふ

### ジュニア歴史、文化 共に スタディ

【浦添】海外県系人と県内学生らが交流を深める「2014年度ウチナージュニアスタディ事業」の報告会と修了式が9日、浦添市前田のJICA沖縄国際センターで開かれた。

同事業には海外県系人16人、県内学生ら17人が参加。3日から1週間、生活を共にしながら交流し、異文化理解を深めた。那覇市内の平和通りや公設市場、ひめゆり平和祈念資料館などを巡り、沖

縄の歴史や文化、移民史などを学んだ。報告会では各グループが取り組んだ「歴史」「社会」「伝統」「自然」「平和」「ネットワーク」のテーマに沿って、学習の成果や課題について発表し、意見を述べた。寸劇やスライド、動画など工夫を凝らした伝え方で会場を盛り上げた。平和グループは「私たちがきちんと沖縄の歴史を学び、次の世代へと伝えていきたい」と発表した。マレーシアから参加した福皇大結君(15)は「今回学んだ沖縄の歴史や文化を世界中に広めていきたい」と語った。県内から参加した興南高校3年の伊佐菜倫さん(17)は「世界と沖縄をつなげる人になりたい」と決意を込めた。





兼城 賢翔さん(18)

ジュニアスタディー  
事業参加で

ハイサイ

交流で視野広げる

○海外県系人との交流会「2014年度ウチナージュニアスタディー事業」に参加した南風原高3年生。事業は8月3日から1週間の日程で浦添市を中心に開かれ、ボリビアなど海外10カ国から集まった参加者と交流を深めた。

各国の歴史や文化の違いに触れ「考え方や価値観の違いに驚いた」と刺激を受けた。「言葉は通じなくても、コミュニケーションを取ることができた」と胸を張る。今回の経験を楽しかったで終わらず、他国の文化や考え方を柔軟に受け入れていけるよう視野を広げたい」と決意を込めた。(南風原)

# イータン君、親戚と初対面



石垣でたくさんさんの親戚と交流するジャクソン・イータン君 (後列左から5人目)  
|| 石垣市内

## 沖縄でルーツ・伝統学ぶ

### 米・アトランタ

【ルイス高江洲佳代子通信】ジャクソン・イータン君 (18) は7月27日から15日間、県主催のウチナー・ジュニアスタディーとホームステイのプログラムで沖縄の親戚と初めて対面した。那覇空港で親戚やプログラムの関係者の歓迎を受け、空港に着いた瞬間、出迎えた人の温かい愛情が伝わり感動を覚えたという。

子。石垣の親戚の多くと対面し、家族の絆を感じた。また、うるま市に住む松江さんの妹、富山悦子さん宅のホームステイでは北部の四つの島や水族館、首里城などの多くの観光地を案内してもらった。旧盆のウークイも体験し、祖先を大事にする沖縄の伝統を学ぶこともできた。

8月3日から始まったジュニアスタディーには、海外10カ国から15人と沖縄の高校生が参加。沖縄国際センターで沖縄の高校生と合宿活動。午前の授業で沖縄の自然・歴史・伝統工芸、平和、移民などについて学んだ。

イータン君は「中南米や他の国からの参加者も英語が上手で、沖縄の高校生とも英語が通じた。参加者全員がプラス思考で仲間意識が強く、大きな家族のような雰囲気だった。沖縄の高校生ほどの課題にも真剣に取り組んでいて学ぶ面が多かった」と振り返った。

社会見学で平和祈念公園を訪問、平和を願う気持ちになった。ガラス工場の見学や太鼓も体験。「沖縄の豊かな食文化も体験でき中でも沖縄ソバとタコライスは大好き」と将来、沖縄への留学も考えるようになった。帰国後も32人の仲間とメールで近況報告をするなど、交流は続いている。

ワールド通信 ネット



ポリビア

日本語力向上へ  
3世らお話大会

家族や学校に

【山城博明通信員】ポリビア日本語教育研究会(本多由美委員長)主催の「第24回お話大会」が10月4日、オキナワ日本ポリビア協会ホ



ルで行われた。

井上久美ポリビア日本語教育研究会副委員長は「生徒の多くが3世で、家庭内で日本語の会話が少なくなっている。お話大会は日本語の向上につながっている」と述べた。

在サンタクルス領事事務所植松聡参事官は「日本語が話せることがどんなに素晴らしいか日本に行った時に実感すると思う。頑張って勉強してほしい」と励ました。

発表は低学年の朗読の部、初等5年から中等2年生のお話の部に分かれ行われた。また、日本語を学ぶポリビア人の特別・普及クラスの生徒の発表もあった。

自身の体験や思いを日本語で語る児童生徒。コロンニアオキナワ・オキナワ日本ポリビア協会ホ

生徒たちは家族や学校生活、いろいろな行事に参加し感じたことなどを発表した。

オキナワ第一日ボ校の宮城幸子さん(13)は中等1年。オキナワ移住地が入植60年を迎えることができたのも、おじいちゃん、おばあちゃんたちが苦勞してすてきな移住地を残してくれたから。これから私たちが頑張ってもっと良い移住地にして大切にしていきたい」と感謝と抱負を話した。

また、ヌエバ・エスペランサ校の玉城優美さん(14)は中等2年。ジュニアスタディーツアーに参加して沖縄の海に感動し、琉球王国時代に中国と交流があったことに興味深いものを感じた。また、「自分たちがチナーチユだということとを再認識した」などを話した。

.....

.....

.....

.....

.....

## ウチナージュニアスタディー事業受け入れ実績

(1) これまでの海外参加者・引率者・青年リーダー内訳

★はウチナーンチュ大会開催年

○国別内訳

( ) 内は、平成23年度までは引率者の人数、平成24年度からは青年リーダーの人数

国名	年度	H13 ★	H14	H15	H16	H17	H18 ★	H19	H20	H21	H22	H23 ★	H24	H25	H26	計
ボリビア		4 (1)	2	2 (1)	2	2	4 (1)	2 (1)	1	1	1 (1)	3	1	2	3	30 (5)
ブラジル		8 (2)	3 (1)	3 (1)	3 (1)	3 (1)	6 (1)	3 (1)	3 (1)	3 (1)	3 (1)	2 (1)	3	3	2	48 (12)
うちカンボグラデ		2 (1)	1	1 (1)	1	1	2	1	1	1	1		1	1 (1)	1	15 (3)
アルゼンチン		4 (1)	2 (1)	2	2 (1)	2 (1)	3	2	2 (1)	2	2	3 (1)	1	3	2	32 (6)
ペルー		4 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	3 (1)	2 (1)	1	2 (1)	2	3	1	2	1 (1)	29 (9)
ベネズエラ		1 (1)														1 (1)
メキシコ		2 (1)					1			1	1	1	1	1	1	9 (1)
キューバ			1 (1)	1 (1)	1 (1)		1 (1)		1 (1)	1 (1)	1 (1)					7 (7)
フランス		1 (1)														1 (1)
イギリス		1 (1)				1 (1)	2					1				5 (2)
ドイツ		1 (1)						1			1 (1)		1		1	5 (2)
アメリカ		17 (4)	6 (2)	6 (4)	5 (1)	5 (1)	10 (2)	5 (1)	4 (1)	6 (1)	7 (1)	7 (1)	5 (1)	2	2	87 (20)
うちハワイ			2	2 (1)	1		1		1	1			1			9 (1)
うちグアム		1		1 (1)												2 (1)
カナダ		4 (2)	1 (1)	1	1	1	2	1	1	1	2	1	1	1	1	19 (3)
フィリピン		3 (1)	2 (1)	2 (1)	1	1	1	1								11 (3)
シンガポール			1 (1)													1 (1)
マレーシア							1		1			1			1	4
韓国			1 (1)												1	2 (1)
ニューカレドニア									1	1	1	1		1		5
計		50 (17)	20 (9)	19 (9)	17 (5)	17 (5)	34 (6)	17 (4)	15 (4)	18 (4)	21 (5)	23 (3)	14 (1)	15 (1)	15 (1)	295 (74)

○世代別内訳

※引率者、青年リーダーは含まない

国名	年度	H13 ★	H14	H15	H16	H17	H18 ★	H19	H20	H21	H22	H23 ★	H24	H25	H26	計
1世					1	2	1		1			1		1		7
2世		26	5	6	6	3	14	5	2	5	8	8	5	2	5	100
3世		21	8	10	8	9	13	8	5	8	7	8	4	6	7	122
4世		3	7	3	2	3	5	4	7	5	5	6	5	6	3	64
5世							1				1					2
計		50	20	19	17	17	34	17	15	18	21	23	14	15	15	295

○海外参加者の男女別内訳

※引率者、青年リーダーは含まない

国名	年度	H13 ★	H14	H15	H16	H17	H18 ★	H19	H20	H21	H22	H23 ★	H24	H25	H26	計
男子		30	9	5	7	6	15	6	4	6	9	10	6	6	6	125
女子		20	11	14	10	11	19	11	11	12	12	13	8	9	9	170
計		50	20	19	17	17	34	17	15	18	21	23	14	15	15	295

(2) これまでの県内・県外参加者内訳

★はウチナーンチュ大会開催年

○学生別内訳

※青年リーダーは含まない

国名	年度	H13 ★	H14	H15	H16	H17	H18 ★	H19	H20	H21	H22	H23 ★	H24	H25	H26	計
小学生		9														9
中学生		24	13	7	5	4	11	4	4	5	6	7	2	3	5	100
高校生		17	11	18	15	15	22	13	11	13	15	17	12	12	11	202
計		50	24	25	20	19	33	17	15	18	21	24	14	15	16	311

○県内・県外参加者の男女別内訳

※青年リーダーは含まない

国名	年度	H13 ★	H14	H15	H16	H17	H18 ★	H19	H20	H21	H22	H23 ★	H24	H25	H26	計
男子		15	6	4	4	5	7	3	3	4	3	4	2	3	3	66
女子		35	18	21	16	14	26	14	12	14	18	20	12	12	13	245
計		50	24	25	20	19	33	17	15	18	21	24	14	15	16	311



※本報告書の内容を許可なく複写・複製・転載・翻訳をすることを禁じます。

## 平成26年度「ウチナージュニアスタディー」事業実施報告書

### 沖縄県

＜受託者＞

平成26年度ウチナージュニアスタディー事業にかかる共同企業体

トップツアー株式会社

特定非営利活動法人万国津梁人財ネットワーク

公益社団法人青年海外協力協会

